

学習内容

令和7年度



福島看護専門学校

目 次

1. 科目の考え方（分野の設定理由・目標・科目の設定理由）	1
2. カリキュラムツリー	13
3. 進捗表	14
4. 先修条件	17
5. 実務経験のある教員等による授業科目	18
6. シラバス	

基礎分野

<u>科学的思考の基盤</u>		人間関係論	26
物理学	20	倫理学	27
ロジカル・ライティング	21	異文化コミュニケーション	28
看護と情報	22	ボランティア論	29
<u>人間と生活社会の理解</u>		レクリエーション論	30
くらしと社会	23	コミュニケーション論	31
心理学	24	プレゼンテーション論	32
看護・健康教育	25	プロジェクト学習	33

専門基礎分野

<u>人体の構造と機能</u>		病気とからだⅥ	43
解剖生理学Ⅰ	34	病気とからだⅦ	44
解剖生理学Ⅱ	35	病気とからだⅧ	45
生化学	36	治療論Ⅰ	46
<u>疾病の成り立ちと回復の促進</u>		治療論Ⅱ	47
微生物学	37	治療と看護	48
病気とからだⅠ	38	<u>社会保障制度と生活者の健康</u>	
病気とからだⅡ	39	総合医療論	49
病気とからだⅢ	40	地域保健論	50
病気とからだⅣ	41	地域を支える仕組み	51
病気とからだⅤ	42	法と看護	52

専門分野

<u>基礎看護学</u>		母性の生活を支える看護Ⅱ	81
基礎看護学概論Ⅰ	53	母性の生活を支える看護Ⅲ	82
基礎看護学概論Ⅱ	54	<u>精神看護学</u>	
基礎看護学概論Ⅲ	55	精神看護学概論	83
生活を支える技術Ⅰ	56	精神に障がいのある人の生活を支える看護Ⅰ	84
生活を支える技術Ⅱ	57	精神に障がいのある人の生活を支える看護Ⅱ	85
生活を支える技術Ⅲ	58	<u>健康状態別看護</u>	
生活を支える技術Ⅳ	59	健康回復支援論	86
生活を支える技術Ⅴ	60	看護展開	87
生活を支える技術Ⅵ	61	健康支援論	88
臨床判断する力Ⅰ	62	薬物療法と看護	89
臨床判断する力Ⅱ	63	周手術期と看護	90
<u>地域・在宅看護論</u>		終末期と看護	91
地域とくらし	64	<u>看護の統合と実践</u>	
地域コミュニティ論	65	看護管理	92
地域・在宅看護論概論	66	国際看護	93
地域・在宅での生活を支える看護Ⅰ	67	医療安全	94
地域・在宅での生活を支える看護Ⅱ	68	災害看護	95
<u>成人看護学</u>		リフレクション	96
成人看護学概論	69	<u>臨地実習</u>	
成人の生活を支える看護Ⅰ	70	基礎看護学実習Ⅰ	97
成人の生活を支える看護Ⅱ	71	基礎看護学実習Ⅱ	98
成人の生活を支える看護Ⅲ	72	地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅰ	99
<u>老年看護学</u>		地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅱ	100
老年看護学概論	73	成人の生活を支える看護実習Ⅰ	101
老年の生活を支える看護Ⅰ	74	成人の生活を支える看護実習Ⅱ	102
老年の生活を支える看護Ⅱ	75	老年の生活を支える看護実習	103
<u>小児看護学</u>		母性の生活を支える看護実習	104
小児看護学概論	76	小児の生活を支える看護実習Ⅰ	105
小児の生活を支える看護Ⅰ	77	小児の生活を支える看護実習Ⅱ	106
小児の生活を支える看護Ⅱ	78	精神に障がいのある人の生活を支える看護実習	107
<u>母性看護学</u>		看護の統合と実践実習Ⅰ	108
母性看護学概論	79	看護の統合と実践実習Ⅱ	109
母性の生活を支える看護Ⅰ	80	健康状態別看護実習	110

授業科目の考え方

1) 基礎分野

<設定理由>

看護の対象である人間は、唯一無二の存在であり、自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用を営む社会的存在である。基礎分野では、人間を幅広く理解するためにベースとなる諸科学を学ぶことが必要と考える。また、人間を取り巻く環境は時代と共に大きく変化しており、生活基盤にある社会の仕組みを知り、現代社会に求められる国際化・情報化に対応できる基礎的能力の育成に力を入れ、生活を支える看護実践に繋げる内容とする。さらに、看護は、人の健康に深く関わる職業であることから、生命の尊厳、多様な価値観の認識、人権の尊重について学ぶ内容とした。教育の対象者である学生の発達段階は、一人の人間として成長・成熟し人格を形成して行く途上にある。学生が、科学的思考力を高め感性豊かな人間として成長し、主体的に責任ある行動が取れるような学びができる科目内容が必要である。

以上のことから基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の習得に必要な知識と態度を養うと共に、豊かな人間関係として成長していける基盤を養う授業科目を設定した。科学的思考の基盤として物理学、言葉と文章及び看護と情報を設定した。人間と生活、社会の理解、として、くらしと社会生活、心理学、教育論、人間関係論、看護と倫理、異文化コミュニケーション論とした ICT を活用するための基礎的能力を養うためにプレゼンテーション論、プロジェクト学習を設定した。

目 標

1. 看護の対象である人間を生活者として理解する
2. 科学的思考能力を高め、論理的に物事を考え解決していくための基礎を学ぶ
3. 感性を磨き、人間を幅広く理解する
4. 豊かな人間性と倫理的態度を身につけるための基礎を学ぶ
5. 国際化・情報化社会に対応し活用できる能力を身につける
6. 状況に合わせて相手の価値観を理解しながら自分の意見を発言し、相手の立場になって表現を選んだり、価値観の異なる他人と協調したりしながら主体的に行動できる

科学的思考の基盤	科 目	物理学 (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	物理的現象に対する基礎的理論をもとに、日常生活に密着した物理学的基本原理・思考方法を理解し、医療や看護に必要な物理的基礎知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	ロジカル・ライティング (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	人と人との関わり生活していく中で、必要とされる言語能力の基礎を育成する。「話す・聞く・書く」といった内容も含め、自分の思いや考えを自分の言葉で相手に適切に伝えられる、また文章に表現する力を習得することを目的として設定した。
	科 目	看護と情報 (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	私たちの生活の中で IT 化が進み医療の現場においても欠かせないものになっている。看護師は、看護実践する上で科学的根拠にもとづき統計的データを解析する力や個人情報の保護など倫理観を持ち、情報を管理する力が求められる。情報に対する基礎的知識・情報処理方法を習得するために設定した。
人間と生活・社会の理解	科 目	くらしと社会 (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	私たちの暮らす社会の変遷と現代社会の成り立ち知り、社会的出来事や社会制度の目指すものと、そこに暮らす人々の生活や意識の変遷の様々な問題に気づくことで、今後の社会の動向に目を向ける機会とする。また社会の中で生活し構成する単位としての個人、家族、組織に関する理解を深め、社会の一員としての役割を考えることを目的として設定した。
	科 目	心理学 (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	看護の対象である人間の行動や思考の根底にある心を科学的に理解することにより、自己と他者への理解を深め、看護実践につながる力を修得することを目的として設定した。また精神障がいや心身症、不適応行動などの援助、回復、予防をするために基礎心理学の知識、人間に寄り添う臨床心理学の技能を習得することを目的として設定した。
	科 目	看護・健康教育 (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	教育の意義・学習の原理・評価は、自己啓発の基礎となる。看護において、対象に対する健康増進・保健指導（教育）活動などを通して人間を望ましい姿に変化させるために、心身両面にわたって、意図的、計画的に働きかける。知識の啓発、技能の教授、人間性の涵養（かんよう）などを図り、指導の基本になる基礎的知識を学び、看護場面に活かしていく目的として設定した。

人間と生活・社会の理解	科 目	人間関係論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	看護は、人間関係を基盤として成長するものである。人間の発達、パーソナリティ、社会行動、心の病とその対処などを通して、自己と他者、対人関係、社会生活についての理解を深めることが大切である。また看護を实践するうえで多職種の人々と協働する機会も多く、チームの一員として人間関係の重要性を認識し場面に応じた関係性を築いていく力を習得する目的で設定した。
	科 目	倫理学 (1単位 30時間)
	科目設定理由	近年の科学技術の発達は、医療現場を大きく変えると同時に複雑な問題を引き起こしている。それらは「生」とは、「死」とは、「生命」とは何かと言う根源的な問いに関わっていく。現代社会における倫理の諸問題を捉え、医療職としての倫理的思考・態度を習得する目的で設定した。
	科 目	異文化コミュニケーション (1単位 30時間)
	科目設定理由	グローバル化が進み文化や価値観が多様化しており、英語の読解力、表現力を高め、言語や異文化に対する関心を持つことが求められる。看護の立場で活用できる日常会話や国際社会に対応できるコミュニケーション能力を習得することを目的として設定した。
	科 目	ボランティア論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	ボランティアは、誰もが暮しやすい豊かな社会をめざして、さまざまな人や団体とつながり、ネットワークをつくりながら、社会の課題解決に自発的に取り組むことである。地域社会の現状を知り、福祉、教育、文化、芸術、スポーツ、環境、国際協力、まちづくり、人権など、幅広い分野で「市民」「行政」と連携・協働して課題解決する力を習得することを目的として設定した。
	科 目	レクリエーション論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	レクリエーションは、人が生活する上で、生活に楽しみをもたらす、気分を向上させ「はりあい」と「自信」を与え、心身の機能を回復させ継続的なコミュニケーションの機会を作る。心身の健康の必要性を理解し、健康の維持増進を図るための能力と技能を習得する。また、主体的に自己の健康管理ができることを目的として設定した。
	科 目	コミュニケーション論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	人間は双方が知っている情報を提供し合い、自分が知らなかった情報を吸収するためにコミュニケーションを取る。看護においても患者・家族・多職種との関係構築が重要である。看護場面において同僚や上司に対する報告・意見交換などコミュニケーションのほとんどがプレゼンテーションである。相手に自分の思考をわかりやすく伝え、対人コミュニケーションの理論と対人関係技法の基礎を学び、良好な人間関係を築くための力を習得する目的で設定した。
	科 目	プレゼンテーション論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	社会の情報化が進み、生活の場にも必要不可欠なものとなっている。ICT（情報通信技術）を活用して、情報活用能力を身に付け、情報社会に主体的に対応していく力を身に付ける。個別学習、協働学習を通して学習の効率化や人にわかりやすく伝える能力を習得する目的で設定した。
	科 目	プロジェクト学習 (1単位 15時間)
	科目設定理由	人が自己成長する手段として、目標を達成するための自分のあるべき姿や課題を考え、学習者がチームを組みゴールを共有し、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」の流れで取り組む。読み取る力・表現する力・自ら何かをなす力・自ら考える力・情報を見極める力・生きる力を習得することを目的として設定した。

2) 専門基礎分野

<設定理由>

看護は、あらゆる健康レベルの人々を対象として、人々がより良い健康状態に向かってその人らしく生活が営めるように、セルフケア能力を高めるための援助である。本分野において必要なことは、人体の構造や機能を系統的に理解するための基礎的知識及び医学的根拠を明確にして、看護実践ができるよう病気の成り立ちや回復の過程を理解するための知識であると考えた。また、人々が社会生活の中で社会資源を活用し、その人らしい生活が送れるよう援助するための基礎的知識が必要であることから、健康支援と社会保障制度を考え位置付けた。

専門基礎分野の内容は、看護にとって専門的であり、基礎的知識となるため系統的に考えることができるように興味をもたせる工夫を凝らすことが求められる。そのためには、教授方法が講義形式に偏ることの無いようグループ学習・プレゼンテーション・体験学習を採用した学習等を組み入れ、学生が主体的に学習できる場を設け、自ら考え行動し知識の整理と自学自習の習慣を身に付けさせることが必要である。

科目設定に当たっては、人体の構造と機能は、解剖生理学Ⅰ、Ⅱ及び生化学を設定した。疾病の成り立ちと回復の促進においては、微生物学、病気とからだⅠ～Ⅷ、治療論Ⅰ（栄養と生活・リハビリテーション）、治療論Ⅱ（薬理・放射線）、を設定した。健康支援と社会保障制度は、総合医療論、地域保健論、地域を支える社会のしくみ及び法と看護を設定した。

目 標

1. 人間を理解する基礎として人体の構造と機能を系統的に学ぶ
2. 疾病の成り立ちとその回復の過程を理解する
3. 法律や社会保障制度について学び、生活を支え、健康の維持・増進のための社会資源の活用方法を理解する

人体の構造と機能	科 目	解剖生理学Ⅰ (2単位 60時間)
	科目設定理由	人体の構造と機能は、健康・発達・加齢状態、病態の進行状態等を観察・判断するうえで不可欠な基礎知識である。これらの知識は看護において観察能力を高めると共に、専門分野の援助技術の基礎知識となるため解剖見学実習も含めて設定した。
	科 目	解剖生理学Ⅱ (1単位 30時間)
	科目設定理由	解剖生理学Ⅰに同じ 解剖見学実習を行い、実際自分の目で観て手で触れて一つひとつ確認し学びを深めるものとして設定した。
	科 目	生化学 (1単位 30時間)
	科目設定理由	生化学は、科学の視点から生命を解析し、生体を構成し物質・代謝・機能、および異常を分子レベルで捉え疾患の発症のメカニズムを理解する。生体内でのエネルギー獲得のしくみや生体の恒常性の維持に関連して、糖質、タンパク質、脂質などの代謝が有機的につながっていることを理解する。人体を構成する物質や、食物として摂取する物質が、どのように構成されて作られ壊されて、人体の恒常性がどのように保たれているのかを理解し、疾病との関連を習得する目的で設定した。
疾病の成り立ちと回復の促進	科 目	微生物学 (1単位 30時間)
	科目設定理由	微生物は、人が生活していく中で必要不可欠なものと害を及ぼすものがある。微生物とはどういうものなのかを理解し、人間にどのような病気をおこすのか、それに対してどのように対処すべきかを学び、医療従事者として感染制御の知識を習得するために設定した。
	科 目	病気とからだⅠ (病理学総論) (1単位 15時間)
	科目設定理由	正しい的確な看護を実践するためには、正常な人間の構造と機能を知るだけでなく、疾病の原因や経過について理解する必要がある。 特に疾病による形態的・機能的変化についてより詳しい知識を習得することを目的として設定した。解剖見学実習とあわせて、病理組織の展示物の見学や顕微鏡を使って病理組織の観察及びスケッチ等を行い理解を深める。
	科 目	病気とからだⅡ 呼吸器・循環器 (1単位 30時間) 病気とからだⅢ 消化器系 (1単位 15時間) 病気とからだⅣ 運動器系 (1単位 15時間) 病気とからだⅤ 脳神経 (1単位 15時間) 病気とからだⅥ 血液系・内分泌代謝系・アレルギー膠原病系 (1単位 30時間) 病気とからだⅦ 腎泌尿器・皮膚・女性生殖器系 (1単位 30時間) 病気とからだⅧ 歯・眼・耳鼻咽喉 (1単位 15時間)
	科目設定理由	解剖生理学の知識と症状や疾患の知識を一本化し、疾患を持った患者の身体において進行している生理的・病理的過程はどのようなものか、その結果、もたらされる状態はどのようなものかを習得する。また、疾患が患者の生命と生活にどのような影響を与えるのか把握し、科学的根拠に基づいた看護の実践の基礎知識を習得するために設定した。
	科 目	治療論Ⅰ (栄養と生活・リハビリテーション) (1単位 30時間)
	科目設定理由	人間の生体を維持するために必要な栄養の意義と各栄養素の働きについて理解する。以前は栄養補給が不十分で病気になる時代から、現代は摂取が過剰になっているために病気の引き金になっている時代である。そのため、社会構造の変化や人間の心理、価値観等々を考慮して、人々の健康に関与する栄養管理を行わなくてはならない。既習科目と関連させ個々の生活や健康状態に合わせた食生活の援助方法を学び、看護実践に活かすことを目的として調理実習も含めて設定した。リハビリテーションは単なる機能回復ではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」を目標に行われる。また、障害を治すだけではなく、障害を持ちながらも、よりよい人生を送ることができるよう、支援を行っていくことが重要である。1人ひとりに合った生活能力を獲得し、豊かな人生を送ることができるよう、対象の日常生活を整えセルフケア能力を高める援助技術を習得することを目的として設定した。また、多職種連携を促進するために、理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT) 及び言語聴覚士 (ST) を理解するために設定した。

疾病の成り立ちと回復の促進	科 目	治療論Ⅱ（放射線治療・薬理）（1単位 30時間）
	科目設定理由	看護師は最も患者に接する時間と機会が多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。薬物療法薬物の作用・効果・性質を理解し、薬物が生体に及ぼす影響や病態に応じた薬物療法のあり方を習得する目的で設定した。 関連科目：基礎看護学方法論（与薬）と健康状態別看護（薬物療法と看護） 患者は各種疾患の診断から治療まで様々な目的をもっている。看護師は放射線医療の現場では、診療放射線技師と共に、患者と接するのは医師よりも近い位置にいる。そのため、積極的に診療に参加できるように放射線取り扱いのための知識や患者の苦痛や不安を軽減できるように基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	治療と看護（1単位 30時間）
	科目設定理由	看護の主眼は、病気の時も健康な時も毎日繰り返される日常生活行動を支えることであり、医学的治療をしながらもその人らしい生活を送れるように援助することである。医療行為も含めてその人の今日の暮らしを支えるために、生命維持のための「恒常性維持」や生活行動をつくりだす「動き」など看護学の視点（生活行動からみるからだ）から、体と（解剖生理学）、病気と（病気とからだ）、治療を（病気とからだ、治療と看護）、看護実践とつなげて考える力を習得するために設定した。
社会保障制度と生活者の健康	科 目	総合医療論（2単位 30時間）
	科目設定理由	看護学の各教科を学ぶに先立ち、多様化する保健・医療・福祉の活動を把握し、医療現場で問われている様々な課題（倫理的課題も含む）や、医療とは何かを学ぶ。幅広い視野を持ち、現代や新時代に対応でき、求められる看護師を目指し、役割を理解することを目的として設定した。
	科 目	地域保健論（2単位 30時間）
	科目設定理由	公衆衛生の対象は「ひとり」ではなく「みんなの健康」である。看護の対象は、対象とその家族であり、友人やそして住む地域社会がある。看護の対象となる人を助けるためには社会の仕組みを知る必要がある。現代社会において生命を維持することに加えて、健康のみならず人々の生活あるいは人生の質をいかに高めるかに大きな価値が置かれている。看護師は、人々の生活する地域・職場・学校や社会全体の枠組みの中で広く健康や生活の質を考え多様な人々や組織の力を借り予防活動を実践することが求められる。看護師は患者・家族の生活の質や満足を高め、より良い医療を提供するための基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	地域を支える仕組み（1単位 30時間）
	科目設定理由	社会保険の理念と基本的な考え方を理解し、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉のしくみと課題を学ぶことを目的として設定した。
	科 目	法と看護（1単位 15時間）
	科目設定理由	保健・医療・福祉に関する諸制度の概容を理解し、看護職としての職責を正しく遂行するために必要な法規を学ぶことを目的として設定した。

3) 専門分野

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、健康状態別看護、看護の統合と実践から成る。

基礎看護学

<設定理由>

基礎看護学では、医療・看護の歴史を通して看護の概念や役割を理解し、保健・医療・福祉の中での位置づけや専門性を学び、自己の看護観を培っていく。また、看護介入に必要な基礎看護技術を科学的根拠に基づいて習得し、対象に合わせた日常生活の援助や診療の補助技術が実践できるようにする。臨床判断能力強化では、対象に必要な日常生活援助が考えられ、科学的根拠に基づき実践できるように、対象の健康状態を捉え、必要な援助を判断し、実践できる力を習得することを目的として設定した。

目 標

1. 看護の対象である人間の特徴と生活者としての人間を理解する
2. 保健・医療・福祉における看護の位置づけや看護の専門的機能と役割について理解する
3. 看護活動の基礎となる基本的看護技術を身につける
4. 科学的根拠に基づいて臨床判断するための看護が実践できる基礎的能力を養う

	科 目	基礎看護学概論Ⅰ（1単位 30時間）
	科目設定理由	看護学を履修する学生が最初に看護について考える科目である。看護の歴史的変遷や看護の諸理論、看護倫理を踏まえ、看護の基本的な概念「看護・人間・健康・社会(環境)」を考え、看護の位置づけと役割を理解し、看護学の豊かさ、深さを

基礎看護学		イメージし、関心を高め、各領域の看護学への学習意欲を發展させることを目的として設定した。
	科 目	基礎看護学概論Ⅱ(研究Ⅰ) (1単位 15時間)
	科目設定理由	看護師は社会状況の変化に合わせて学習し続ける使命を持った職業である。そのため日常の看護実践から生じる疑問や問題に対し、解決策を見出す方法を学習し身につける必要がある。臨地実習などを通して、看護における研究の必要性を理解し、研究活動に必要な基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	基礎看護学概論Ⅲ(研究Ⅱ) (1単位 15時間)
	科目設定理由	基礎看護学概論Ⅱ(看護研究Ⅰ)で習得した研究に必要な基礎的知識・技術を基盤に看護研究のプロセスを踏むことで、看護研究の実際を学ぶ。事例を取り上げ、問題解決のプロセス構築や倫理的思考を経て、自身の看護援助を振り返り、課題から得た“気づき”を、その後の自己研鑽に活用する力を習得することを目的で設定した。
	科 目	生活を支える技術Ⅰ(ヘルスアセスメント) (1単位 15時間)
	科目設定理由	看護師が対象の健康状態と日常生活との関連についてアセスメントすることは、看護実践において基本である。看護職として、必要な基礎的知識・技術・態度を習得すると共に、看護の対象である人間への理解を深めることを目的としている。看護に必要なとなる対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメント能力を習得する目的で設定した。
	科 目	生活を支える技術Ⅱ(フィジカルアセスメント) (1単位 30時間)
	科目設定理由	さまざまな健康レベルにある人に適切な看護を行うために、対象の身体の状態を診査する手技を獲得し、その経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、各手技を用いて対象に何が起きているのかをアセスメントするための知識・技術を習得する目的で設定した。
	科 目	生活を支える技術Ⅲ(生活環境・食べる・排泄) (1単位 30時間)
	科目設定理由	対象にとって病床は、治療の場であると同時に生活の場でもある。生活する上で安全・安楽・心地よさを伴わなければならない。人間の自然治癒力を高め、生命の維持、健康の保持増進、疾病の予防・回復のためにも生活環境を整えることは重要である。 食べることは、基本的欲求の一つであり生活していく上での楽しみの一つである。また、人間にとって、生命維持、健康の回復・保持・増進のために必要不可欠である。 排泄は、人間の健康を反映し、生命維持のために重要な役割を果たす。排泄行為は日常生活行動においてQOLを維持することへつながる。 人間にとって食べる、排泄することは生活をしていく中で重要なサイクルであるため、科学的根拠を持ち、対象に対して安全・安楽に援助するための基礎的知識と技術を習得することを目的として設定した。
	科 目	生活を支える技術Ⅳ(清潔・活動) (1単位 30時間)
	科目設定理由	身体の清潔を保つことは、人間の基本的欲求の一つである。生活していく上で、身体を清潔に保つことは、皮膚の生理的機能を正常に保ち、感染を予防し、爽快感や気分転換を与え関病意欲を高める。また、新陳代謝を促進し、機能回復につながる。対象とのスキンシップを図ることにより、コミュニケーションを深める機会ともなる。 生活をする上で活動と休息のバランスは大切である。適度な運動は、骨・筋肉・神経の発達を促し、関節拘縮・筋力低下予防につながり身体の生理的機能を促進する。また適度な疲労は良い睡眠を得る。ゆえに自力で清潔行動・活動ができない対象に対して安全・安楽に援助するための基礎的知識と援助技術を身に付ける必要があるため設定した。 人間にとって生活の安寧は、清潔を保持し、活動と休息のバランスを保つことであり、科学的根拠をもとに、対象に対して安全・安楽に援助するための基礎的知識と技術を習得することを目的として設定した。
	科 目	生活を支える技術Ⅴ(検査・治療、電法・包帯・穿刺・感染) (単位 30時間)
	科目設定理由	診療を受ける対象が安心し、納得して診断・治療が受けられるように、対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解した上で、的確な援助技術と思いやりをもって対応する姿勢を持つことが重要となる。また、科学的根拠をもとに、対象に対して安全・安楽に援助するための基礎的知識と技術を習得することを目的として設定した。
	科 目	生活を支える技術Ⅵ(与薬) (1単位 15時間)
	科目設定理由	薬物療法における看護師の役割を理解し、対象の健康の維持・増進・回復に向けた与薬時の援助に必要な基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。科学的根拠をもとに、対象に対して一つひとつの行為に立ち止まり確認しながら、安全・安楽に援助するための基礎的知識と技術を習得することを目的として設定した。
	科 目	臨床判断する力Ⅰ(1単位 45時間)
	科目設定理由	看護を実践するうえで、生態機能学や薬理学などで学んだ専門的知識を活用し、目の前の対象の異常に気づき、今後の予測も含めて判断する「気づき」「解釈」「反

基礎看護学		応」が大切になる。また看護実践した成果を解釈し、「省察」していくことが大切である。この繰り返しの経験が、臨床判断能力を育成する目的で設定した。シミュレーション実習を取り入れ、実践した内容をリフレクションし、臨床判断能力の強化を図る実践教育とする。
	科 目	臨床判断する力Ⅱ (1単位 45時間)
	科目設定理由	臨床実習での経験をふまえ専門的知識を活用し、目の前の対象の異常に気づき、今後の予測も含めて判断する「気づき」「解釈」「反応」を「評価」・「省察」し、今後の実習につなげる。この繰り返しの経験が、臨床判断能力を育成する目的として設定した。シミュレーション実習を取り入れ、実践した内容をリフレクションし、臨床判断能力の強化を図る実践教育とする。
	科 目	基礎看護学実習Ⅰ (1単位 45時間)
	科目設定理由	対象を取り巻く環境を知り、初めての臨床の場での対象と接して、看護師と共に行動し、看護師の役割を知る。また、見学や体験を通して、看護に対する興味や関心を持たせ、その後の学習の動機づけとなることを目的として設定した。
	科 目	基礎看護学実習Ⅱ (2単位 90時間)
	科目設定理由	対象に合った看護援助を実践するために、看護過程を通して対象の発達段階や健康レベルを学ぶ。

地域・在宅看護論

＜設定理由＞

これまでの在宅看護論においては、療養生活を送る人々とその家族を対象としていたが、社会の変化により、現在は超高齢社会、少子社会、生産年齢人口の減少、多死社会などの社会背景があり、公助、共助の限界がある。そのため療養生活を送る人だけでなく、地域で暮らす人すべてが共に在ることを学ぶ必要がある。

地域・在宅看護論では、地域で暮らす人々すべてを看護の対象で自助・互助を支援することやその拠点として地域を理解し、地域包括ケアシステム等の促進、地域に暮らす人々とのパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する力を習得することを目的として設定した。

目 標

1. 人々が生活する地域を理解する
2. 暮らし（生まれてから死ぬまで、人生や価値観なども含む）の基盤となる概念を理解する
3. 地域で提供する看護を理解する
4. 地域包括ケアシステムを理解し、多職種の連携やその中における看護の役割を理解する

地域・在宅看護論	科 目	地域とくらし (2単位 30時間)
	科目設定理由	自分自身の生活している地域を知り、地域の生活する場を理解する。地域に出向くことで地域の特性や人々のくらしを肌で感じることができ、この地域の課題は何か人々に必要な支援は何か、活用できる資源は何か、など地域の視点を持ち、住み慣れた地域で安全・安楽に生活できるように支援するための基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	地域コミュニティ論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	現在は核家族化が進み、地域の中での触れ合いが希薄となっており学生自身が「自助」「互助」を体験する機会が少なくなっている。人々が自身の健康とくらしを守るため互いに助け合い、互いに支えあって生活を営んでいることを理解する。地域で生活する人のくらしとつながり、さらに看護職として「共助」を活用し、支援する基礎的能力を習得することを目的として設定した。
	科 目	在宅看護論概論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	在宅療養者とその家族や生活支援を要する人々の多様なニーズに対応し、QOLを維持・向上させることを目的とした看護活動の必要性を理解し、保険・医療・福祉を統合した包括的ケアの一翼を担う看護の役割と在宅ケアシステムの知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	地域・在宅での生活を支える看護Ⅰ (1単位 30時間)
	科目設定理由	対象理解によるアセスメントを基に看護師が提供する日常生活援助と在宅リハビリテーションを学ぶことを目的とし、事例を取り入れ在宅看護援助技術を習得する目的で演習形式の教育内容として設定した。
	科 目	地域・在宅での生活を支える看護Ⅱ (1単位 30時間)
	科目設定理由	在宅看護を支える訪問看護師の役割を学び、在宅看護活動の実践例から多様な対象へのニーズに基づく生活支援方法を学ぶことを目的として設定した。

科 目	地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅰ（1単位 45時間）
科目設定理由	治療を受けながらも地域で生活し続ける人々とその家族の、健康と暮らしを支える看護を習得するために設定した。
科 目	地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅱ（2単位 90時間）
科目設定理由	在宅療養している対象とその家族の健康と暮らしを支援するために、地域包括ケアシステムを理解し、必要な看護を提供する能力を習得するために設定した。

成人看護学

<設定理由>

成人期はライフサイクルの中で一番長い期間であり、対象とする「成人」とは、身体的および精神・社会的に成長・成熟した人、すなわち「大人」である。また、この時期は社会的役割も持ち、時には困難を経験知としながら、さらなる課題に立ち向かい社会の一員として生活している。現在は社会の変化もめまぐるしく、生産年齢である対象は健康状態や健康問題も複雑かつ多様化している。健康生活を多角的に捉える視点を持ち、多様な健康状態や健康問題に対応する援助を習得する目的で設定した

目 標

1. 対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する
2. 対象の健康上の問題を現代社会の変化や成人の疾病構造の変化の視点から理解する
3. 対象を取り巻く環境や生活背景を捉え、対象の持つ能力に着目した援助について学ぶ
4. 対象の個性に応じた健康障害の諸問題を把握し、予防・回復に向け、対象の健康レベルに応じた援助方法を学ぶ
5. 対象の発達段階と役割を考えながら個性に応じた看護の実践ができるようにする

成人看護学	科 目	成人看護学概論（1単位 15時間）
	科目設定理由	成人期は青年期から向老期にかけてライフサイクルの中で最も長い時期であり、対象が抱える役割も大きい。ライフステージの中で経験を積みながら成長し、自己のみならず家族や取り巻く人々の生活を支える上で能力を発揮する。時代の変化による価値観の多様化や生活習慣の変化から健康をおびやかす要因が増加し、健康な生活が破綻する。セルフケア能力を活かし、自己の健康管理をしていくための基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	成人の生活を支える看護Ⅰ（1単位 30時間） 危機的状況にある人の看護（呼吸・循環・栄養）
	科目設定理由	生命の危機など状態の変化が著しく、危機的状況にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を捉え健康問題に対して医学的基礎知識と看護の既習知識を活かしながら、科学的根拠をもとに健康問題を抽出し、対象の状態に応じた看護援助を習得することを目的として設定した。
	科 目	成人の生活を支える看護Ⅱ（1単位 30時間） 障害受容期にある人の看護（感覚・脳神経・運動）
	科目設定理由	健康状態に急激な変化を受け回復的な段階や障害を受容する状態にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、健康問題に対して医学的基礎知識と看護の既習知識を活かしながら、科学的根拠をもとに健康問題を抽出し、対象の生活の変化に応じた看護援助を習得することを目的として設定した。
	科 目	成人の生活を支える看護Ⅲ（1単位 30時間） セルフケア期にある人の看護（内部環境調節・代謝・生体防御）
	科目設定理由	健康障害と生活を共にする上で、病気と共存しながら、新たな生活を確立し、その人にとっての健康的な生活を送ることを目標とし、セルフマネジメントできる力を手にいれることが重要である。対象の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、健康問題に対して医学的基礎知識と看護の既習知識を活かしながら、科学的根拠をもとに健康問題を抽出し、対象の生活を維持するための看護援助を習得することを目的として設定した。
	科 目	成人の生活を支える看護実習Ⅰ（2単位 90時間）急性期
	科目設定理由	急性期は健康状態の急激な変化があり、生態がその変化に対応するため様々な反応がおこる時期である。急性疾患患者は軽微なものから生命にかかわるものまであり、患者にとっての苦痛は多大なものである。また予期していなかった家庭生活、社会生活への影響も大きく、患者や家族にとっては人生における重大な危機である。ゆえに生命維持レベルのセルフケアへの支援は急性期に起こりうる問題を推測・判断し、ひとり一人の状況に応じた安全で正確な観察や測定技術の技術を学ぶ目的で設定した。
成人看護学	科 目	成人の生活を支える看護実習Ⅱ（2単位 90時間）慢性期・終末期・急性期以外
	科目設定理由	急性期を脱した対象は何らかの疾患と障害を抱えながら家庭生活、社会生活を送り、折り合いをつけながら自分らしく生きていく時期である。対象が地域で自分らしく暮らすことを視野に置き、チームでゴールを共有し、対象が主体的にセルフマネジメントできるよう支援する方法を習得することを目的として設定した。

老年看護学

<設定理由>

発達段階の最終段階である老年期は、人生の完成を目指し、いずれは穏やかに幸せな死を迎える段階である。住み慣れた場所で最期までその人らしい生き方ができるよう、人生を振り返り対象の価値観を知り、尊重することが重要である。高齢者の人権を守り、高齢者と家族の置かれている状況を捉え、個別性をふまえて、高齢者の生活を支えるための基礎的知識を学ぶ。

高齢者は加齢により身体的特徴も変化し、また健康問題は複雑で長期化しやすい。これらを抱えながらも地域で生活している対象を理解し、老年期にある対象とその家族を支える援助を習得する目的で設定した。

目 標

1. 加齢による身体的・精神的・社会的変化の特徴が理解できる
2. 高齢者の健康と生活の多様性が理解できる
3. 高齢者の健康の保持・増進および QOL 向上のために必要な看護を学ぶ
4. 高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる
5. 高齢者を取り巻く家族や地域の支援システムを理解する（多職種）
6. 高齢者の人権と倫理的問題の現状と課題を理解する

老年看護学	科 目	老年看護学概論（1 単位 30 時間）
	科目設定理由	老年期は、ライフサイクルの最終ステージであり、人生の完成を目指し、いずれは穏やかに幸せな死を迎える段階である。「老い」を理解し、高齢者の生活史に関心を持ち、人権を守り、高齢者と家族の置かれている状況を捉え、個別性をふまえた高齢者の生活を支えるための基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	老年の生活を支える看護Ⅰ（1 単位 30 時間）
	科目設定理由	高齢者の健康問題の特徴や健康を支える看護を理解する。健康問題を生活機能の視点から捉え、残存機能を引き出し QOL を保ちながら日常生活援助に必要な基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	老年の生活を支える看護Ⅱ（1 単位 30 時間）
	科目設定理由	超高齢社会において、地域で生活していくためには保健医療福祉制度の基礎的知識と多職種の連携が必要となる。高齢者の特徴を踏まえ、人権を尊重した援助・技術を学ぶ。高齢者の人権を守り、高齢者と家族の置かれている状況を捉え、保健・医療・福祉分野における看護師の役割を習得する目的で設定した。
	科 目	老年の生活を支える看護実習（2 単位 90 時間）
	科目設定理由	老年看護の対象は疾病を持ち、障がいと共に生きる人、人生の終末を迎える人など様々な健康レベルにある高齢者である。高齢者の生活史、価値観、健康状態等を理解し、生活に焦点をあて「人生の最終ステージ」をその人らしく過ごせるよう、高齢者を支える家族も含めた看護を学ぶ。

小児看護学

<設定理由>

子どもは成長・発達し成熟に向けて常に変化する存在であり、年齢や健康レベルにかかわらず、権利を有する一人の人間として尊重される。子どもの権利を尊重し、健やかな成長・発達、健康の保持・増進を支えることは看護の責務である。また、家族は子どもが初めて属する集団であり、小児看護の対象は子どもとその家族である。少子高齢社会、情報社会など子どもを取り巻く環境が大きく変化している。子どもを中心に家族・多職種・地域と連携しながら、子どもにとっての最善の利益を考え、豊かな人生を歩むことができるよう支援することが求められる。

小児看護学では、子どもの成長・発達を理解し、健康の保持・増進を促すための看護について理解する。また、健康問題のある子どもと家族が生活、療養するために必要な看護と成長発達段階に応じた安全・安楽な看護技術について学ぶことを目的として設定した。

目 標

1. 子どもの成長発達段階と子どもを取り巻く環境について理解する
2. 子どもの権利の尊重について理解する
3. 子どもを取り巻く保健・医療・福祉の動向について理解する
4. 子どもの健康の保持・増進、回復を促すための看護について理解する
5. 健康問題のある子どもと家族が生活・療養するために必要な看護を理解する
6. 子どもの成長発達段階に応じた安全・安楽な看護技術について理解し援助技術を学ぶ

小児看護学	科 目	小児看護学概論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	子どもは成長発達し、成熟に向けて常に変化する存在であり、年齢や健康レベルに関わらず、権利を有する主体的な存在である。子どもの権利と成長発達段階について理解し、子どもと家族がおかれている環境をさまざまな視点から捉え、健やかな成長・発達と健康の保持・増進、回復を促すための看護の基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	小児の生活を支える看護Ⅰ (1単位 30時間)
	科目設定理由	健康問題のある子どもの疾患・治療の特徴を理解する。子どもと家族の生活を支え、健康レベルに応じた看護援助を習得する。子どもの成長発達段階に応じた看護が実践できる基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	小児の生活を支える看護Ⅱ (1単位 30時間)
	科目設定理由	健康問題のある子どもと家族が生活するために必要な看護の知識と、子どもの権利を尊重し成長発達段階に応じた安全・安楽な看護技術を習得することを目的として設定した。
	科 目	小児の生活を支える看護実習Ⅰ (1単位 45時間)
	科目設定理由	健康な子どもの成長発達と生活環境を理解し、小児の成長を促すための援助を学ぶことを目的として設定した。
小児看護学	科 目	小児の生活を支える看護実習Ⅱ (1単位 45時間)
	科目設定理由	健康問題のある子どもとその家族を理解し、成長発達段階及び対象に応じた看護を学ぶことを目的として設定した。

母性看護学

<設定理由>

母性看護学は人々の健康を、性と生殖に関する側面から捉え看護の必要性を考える領域である。女性のライフサイクル全体を通して、健康の維持・増進・疾病予防を目的とし、次世代の育成を目指すため、女性・子ども・その家族の生命・人権を尊重し、その人なりの健康生活を支える実践科学である。近年、女性のライフサイクルにおいて、価値観、家族形態が多様化し様々な健康問題が生じている。また生殖補助医療技術の進歩は目覚ましく先端医療の恩恵を受ける女性が増加していることで、生命倫理上の問題や女性の心身への負担など健康面に大きな影響を受けている。そのため、人が生きていくために必要不可欠なセクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの概念及びヘルスプロモーションを理解し、性と生殖における基本的な考え方を学ぶ必要がある。また母性看護の歴知的変遷や母子保健統計から看護職の役割や母性領域における今後の課題を理解することを目的とし設定した。

目 標

1. 母性領域における対象の特徴を理解し、母性看護の意義と役割を学ぶ
2. 対象を取り巻く社会情勢を理解し、母性看護の役割や今後の課題を理解する
3. 女性のライフサイクルにおける発達課題とそれに伴う健康問題を理解する
4. リプロダクティブヘルス/ライツの概念から人間の性と生殖について理解する
5. 周産期における母子および家族の健康維持を促すため、ウェルネス思考による看護の展開方法を学ぶ
6. 生命の誕生から命の尊さについて考え、自己の母性観・父性観を深める

母性看護学	科 目	母性看護学概論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	母性とは何かを探究し、性と生殖に関する問題と今後の課題を知り、その上で歴知的変遷や母子保健統計から看護職の役割を理解する。また女性のライフサイクル各期における健康と、次世代の育成を支えるため、母性看護の基盤となる概念を習得することを目的とし設定した。
	科 目	母性の生活を支える看護Ⅰ (1単位 30時間)
	科目設定理由	妊娠は生理的現象であり、妊娠の成立など生殖に関する健康問題にも視野を広げ理解する必要がある。妊娠期は妊娠週数に応じた身体的、精神的、社会的変化をウェルネス思考の視点で捉えることが重要となり、また胎児の発育も同時に捉えていくことが求められている。そのため妊娠期の正常な経過を理解し、母子とその家族に看護実践するための知識・技術を習得する目的で設定した。
母性看護学	科 目	母性の生活を支える看護Ⅱ (1単位 15時間)
	科目設定理由	分娩期は分娩の経過に伴う身体的、精神的、社会的変化をウェルネス思考の視点で捉えることが重要となり、また胎児の健康状態も同時に捉えていくことが求められている。そのため分娩期の正常な経過を理解し、母子とその家族に看護実践するための知識・技術を習得する目的で設定した。

母性看護学	科 目	母性の生活を支える看護Ⅲ (1単位 30時間)
	科目設定理由	産褥期は分娩を終えた母体の身体的変化をウェルネス思考の視点で捉えることが重要となり、また新生児の成長・発達も同時に捉えていくことが求められている。さらに子どもが誕生することで、母親・父親役割の獲得や家族関係の再構築など子どもを迎えた褥婦、家族の心理・社会的な変化を捉えることが重要となる。産褥期、新生児期の正常な経過を理解し、母子とその家族に看護実践するための知識・技術を習得する目的で設定した。
	科 目	母性の生活を支える看護実習 (2単位 90時間)
	科目設定理由	周産期における看護実践を通じ、妊産褥婦及び新生児とその家族の全体像を捉える視点を理解する。また産褥期、新生児における経日的変化を捉え、地域での生活が安心できるよう先を見据えた看護実践能力を習得する目的で設定した。

精神看護学

＜設定理由＞

人間は現代社会における過大なストレスを抱えながらも、それぞれのライフサイクルにおける発達課題を達成し社会生活を送っている。しかし、その中では人間関係が希薄になり、「人と人との関わりにくさ」、「生きにくさ」を感じながら生活している。このような社会的環境は様々な「こころの病」の原因の一つとなっており、こころの健康はその人の「生活の質」に大きく影響する。

精神看護学は、すべてのライフサイクルにおける精神的発達および精神の健康保持・増進とともに精神に障がいがある人をありのままに受け止めて生活を支援していく。そのため、精神に障がいをもちながらも、その人らしい生活を継続し、住み慣れた地域で生活するための看護援助を習得する目的で設定した。

目 標

1. 人のすべてのライフサイクルにおける精神の健康発達および精神の健康に及ぼす要因について理解することができる
2. 人間の健康を身体的・心理的・社会的な視点から捉えたうえで、精神に障がいがある対象の健康問題を理解する
3. 精神に障がいがあることにより引き起こされる日常生活への影響について、理解する
4. 精神に障がいがある対象のセルフケア向上に向けて必要な看護援助を学ぶ
5. 精神に障がいをもちながらこころの健康を保ち、地域で生活するための社会復帰に向けた取り組みや精神保健医療福祉チームとの連携の必要性を理解する

精神看護学	科 目	精神看護学概論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	人間のこころの健康は生活を構成する一つで、その人の「生活の質」に大きく影響しており、生活していく上でこころの健康と安定を保つことが必要とされる。現代社会における過大なストレスの中でバランスを崩し、「人と人との関わりにくさ」、「生きにくさ」を感じながら生活している人の特徴を理解する必要がある。既習知識を用いて、こころの病を引き起こす要因や倫理的配慮・精神看護に関する法律などを理解し、住み慣れた地域でその人らしい生活を維持するための基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	精神に障がいのある人の生活を支えるⅠ (1単位 30時間)
	科目設定理由	精神障がいに関連する主要な概念、症状、治療、経過を理解し、対象がその人らしい生活ができるよう基礎的知識を習得し援助に活かすことを目的として設定した。
	科 目	精神に障がいのある人の生活を支えるⅡ (1単位 30時間)
	科目設定理由	こころの健康は生活の場に影響を与えることを理解し、健全な精神の発達への支援と精神機能に障がいのある対象および家族への援助に必要な基礎的知識・技術を習得することを目的として設定した。
	科 目	精神に障がいのある人の生活を支える看護実習 (2単位 90時間)
	科目設定理由	人々の精神の健康保持・増進と疾病予防への援助活動を理解し、さらに精神に障がいがある人及び家族への理解が必要である。その上で、地域での生活に視野を置き、自立に向けたセルフケア向上への援助及び多職種との連携の必要性について習得することを目的として設定した。

健康状態別看護

< 設定理由 >

健康状態別看護は、前カリキュラムを評価した時に専門領域において重複や共通する内容を科目ごとに教授したため、領域横断科目として設定した。健康状態別看護には、健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復への促進、その人らしい生を全うする援助、また、すべてに共通し科学的根拠を持ち健康問題や課題を明確にする思考過程を学ぶ必要がある。教授形式は講義形式だけではなく、シミュレーションを用いての演習を通して、実践につなげられる内容とする。

健康状態別看護実習では、対象それぞれの健康状態を把握し、その状態に必要な看護を学生が気づき、実践できる方法を学ぶ。また、この実習では臨床判断を行うための基礎的能力を養うためにリフレクションを重視し、経験→省察→理論の順序で行う。

健康状態別看護	科 目	健康回復支援論 (2単位 45時間)
	科目設定理由	あらゆる健康レベルにある対象の身体的・心理的・社会的側面を捉え、具体的な症状を用いながら症状のメカニズムを基盤に、アセスメントの視点や看護援助の根拠が理解できるように設定した。また、シミュレーションを活用した演習を通し疾患の理解をはじめ必要な看護が考えられ、援助を実践できるように PBL を取り入れ学生が主体的に学び答えを導き出せるような内容とした。
	科 目	看護展開 (1単位 30時間)
	科目設定理由	看護の対象は様々であるが、対象となる人がその人らしく生きることを支援することが看護の目的の一つである。このような目的や機能をもった看護を具体的に実践するための方法論の1つが看護過程である。看護過程を学ぶことでクリティカルシンキング能力を高めることにもなり、患者の安全・安楽、身体的・精神的な早期回復や個別性のある看護援助を提供できる。基準や根拠に基づいて物事を考える基本的知識を学び、対象にとって必要な援助を見極め、計画的に展開し行った援助の結果を客観的に評価する過程を学ぶために設定した。
	科 目	健康支援論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	現代は疾病からの回復だけでなく、予防と健康づくりの視点が看護職に求められている。また少子超高齢社会となり年齢構成の変化やあらゆる健康レベルにある対象が混在している。 さらに人々の健康への関心は高くなり健康への価値観も変化している。こうした社会情勢や健康観の変化の中で看護者はあらゆる世代・個人・集団に焦点を当て、看護の対象者が健康に生きていく力を持てるようにはたらきかけなければならない。そのため看護における健康支援活動の基本的知識を習得するために設定した。
	科 目	薬物療法と看護 (1単位 30時間)
	科目設定理由	看護師は与薬の最終実施者でもあり、薬物治療に関して高度で幅広い知識が求められる。与薬は看護介入の一つでもあり患者の安全を担保する必要もある。そのため、臨床薬理学で学ぶ知識を基に、与薬に関する幅広い知識と治療効果の判定と副作用の早期発見、服薬アドヒアランスの向上、在宅医療への対応など看護の視点から薬物療法を学べるように設定した。
	科 目	周手術期と看護 (1単位 30時間)
	科目設定理由	人間にとって手術体験は、大小問わず非日常的な体験であり、侵襲も大きい。さらに、手術後に予測される疼痛などが日常生活に制限をもたらし、ボディイメージの変化、体力の低下や合併症治療など不安や恐怖の要因は多種多様である。こうした手術患者に対して、状態の変化に気づき、対応する力や侵襲が小さく個別的な援助を学べるように設定した。
健康状態別看護	科 目	終末期と看護 (1単位 30時間)
	科目設定理由	超高齢社会・多死社会の現代を理解し、健康問題や老いにより死を迎える状態にある対象やその家族を総合的に捉え、緩和ケアや尊厳ある看取りを理解するために設定した。住みなれた地域でその人らしい暮らしを最期まで続けることができるような終末期看護を学ぶ。対象はがん患者だけでなく難病を含む多くの慢性疾患の患者、小児・高齢者など多岐にわたる。
	科 目	健康状態別看護実習 (2単位 90時間)
健康状態別看護	科目設定理由	健康状態別看護実習では病気の経過や発達段階に合わせた看護を見学・実践する。見学・実践したその場・その時の看護からなぜ対象に必要な援助であったのか、科学的根拠を明確にし、臨床判断を行うための基礎的能力を習得するために設定した。

看護の統合と実践

<設定理由>

看護の統合と実践では看護を行う上で必要不可欠な、看護の対象となる人々の生活の場や医療の場における安全を守るルールや援助方法、多職種連携における看護師の役割を理解する。既習の知識・技術・態度を統合し、既習の知識を積み重ねつつ、看護を実践する能力を高める目的で設定した。

看護の統合と実践は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野で学んだ機種の知識・技術を引き出し研究的な視点を持って統合し、より実践する能力を高めることを目的として設定した。

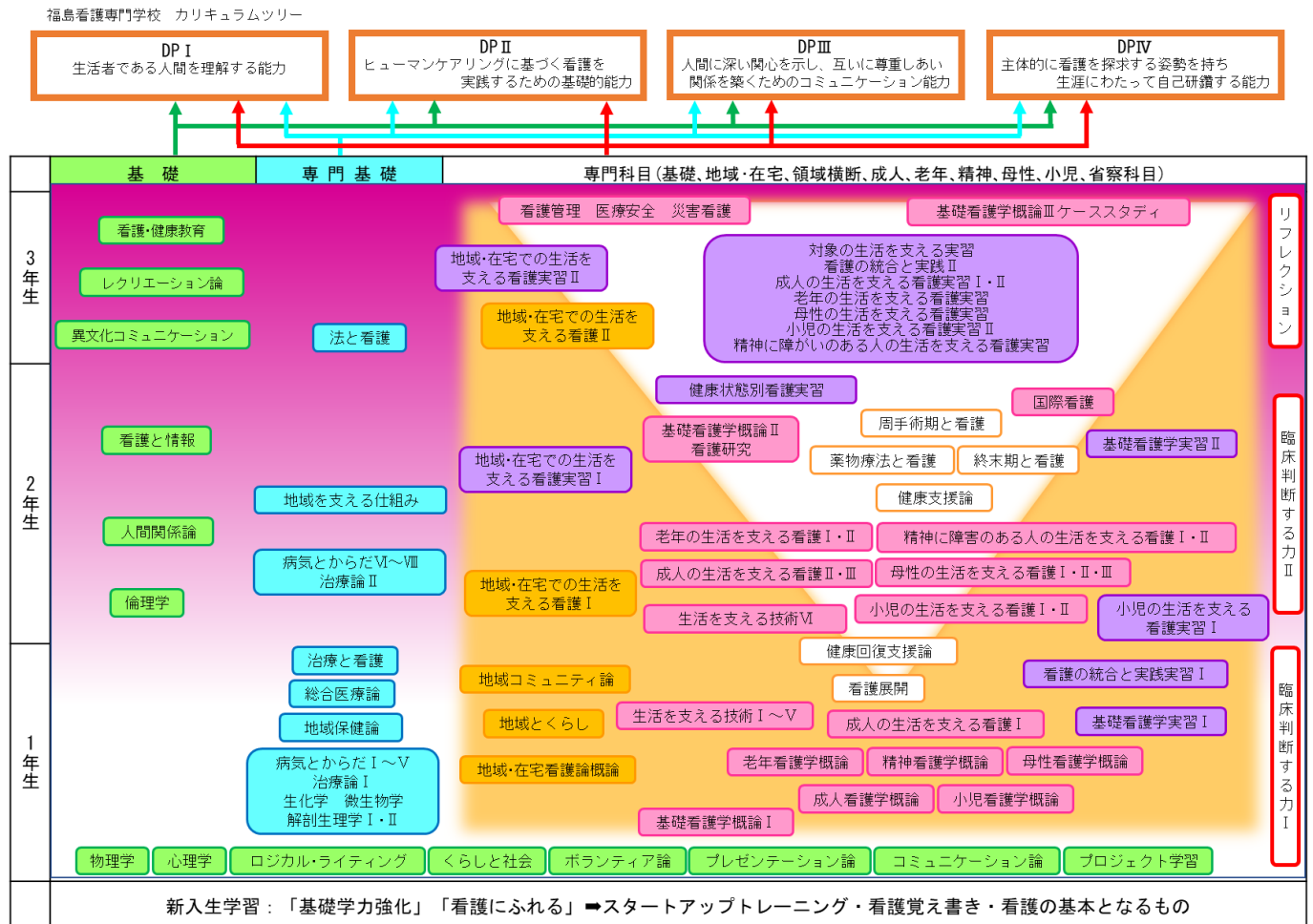
目 標

1. 地域で生活している人を知る
2. 組織の中の看護師の役割を理解し看護管理の基礎的知識を習得する（目標 1・3・5 入れた）
3. チーム医療及び多職種協働の中で看護師としてのメンバーシップを学ぶ
4. 国際社会において広い視野に基づき、看護師としての諸外国との協力の必要性を考察する
5. 災害における看護の基礎的知識を学び、災害時の看護師の役割を理解する
6. 複数の事例を通して知識技術の統合と、総合的な判断を学び対象の状態に応じた看護を実践する能力を身に着ける
7. 自己のキャリアを形成し、学び続ける姿勢を持つことができる

看護の統合と実践	科 目	看護管理（1単位 30時間）
	科目設定理由	看護において管理の概念や知識は、看護管理者だけに必要なものではなく、業務を行う上で、責任を持つすべての看護職に必要な概念として捉える。看護師は「医療」と「生活の」両方に視点を持ち、質の高い看護サービスを提供するために全体をマネジメントする能力が求められる。また、チーム医療及び多職種との協働・連携の中でリーダーシップ・メンバーシップを理解し、看護をマネジメントする基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	国際看護（1単位 15時間）
	科目設定理由	国際看護および国際保健に関わる国際機関の役割と機能、社会的・経済的な諸問題に焦点をあて、その多様性を学ぶ。グローバルな環境課題や問題が及ぼす人々の健康への影響と国際看護の役割と支援方法を学ぶ。グループワークにより実際の健康問題や環境問題等について学ぶ。また、国際保健医療活動のしくみについて学ぶために、実際の支援内容について聞き、理解を深めることを目的として設定した。
	科 目	医療安全（1単位 30時間）
	科目設定理由	臨床場面で変化する対象に組織として患者の状況に応じて判断し、より安全に看護を実践できるように事例分析や事故発生シミュレーション演習を取り入れ、リスクを判断する必要性を理解させる教育内容とした。ここでは知識・技術の統合をはかり看護の実践とそれを評価する。
	科 目	災害看護（1単位 15時間）
	科目設定理由	震災や風水害等が多くみられる今日、状況に応じて臨機応変に対応できる柔軟性や被害を受けた対象とその家族と人間関係を築く能力を習得し、緊急時に対応できる技術や災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくする活動を通して災害時における看護の役割が考えられることが求められている。そこで災害に対する基礎的知識及び災害時の問題を知り、被災者の抱える身体・心理・社会的な問題、看護の果たす役割について専門職看護師に求められている人々の健康と生活の向上に向けた社会への支援として、災害医療、災害看護に関する基礎的知識と技術の理解を深めることを目的とし設定した。
	科 目	リフレクション（1単位 15時間）
	科目設定理由	講義・実習・演習の学びを統合し、その経験全体を振り返り、自己の行動、思考を言語化し、その時の判断について再考する。根拠の裏付けや意味付けをすることで、看護実践能力を高める力を習得することを目的として設定した。
	科 目	看護の統合と実践実習Ⅰ（1単位 45時間） 看護の統合と実践実習Ⅱ（2単位 90時間）
	科目設定理由	看護の統合と実践実習Ⅰでは、サービスや支援を受けながらも地域で療養・生活している対象を理解し、看護の統合と実践実習Ⅱではチーム医療における一員として医療・保健・福祉との連携を踏まえて、チーム医療に参加しメンバーシップ及びリーダーシップとしての役割や多職種との連携・協働を学び、援助の優先順位を考え安全に看護を実践することを目標とする。

カリキュラムツリー

本校は、福島県県北地域をはじめとする広く地域社会に暮らす人々に必要とされ、将来にわたり、倫理観を備え、探求心を持ち自ら判断し行動できる看護の専門職業人を育成するためカリキュラムを構築した。



3年間の学びをベースに1年生から3年生になり専門的知識や看護実践力が身に付くためにグーデーションで表した。専門分野は各領域を全体的に捉え学習する進度をふまえて配列している。また、すべてに共通する科目を健康状態別看護（領域横断科目）として末広がりに表示した。

縦軸には学びを積み上げ1年から3年と学年進行を示した。横軸は基礎分野から専門分野までを示した。

初めに人間を理解し人間関係の形成を深めるカリキュラムとして基礎分野を配置し幅広く多種多様な考え方を3年間にわたり学ぶことができるようにした。専門基礎分野は医療や看護の基礎となる知識を1年から3年まで段階的に学び専門分野とも関連付けて学べるようにした。専門分野は、看護実践力を育成するため、学生が段階的・主体的に学んでいけるように講義だけでなく演習等も入れて編成した。看護の場は、病院や施設だけでなく、看護の対象の希望する地域に向けた支援が必要となっている。そのため、1年次より、地域に暮らす人々の理解が深められるように科目を配置した。また、すべてに共通する科目を健康状態別看護として6科目と1実習を配置した。

授業科目		単位	時間	1学年		2学年		3学年		単元名	時間	講師	第1学年（令和6年度）												第2学年（令和7年度）												第3学年（令和8年度）											
				単位	時間	単位	時間	単位	時間				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基礎分野	科学的思考の基盤	3	90	2	60	1	30				90																																					
	物理学	1	30	1	30						30	吉田 宏	2×15																																			
	ロジカル・ライティング	1	30	1	30						30	五十嵐 敦			2×15																																	
	看護と情報	1	30			1	30				30	篠田 伸夫					2×15																															
	人間と生活・社会の理解	11	270	6	135	2	60	3	75		285																																					
	くらしと社会	1	30	1	30						30	牧田 実	2×15																																			
	心理学	1	30	1	30						30	五十嵐 敦	2×15																																			
	人間関係論	1	30			1	30				30	牧田 実							2×15																													
	看護・健康教育	1	30					1	30		15	古閑 隆史									2×7.5																											
	倫理学	1	30			1	30				15	田島・野地・園分									2×7.5																											
	異文化コミュニケーション	1	30					1	30		30	五十嵐 敦					2×15																															
	ボランティア論	1	15	1	15						15	田川 寛之									2×15																											
	プロジェクト学習	1	15	1	15						15	スコット寿美子									2×15																											
	小 計	14	360	8	180	3	90	3	90		360																																					
専門基礎分野	人体の構造と機能	4	120	4	120					120																																						
	解剖生理学Ⅰ	2	60	2	60					60	神 百代	4×15																																				
	解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30					30	神 百代			2×15																																		
	生化学	1	30	1	30					30	関赤 正幸	2×15																																				
	疾病の成り立ちと回復の促進	12	285	8	180	4	105			285																																						
	微生物学	1	30	1	30					30	宮崎 希	2×15																																				
	病気とからだⅠ	1	15	1	15				病理学総論	15	神 百代			2×7.5																																		
	病気とからだⅡ	1	30	1	30				呼吸器系	15	佐藤 俊			2×7.5																																		
	病気とからだⅢ	1	15	1	15				循環器系	15	猪狩 次雄			2×7.5																																		
	病気とからだⅣ	1	15	1	15				消化器系	15	茂木 精雄			2×7.5																																		
	病気とからだⅤ	1	15	1	15				運動器系	15	菊池 一郎			2×7.5																																		
	病気とからだⅥ	1	15	1	15				脳神経系	9	市川 俊寛					2×4.5																																
	病気とからだⅦ	1	30			1	30		血液系	6	中村 耕一郎					2×3																																
	病気とからだⅧ	1	30					内分泌・代謝系	10	木村 秀夫							2×5																															
	病気とからだⅨ	1	15			1	15		アレルギー・膠原病系	14	茂木 精雄							2×7																														
	病気とからだⅩ	1	30			1	30		腎・泌尿器系	6	小林 浩子							2×3																														
	病気とからだⅪ	1	30					皮膚	15	熊谷 研							2×7.5																															
	病気とからだⅫ	1	30					女性生殖器官	5	松村 奈津子							2×2.5																															
	病気とからだⅬ	1	15			1	15		歯	4	矢澤 美穂子							2×2																														
	治療Ⅰ	1	30	1	30				眼	6	野口 まゆみ							2×3																														
	治療Ⅱ	1	30			1	30		耳鼻咽喉	5	松本 朝徳							2×2.5																														
	治療Ⅲ	1	30						栄養と生活	5	竹田 洋介							2×2.5																														
	治療Ⅳ	1	30						リハビリテーション	5	鈴木 知子							2×2.5																														
	治療Ⅴ	1	30						放射線治療	15	岡部 朋子	2×7.5																																				
	治療Ⅵ	1	30						薬理	15	佐藤 飛鳥	2×7.5																																				
	治療Ⅶ	1	30	1	30				薬理	6	星野 俊明							2×3																														
	治療Ⅷ	1	30	1	30				薬理	24	山口 聡							2×12																														
	治療Ⅸ	1	30	1	30				薬理	30	知子・留美	2×15																																				
	社会保険制度と生活者の健康	6	105	4	60	1	30	1	15		105																																					
	総合医療論	2	30	2	30					15	井上 仁			2×7.5																																		
地域保健論	2	30	2	30					15	嶋原りつ子			2×7.5																																			
地域を支える仕組み	1	30			1	30			4	小谷 尚克							2×2																															
法と看護	1	15					1	15	6	増石 有佑							2×3																															
小 計	22	510	16	360	5	135	1	15		510																																						

[illegible]

	授業科目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		単元名	時間	講師	第1学年（令和6年度）												第2学年（令和7年度）												第3学年（令和8年度）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
				単位	時間	単位	時間	単位	時間																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
													4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
専門分野	母性看護学	5	90	1	15	3	75				90																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	母性看護学概論	1	15	1	15					概論	15	後藤 香織																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	母性の生活を支える看護Ⅰ	1	30			1	30			妊娠期	4 6 20	吳竹 昭治 大和田 真人 後藤 香織																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

各分野から健康状態別看護（領域横断）へ	健康回復支援論	看護展開	健康支援論	薬物療法と看護	周手術期と看護	終末期と看護
地域・在宅看護論から1単位	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2
成人看護学から2単位	0.5	0.3	0.3		0.6	0.2
老年看護学から1単位	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2
小児看護学から1単位	0.3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2
母性看護学から1単位	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1
精神看護学から1単位	0.2	0.2	0.1	0.3	0.1	0.1
単位（時間）	2単位（45時間）	1単位（30時間）	1単位（30時間）	1単位（30時間）	1単位（30時間）	1単位（30時間）

先修条件

指定された科目を履修するためには、その科目の履修前に単位修得すべき科目があるため、注意が必要。

科 目	先 修 条 件
基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学概論Ⅰを修得していること 生活を支える技術Ⅰ～Ⅵを修得していること 臨床判断する力Ⅰ・Ⅱを修得していること 基礎看護学実習Ⅰを修得していること
成人の生活を支える看護実習Ⅰ・Ⅱ	成人看護学概論を修得していること 成人の生活を支える看護Ⅰ～Ⅲを修得していること
老年の生活を支える看護実習	老年看護学概論を修得していること 老年の生活を支える看護Ⅰ・Ⅱを修得していること
母性の生活を支える看護実習	母性看護学概論を修得していること 母性の生活を支える看護Ⅰ～Ⅲを修得していること
小児の生活を支える看護実習Ⅰ	小児看護学概論を修得していること 小児の生活を支える看護Ⅰ・Ⅱを修得していること
小児の生活を支える看護実習Ⅱ	小児看護学概論を修得していること 小児の生活を支える看護Ⅰ・Ⅱを修得していること 小児の生活を支える看護実習Ⅰを修得していること
精神に障がいのある人の 生活を支える看護実習	精神看護学概論を修得していること 精神に障がいのある人の生活を支える看護Ⅰ・Ⅱを 修得していること
看護の統合と実践実習Ⅱ	看護の統合と実践実習Ⅰを修得していること 1年次・2年次の看護実習を修得していること

実務経験のある教員等による授業科目

実務経験を有する教員による授業科目の一覧は以下の通りです

令和7年度入学 19期生

No.1

分野	科目（単元）	単位	講師	時間	担当 学年	講師資格	所属 ※【】内は以前の所属
専門基礎分野	病気とからだⅠ（病理学総論）	1	神 百代	15	1	看護師	(株)インターメディカルラボ 【自衛隊仙台病院】
	病気とからだⅡ（呼吸器系）	1	佐藤 俊	15	1	医師	スリープ呼吸器内科クリニック
	病気とからだⅡ（循環器系）		猪狩 次雄	15		医師	福島県立医科大学大学 健康管理センター
	病気とからだⅢ（消化器系）	1	茂木 積雄	15	1	医師	JCHO 二本松病院
	病気とからだⅣ（運動器系）	1	菊池 一郎	15	1	医師	公立藤田総合病院
	病気とからだⅤ（脳神経系）	1	市川 優寛	9	1	医師	福島県立医科大学
			中村 耕一郎	6		医師	福島赤十字病院（神経内科）
	病気とからだⅥ（血液系）	1	木村 秀夫	10	2	医師	北福島医療センター
	病気とからだⅥ（内分泌・代謝系）		茂木 積雄	14		医師	JCHO 二本松病院
	病気とからだⅥ（アレルギー・膠原病系）	1	小林 浩子	6	2	医師	南福島クリニック
	病気とからだⅦ（腎・泌尿器系）		熊谷 研	15		医師	福島腎泌尿器クリニック
	病気とからだⅦ（皮膚）		松村 奈津子	5		医師	木村内科・皮フ科
			矢澤 美穂子	4		医師	やざわみほコレディースクリニック
			野口 まゆみ	6		医師	西口クリニック婦人科
	病気とからだⅦ（女性生殖器系）		松本 朝徳	5	2	歯科医師	セントラル歯科クリニック
	病気とからだⅧ（歯）	竹田 洋介	5	医師		竹田眼科クリニック	
	病気とからだⅧ（眼）	1	鈴木 知子	5	2	医師	済生会福島総合病院
	病気とからだⅧ（耳鼻咽喉）		岡部 朋子	15		栄養士	【竹田総合病院】
	治療論Ⅰ（栄養と生活）	1	佐藤 飛鳥	15	1	理学療法士	あづま脳神経外科病院
	治療論Ⅰ（リハビリテーション）		星野 俊明	6		医師	しのぶ病院
	治療論Ⅱ（放射線治療）	1	山口 聡	24	2	薬剤師	北福島医療センター
	治療論Ⅱ（薬理）		佐藤 知子	15		看護師	学内専任教員
	治療と看護	1	渡邊 留美	15	1	看護師	学内専任教員
			井上 仁	15		医師	済生会福島総合病院
	総合医療論	2	嶋原 りつ子	15	1	看護師	学内専任教員
			大戸 和子	30		看護師	学内専任教員
専門分野	基礎看護学概論Ⅰ（概論）	1	太田 操	15	2	看護師	長岡崇徳大学 【福島県立医科大学】
	基礎看護学概論Ⅱ（研究Ⅰ）	1	氏家 芳枝	15	3	看護師	学内専任教員
	基礎看護学概論Ⅲ（看護研究Ⅱ）	1	嶋原 りつ子	15	1	看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅰ（ヘルスアセスメント）	1	高城 久充子	30	1	看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1	佐藤 知子	10	1	看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅲ（生活環境）		佐藤 春奈	10		看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅲ（食べる）	1	佐藤 春奈	10	1	看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅲ（排泄）		氏家 芳枝	15		看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅳ（清潔）	1	後藤 香織	15	1	看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅳ（活動）		氏家 芳枝	18		看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅴ（検査・穿刺・治療）	1	嶋原 りつ子	6	1	看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅴ（電法・包帯）		佐藤 知子	6		看護師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅴ（感染）	1	氏家 芳枝	15	2	保健師	学内専任教員
	生活を支える技術Ⅵ（与薬）	1	佐藤 香	45	1	看護師	学内専任教員
	臨床を判断する力Ⅰ		渡邊 留美			看護師	学内専任教員
	臨床を判断する力Ⅱ	1	佐藤 春奈	45	2	看護師	学内専任教員
			佐藤 香			看護師	学内専任教員
	臨床を判断する力Ⅱ	1	渡邊 留美	45	2	看護師	学内専任教員
	臨床を判断する力Ⅱ		佐藤 春奈			看護師	学内専任教員
	地域とくらし	2	日下部 ひとみ	30	1	看護師	学内専任教員
	地域・在宅看護論概論（概論）	1	畠山 とも子	15	1	看護師	【福島県立医科大学】
	地域・在宅での生活を支える看護Ⅰ	1	北村 理恵	30	2	看護師	ひまわり訪問看護ステーション
	地域・在宅での生活を支える看護Ⅱ	1	渡部 典美	16	3	保健師	きらり健康生活協同組合
			飯田 佳奈子	14		看護師	訪問看護ステーションしみず
	成人看護学概論（概論）	1	佐藤 知子	15	1	看護師	学内専任教員
	成人の生活を支える看護Ⅰ（呼吸）	1	今野 暁子	10	1	看護師	福島赤十字病院（呼吸器外科）
成人の生活を支える看護Ⅰ（循環）	鈴木 安英		10	看護師		福島赤十字病院 （脳神経外科・内科）	
成人の生活を支える看護Ⅰ（栄養）	1	佐藤 知子	10	2	看護師	学内専任教員	
成人の生活を支える看護Ⅱ（感覚）		佐々木 駿輔	10		看護師	大原総合病院（耳鼻科眼科など）	
成人の生活を支える看護Ⅱ（脳神経）	1	大内 由里子	10	2	看護師	ケアフォーラムあづま	
成人の生活を支える看護Ⅱ（運動）		五十嵐 奈美子	10		看護師	公立藤田総合病院	
成人の生活を支える看護Ⅲ（内部環境調節）	1	茂木 光代	10	2	看護師	郡山女子大学 【福島県立医科大学附属病院】	
成人の生活を支える看護Ⅲ（代謝）		幕田 香	10		看護師	大原総合病院	
成人の生活を支える看護Ⅲ（生体防御）	1	日下部 ひとみ	10	2	看護師	学内専任教員	
成人の生活を支える看護Ⅲ（生体防御）		日下部 ひとみ	10		看護師	学内専任教員	

実務経験のある教員等による授業科目

実務経験を有する教員による授業科目の一覧は以下の通りです

令和7年度入学 19期生

No.2

分野	科目(単元)	単位	講師	時間	担当学年	講師資格	所属 ※【】内は以前の所属
専門分野	老年看護学概論(概論)	1	日下部 ひとみ	30	1	看護師	学内専任教員
	老年の生活を支える看護Ⅰ (健康障害医療福祉)	1	茂木 光代	30	2	看護師	郡山女子大学 【福島県立医科大学附属病院】
	老年の生活を支える看護Ⅱ (健康・医療・福祉制度の理解)	1	森 美樹	8	2	社会福祉士	伊達市保原地域包括支援センター
			八巻 桂子	10		看護師	済生会福島総合病院
			松本 美幸	12		看護師	済生会福島総合病院
	小児看護学概論(概論)	1	茂木 光代	10	1	看護師	郡山女子大学 【福島県立医科大学附属病院】
			山下 敦子	20		保健師	桜の聖母短期大学
	小児の生活を支える看護Ⅰ (健康障害)	1	鈴木 順造	14	2	医師	福島県保健衛生協会
			弓削田 英知	8		医師	福島赤十字病院(小児科)
			氏家 二郎	8		医師	赤十字血液センター顧問・嘱託医師 【国立病院機構福島病院】
	小児の生活を支える看護Ⅱ (小児看護技術)	1	高城 久充子	20	2	看護師	学内専任教員
			高橋 真弓	10		看護師	大原総合病院(小児科)
	母性看護学概論(概論)	1	後藤 香織	15	1	助産師	学内専任教員
	母性の生活を支える看護Ⅰ(妊娠期)	1	呉竹 昭治	4	2	医師	アートクリニック産婦人科
			大和田 真人	6		医師	JCHO 二本松病院
			後藤 香織	20		助産師	学内専任教員
	母性の生活を支える看護Ⅱ(分娩期)	1	大和田 真人	6	2	医師	JCHO 二本松病院
			中村 留美	5		助産師	福島赤十字病院
			赤井 みゆき	4		助産師	福島赤十字病院
	母性の生活を支える看護Ⅲ (産褥期・新生児期)	1	大和田 真人	6	2	医師	JCHO 二本松病院
			後藤 香織	24		助産師	学内専任教員
	精神看護学概論(概論)	1	齋藤 有美	30	1	看護師	清水病院(精神科・心療内科)
	精神に障害のある人の 生活を支える看護Ⅰ(精神障害)	1	星野 仁彦	15	2	医師	福島学院大学
			八巻 高教	15		看護師	清水病院(精神科・心療内科)
	精神に障害のある人の 生活を支える看護Ⅱ(精神看護)	1	高橋 尚平	30	2	看護師	清水病院(精神科・心療内科)
	健康回復支援論	2	高城 久充子	45	1	看護師	学内専任教員
	看護展開	1	佐藤 香	30	1	看護師	学内専任教員
	健康支援論	1	渡邊 留美	30	2	看護師	学内専任教員
	薬物療法と看護	1	佐藤 知子	30	2	看護師	学内専任教員
	周手術期と看護	1	佐藤 香	30	2	看護師	学内専任教員
			佐藤 春奈			看護師	学内専任教員
	終末期と看護	1	嶋原 りつ子	30	2	看護師	学内専任教員
	看護管理	1	大戸 和子	12	3	看護師	学内専任教員
			車田 真美	18		看護師	福島赤十字病院
	国際看護	1	渡邊 一代	15	2	助産師	福島学院大学【福島県立医科大学】
	医療安全	1	大戸 和子	5	3	看護師	学内専任教員
			佐藤 香	10		看護師	学内専任教員
			奈良輪 弘美	15		看護師	福島赤十字病院
	災害看護	1	武田 里美	8	3	看護師	福島赤十字病院
			國分 花子	7		看護師	福島赤十字病院
	リフレクション	1	日下部 ひとみ	15	3	看護師	学内専任教員
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		45	1	看護師	学内専任教員
	基礎看護学実習Ⅱ	2		90	2	看護師	学内専任教員
	地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅰ	1		45	2	看護師	学内専任教員
	地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅱ	2		90	3	看護師	学内専任教員
	成人の生活を支える看護実習Ⅰ	2		90	3	看護師	学内専任教員
	成人の生活を支える看護実習Ⅱ	2		90	3	看護師	学内専任教員
	老年の生活を支える看護実習	2		90	3	看護師	学内専任教員
	母性の生活を支える看護実習	2		90	3	看護師	学内専任教員
	小児の生活を支える看護実習Ⅰ	1		45	2	看護師	学内専任教員
	小児の生活を支える看護実習Ⅱ	1		45	3	看護師	学内専任教員
	精神に障害のある人の 生活を支える看護実習	2		90	3	看護師	学内専任教員
	看護の統合と実践実習Ⅰ	1		45	1	看護師	学内専任教員
	看護の統合と実践実習Ⅱ	2		90	3	看護師	学内専任教員
	健康状態別看護実習	2		90	2	看護師	学内専任教員

実務経験のある教員等による授業科目 単位数合計 81 単位

基礎分野	科 目	物理学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	1 年次 前期
担当講師	吉田 宏 大学准教授（物理学）			
授業目標	本授業では以下を目標とする ①力学の原理・法則が、より安全で楽な姿勢・動作を可能にするための技術「ボディメカニクス」として、看護の現場でいかに応用されているか説明できる。 ②「圧力」に関する基本的な法則が、ドレナージや点滴や血圧測定等の医療現場でどのように生かされているか説明できる。 ③授業全体を通して様々な量を扱うことによって、数量的な感覚を身につける。			
回	内 容			方法
1	単位			講義
2	力、ベクトルとスカラー、ベクトルの合成と分解			講義
3	運動の法則、摩擦力			講義
4	トルク、テコの原理			講義
5	体の中のテコ			講義
6	腰を曲げるときの腰の負担、力学的安定			講義
7	仕事とエネルギー			講義
8	運動量と衝撃力			講義
9	ボディメカニクス			講義
10	圧力			講義
11	中間試験、体が圧力でつぶれないのは			講義
12	気体の法則、呼吸の物理、ドレナージ			講義
13	サイホンの原理、流れの物理			講義
14	点滴の物理			講義
15	血圧測定の物理			講義
テキスト	完全版 ベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学-（学研）※isho.jp			
参考文献 参考書等	看護学生のための物理学第4版（医学書院） ベッドサイドに生かす単位・量・数式のはなし（Gakken）			
評価方法	筆記試験（中間試験・本試験の結果より100点満点で評価）			
履修上の アドバイス	質問は大歓迎です。質問をして、解らなかったことを1つ1つ理解していきましょう。授業で学んだ物理の知恵を医療現場の中で生かせるような学習にしてほしいと考えています。			

基礎分野	科 目	ロジカル・ライティング	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師	五十嵐 敦 大学名誉教授(発達心理学・職業心理学)・教育学修士			
授業目標	(1)意見文(小論文)がどのような文章であるかを理解することができるようになる。(2)意見文において、「話題」「主張」「理由」「説明」という四要素がどのような役割を担うのかを理解することができるようになる。(3)与えられた問いに対して、四要素を用いて、読み手が理解できる意見文、ないしは、読み手から尊重される意見文を書くことができるようになる。			
回	内 容			方法
1	イントロダクション：意見、意見文、意見文を書く理由について理解する			講義
2	第2章：意見文のつくり1			講義
3	第2章：意見文のつくり2			講義
4	第3章：話題と主張を書く1			講義
5	第3章：話題と主張を書く2			講義
6	第4章：理由を書く1			講義
7	第4章：理由を書く2			講義
8	第4章：理由を書く3			講義
9	第5章：説明を書く1			講義
10	第5章：説明を書く2			講義
11	第5章：説明を書く3			講義
12	第6章：意見文をチェックする1			講義
13	第6章：意見文をチェックする2			講義
14	第6章：意見文をチェックする3			講義
15	これまでのまとめ、他(予定)			講義
テキスト	『はじめよう、ロジカル・ライティング』名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校 国語科(編)(ひつじ書房)			
参考文献 参考書等	『「科学的思考」のレッスン』戸田山和久(著)、NHK 出版			
評価方法	課題、試験(100点満点で評価)。評価基準は「授業目標」への達成度とします。			
履修上の アドバイス	学んだことを整理して理解し、知識や技術として定着させる復習を重視することを勧めます。また、論理的な文章の作成法は広い分野に適用可能ですので、この講義で学んだことを、他の科目の提出物の作成などに活かしてみることも勧めます。			

基礎分野	科 目	看護と情報	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期
担当講師	篠田 伸夫 大学教授（共生システム理工学類）			
授業目標	コンピュータ活用に必要な知識として、情報の表現および処理方法・情報セキュリティの考え方について学ぶ。後半では看護に関連した資料を題材にしてデータ処理の覚え方および操作方法について学習する。			
回	内 容			方法
1	コンピュータとは			講義
2	情報の符号化			講義
3	パスワードとセキュリティ			講義
4	表計算の基礎（1）基本操作			講義
5	表計算の基礎（2）セルの番地			講義
6	表計算の基礎（3）カレンダー作成			講義
7	表計算の基礎（4）表とグラフ（1）表とグラフの種類			講義
8	表計算の基礎（5）表とグラフ（2）グラフの適切な表現			講義
9	表計算の基礎（6）グラフと式・関数			講義
10	表計算の基礎（7）統計（1）記述統計の覚え方			講義
11	表計算の基礎（8）統計（2）代表値			講義
12	表計算の基礎（9）統計（3）散布度			講義
13	表計算の基礎（10）統計（4）二変数の統計：相関と回帰			講義
14	表計算の基礎（11）統計（5）二変数の統計：連関とクロス集計			講義
15	表計算の基礎（12）統計（6）まとめ			講義
テキスト	適宜資料を配布			
参考文献 参考書等	適宜資料を配布			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	積極的にコンピュータの操作・動作確認をしながら受講することが望ましい。			

基礎分野	科 目	くらしと社会	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	1 年次 前期
担当講師	牧田 実 大学教授（人間発達文化学類）・学術修士			
授業目標	社会学の視角から「くらし」をとりまく現代社会の特質と病理を論じ、人々のくらしと医療・看護をめぐる今日的な問題にアプローチする			
回	内 容			方法
1	くらしと社会の基礎理論～地域社会（コミュニティ）とはなにか			講義
2	くらしと社会病理（1）～近代社会と自殺			講義
3	くらしと社会病理（2）～現代日本の自殺			講義
4	くらしと社会病理（3）～人間と自由			講義
5	くらしと社会病理（4）～自由からの逃走			講義
6	くらしと社会病理（5）～人間と孤独			講義
7	くらしと社会病理（6）～孤独な群衆			講義
8	くらしを捉える視点（1）～潜在的機能			講義
9	くらしを捉える視点（2）～予言の自己成就			講義
10	くらしと医療・看護（1）～近代西洋医学の功罪			講義
11	くらしと医療・看護（2）～病気と死の臨床社会学			講義
12	くらしと医療・看護（3）～生命倫理を考える			講義
13	くらしと医療・看護（4）～患者の権利			講義
14	くらしと医療・看護（5）～医療・看護のイデオロギー			講義
15	まとめとふりかえり			講義
テキスト	適宜資料の配布			
参考文献 参考書等	看護学生のための日本看護史（医学書院） 系統看護学講座 社会学（医学書院）※eテキスト			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	人間の「くらし」は机上ではなく、現実の社会にあり、みなさんの日常とともにあります。授業で学んだ視点で自分のくらしを見つめ直してみることが大切です。			

基礎分野	科 目	心理学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	1 年次 前期
担当講師	五十嵐 敦 大学名誉教授(発達心理学・職業心理学)・教育学修士			
授業目標	人間行動の諸特性について、行動科学としての心理学の基礎を学ぶ。特に、健康や医療看護との関連から心理的メカニズムについて取り上げる。			
回	内 容			方法
1	心理学とは、心理を理解することとは、感覚			講義
2	感覚と知覚の心理			講義
3	学習と記憶の心理			講義
4	記憶と関係諸要因、感情との関係			講義
5	感情・動機・要求・欲求の心理			講義
6	性格の心理			講義
7	性格の成熟と知的機能、創造性			講義
8	発達の心理-乳幼児期・児童期-			講義
9	発達の心理-青年期～高齢者-			講義
10	発達と社会・集団			講義
11	社会・集団の心理-社会的スキル・集団心理-			講義
12	患者の理解、看護職者の理解			講義
13	臨床心理学の基礎と心理アセスメント			講義
14	カウンセリングと心理療法			講義
15	認知行動療法、家族療法、行動科学まとめ			講義
テキスト	看護学生のための心理学（医学書院）			
参考文献 参考書等	よくわかる心理学（ミネルヴァ書房） 心理学で何がわかるか（ちくま新書）			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	身近なわたしたちの生活行動を様々な角度から考えられるように、各種データや情報のとらえ方を大切にすること。			

基礎分野	科 目	看護・健康教育	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名			時期	3 年次 前期
担当講師 実務経験 (時間)	古関 隆史 田島 一樹 野地 静香 國分 朋子	高等学校教諭一種 心不全看護認定看護師 がん化学療法認定看護師 看護師	県立高校・看護学校 校長 (15 時間) 総合病院 14 年 (5 時間) 総合病院 22 年 (5 時間) 総合病院 21 年 (5 時間)	
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療看護に従事する者として身につけたい「教育原理」と「一般教養」について学ぶこと。15 時間の講義を集中して受講し、「自ら考える授業」を目標とする。 ・患者や家族への生活・退院指導を通して、臨床での実践へ結びつける。 ・がん薬物療法における患者教育について理解し、教育対象によって異なる指導方法やその特徴を捉えることができる。 ・糖尿病の病態生理を理解し、自己管理教育に必要な知識・技術・態度を学び、指導方法を考えることができる。 			
回	内 容			方法 講師
1	「教育論」を学ぶ意義			講義 古関
2	人間の成長と教育の意義			講義 古関
3	家庭教育の持つ意味			講義 古関
4	社会教育の持つ意味			講義 古関
5	学校教育の持つ意味			講義 古関
6	教育の目的「自分の目指す看護師像」			講義 古関
7	学習指導と生活指導			講義 古関
7.5	まとめ 教育評価 (45 分)			講義 古関
1	患者・家族教育とは			講義 田島
2	多職種協働による患者教育			講義 田島
2.5	退院指導の実際 (45 分)			講義 田島
1	患者教育の基礎知識、セルフケアマネジメント支援について			講義 野地
2	アセスメントと指導の実際			講義 野地
2.5	事例を用いてグループワーク、まとめ (45 分)			講義 GW 野地
1	①糖尿病の病態生理について②糖尿病患者に対する自己管理教育について			講義 國分
2	事例をもとに糖尿病患者の自己管理教育・指導について計画を立案する。 (机上訓練)			講義 國分
2.5	個人で立案した自己管理教育・指導についての計画・グループワークを行い、メンバーで共有し、模造紙へまとめ発表する。(45 分)			講義 GW 國分
テキスト	適宜資料を配布			
参考文献 参考書等	適宜資料を配布 適宜関係図書紹介			
評価方法	筆記試験 (古関 50 点、田島・野地・國分 50 点 合計 100 点満点で評価)			
履修上の アドバイス	<p>【古関】「教育論」について 15 時間の講義を集中して受講すること。予習・復習よりも毎時間の中で講義内容を理解し、身につけるように心がけること。毎時間講義のまとめを提出すること。</p> <p>【田島】臨床での指導がイメージできるように講義します。</p> <p>【野地】講義中、学生同士のディスカッションを奨励します。</p> <p>【國分】事前に糖尿病の病態生理を復習しておく。エリクソンの発達段階 (青年期～成熟期) について復習しておく。一方的な指導ではなく、自己効力感を高め、行動変容ができる指導とは何かを考え、グループワークを進めてほしい。</p>			

基礎分野	科 目	人間関係論	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	2 年次 前期・後期
担当講師	牧田 実 大学教授（人間発達文化学類）・学術修士			
授業目標	人間関係についての基礎理論と現代社会の人間関係の特質について学び、看護の臨床場面における人間関係への理解を深める			
回	内 容			方法
1	人間関係の基礎理論(1)：社会的存在としての人間			講義
2	人間関係の基礎理論(2)：社会的行為			講義
3	人間関係の基礎理論(3)：役割と集団			講義
4	人間関係の基礎理論(4)：コミュニケーション			講義
5	人間関係の基礎理論(5)：相互行為の秩序			講義
6	現代社会と人間関係 (1)：社会的性格と他人指向			講義
7	現代社会と人間関係 (2)：現代社会と若者			講義
8	現代社会と人間関係 (3)：情報社会と若者			講義
9	現代社会と人間関係 (4)：家族と人間関係			講義
10	現代社会と人間関係 (5)：現代日本の家族関係			講義
11	看護と人間関係 (1)：病院の人間関係			講義
12	看護と人間関係 (2)：死の認識と心理過程			講義
13	看護と人間関係 (3)：末期患者と人間関係			講義
14	看護と人間関係 (4)：人間関係のプロセスとしての看護			講義
15	まとめとふりかえり			講義
テキスト	系統看護学講座 人間関係論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	人を育む人間関係論-援助専門職者として、個人として-（医学書院）			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	「人間関係」は机上ではなく、現実の社会にあり、みなさんの日常とともにあります。授業で学んだ視点で自分の人間関係を捉え返してみることが大切です。			

基礎分野	科 目	倫理学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期
担当講師	五十嵐 敦 大学名誉教授(発達心理学・職業心理学)・教育学修士			
授業目標	(1)倫理学がどのような学際的な営みであるかを理解できるようになる。(2)生命・医療倫理の諸問題に、倫理学のさまざまな考え方を適用して理解し、知識として定着できるようになる。(3)生命・医療倫理の諸問題について、自分自身の主張とその理由を伝えることができるようになる。			
回	内 容			方法
1	イントロダクション：倫理学、事実と価値、ヒトと人の違い考える。			講義
2	自己理解：自分自身をできる限り客観的に分析する。			講義
3	功利主義と義務論、医療倫理の原則、ケーススタディ			講義
4	他者理解：さまざまなナラティブを持つ人々の理解と尊重を考える。			講義
5	生殖補助医療と優生思想：生殖の意義と子どもの福祉を考える。			講義
6	人工妊娠中絶と胎児の地位：親の意向、社会的損失、胎児の地位を考える。			講義
7	エンハンスメントと医療化：健康を超える願望と人間の変容を考える。			講義
8	不老不死（永遠の命）：人間の願望と自然のあり方を考える。			講義
9	患者の幸せと医療指針の転換：人生の量（長さ）と質（クオリティ）を考える。			講義
10	インフォームド・コンセントと病の告知：患者の決定と患者への配慮を考える。			講義
11	人生の最終段階（終末期）			講義
12	安楽死：患者の尊厳と苦痛の回避を考える。			講義
13	生体臓器移植と家族のリスク：患者の健康回復と家族のリスクを考える。			講義
14	脳死と臓器移植：ヒトとしての脳死者と人としての脳死者について考える。			講義
15	看護職の倫理：看護倫理の原則、看護職の倫理綱領、看護倫理の概念			講義
テキスト	なし			
参考文献 参考書等	『「倫理の問題」とは何か』佐藤岳詩（著）（光文社新書） 『生命の倫理学』三崎和志（著）（大月書店）			
評価方法	ワークシート、試験（100 点満点で評価） 評価基準は「授業目標」の(1)～(3)の達成度とします。			
履修上の アドバイス	医療の発展や生命科学の進展などによって生じている、人間の生命や医療に関する倫理的な諸問題を個人的な思いや感情からだけではなく、社会の問題としてとらえる公共的な視点や行動科学からも考察してみましょう。			

基礎分野	科 目	異文化コミュニケーション	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名			時期	3 年次 前期
担当講師 実務経験 (時間)	スコット 寿美子 理学療法士・中学校教諭 1 種免許・高等学校教諭 1 種免許 総合病院(リハビリテーション科)等 22 年 (15 時間) 田川 寛之 大学 助教 (15 時間)			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と英語の発想や文化の違いについて学ぶ。また、医療・看護の現場で英語をつかったコミュニケーションをするための必須表現を学び、患者の症状や病歴を尋ねたり、患者のニーズに対応するロールプレイングを通して、実践的な英語力を学ぶ。 ・英語の基礎能力（文法と 4 技能）の学習を通して、学習者が異文化コミュニケーションを実践する際に必要となる文化的差異に関する知識の幅を拡げ、実践的な英語力を習得する。 			
回	内 容		方法	講師
1	患者観察		講義・演習	スコット
2	スピーキング 外来での会話・既往歴聴取		講義・演習	スコット
3	スピーキング 入院時の会話		講義・演習	スコット
4	スピーキング 緊急時の会話		講義・演習	スコット
5	リスニング 外来での会話		講義・演習	スコット
6	リスニング 入院時の会話（病歴聴取）		講義・演習	スコット
7	リスニング 緊急時の会話		講義・演習	スコット
7.5	まとめ（45 分）		講義・演習	スコット
1	基本の英語（品詞・文の基本形）/異文化間ソーシャルスキル		講義	田川
2	基本 5 文型、主語と動詞の関係/異文化への寛容性		講義	田川
3	時制（過去・現在・未来）/アサーション		講義	田川
4	動詞、助動詞/マイクロ・アグレッションへの気づき		講義	田川
5	能動態・受動態/多数派と少数派		講義	田川
6	前置詞、接続詞、主節・従属節/「言語ができる」とは？		講義	田川
7	関係詞/さまざまな「言語」		講義	田川
7.5	冠詞/娯楽作品から英語に慣れる		講義	田川
テキスト	適宜資料を配布			
参考文献	英和辞書 新 20 ヘルスケア・ダイアログズ「ホスピタルイングリッシュ VitalSigns」(南雲堂) 基礎からの英語入門 (南雲堂) 有田 佳代子他編著(2018)「多文化社会で多様性を考えるワークブック」研究社			
評価方法	筆記試験・実技試験（スコット 50 点、田川 50 点 合計 100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	【スコット】英語に関心を持ち、コミュニケーションの中で楽しみながら英会話に触れ、医療現場で活用できるようにしてほしい。 【田川】中高程度の基礎的な英語のリメディアルしつつ、異文化コミュニケーションの基本について英語から触れます。多言語使用の社会的要請を考えてみましょう。			

基礎分野	科 目	ボランティア論	単位数 時間	1 単位 15 時間
単元名			時期	1 年次 前期
担当講師	日下 輝美 大学教授			
授業目標	ボランティアは、誰もが暮らしやすい豊かな社会をめざして、さまざまな人や団体とつながり、ネットワークをつくりながら、社会の課題解決に自発的に取り組むことである。地域社会の現状を知り、福祉、教育、文化、芸術、スポーツ、環境、国際協力、まちづくり、人権など、幅広い分野で「市民」「行政」と連携・協議して課題解決する力を習得することも目標とする。			
回	内 容			方法
1	オリエンテーション ボランティア活動とは何か			講義
2	あなたと社会とボランティア① 高齢者、児童、障害、教育の諸問題と各種ボランティア活動の取り組み			講義
3	あなたと社会とボランティア② 文化、芸術、スポーツ、環境、国際協力の諸問題と各種ボランティア活動の取り組み			講義
4	あなたと社会とボランティア① 人権、災害の諸問題と各種ボランティア活動の取り組み ボランティア活動にあたっての注意点 前半部分のまとめ			講義・演習
5	地域課題に取り組む①（課題抽出の手法）			演習
6	地域課題に取り組む②（アイデア発想法）			演習
7	地域課題に取り組む③（具体的な施策の検討）			演習
7.5	地域課題解決の施策提案			演習
テキスト	特に教科書は使用せず、担当教員がその都度作成し、授業内容に即したプリントを配布する			
参考文献 参考資料	基礎から学ぶ ボランティアの理論と実際（中央法規出版）			
評価方法	レポート/筆記試験/提案 90 点 ボランティア活動 10 点 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	後半は実際の地域課題を題材にした実践的な演習を展開します。			

基礎分野	科 目	レクリエーション論	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名			時期	3 年次 前期
担当講師 実務経験 (時間)	清野 通仁 アカデミーコーチ・高等学校教諭一種教員免許 (20 時間) 鈴木 智子 大学 准教授 (6 時間) 高橋 雄二 大学 講師 (4 時間)			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体を一体として捉え、運動や健康の安全についての理解と運動の合理的な実践を通して①運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする ②健康の保持増進のための実践力の育成 ③体力の向上を図り、明るく楽しい豊かな生活を営む態度を育てる ・レクリエーション活動がもたらす遊びの楽しさやコミュニケーションと人間関係について演習を通して理解する。 ・高齢者や障害者がレクリエーションを通して、楽しみながら機能の維持およびリハビリテーションを行うことの意義を学ぶと共に、対象者の特性に配慮した実践的なレクリエーション技術を修得する。 			
回	内 容		方法	講師
1	目標設定の方法とアクションプランの設定 (学内)		講義	清野
2				
3	体づくり運動 フットサル		演習	清野
4				
5	体づくり運動 バレーボール		演習	清野
6				
7	体づくり運動 バスケットボール		演習	清野
8				
9	体づくり運動 信夫山ハイキング		演習	清野
10				
1	幼児期の遊びの意義/レクリエーション活動 (手遊び・歌遊び)		講義 演習	鈴木
2	レクリエーション活動 (リズムに合わせた身体表現)		講義 演習	鈴木
3	レクリエーション活動 (素材を生かした表現遊び)		講義 演習	鈴木
1	高齢者レクリエーションを行う意義および実践		講義 演習	高橋
2	障害の特性に配慮したレクリエーションの実践		講義	高橋
テキスト	必要に応じて資料を配布する			
参考文献 参考書等	新版 遊びの指導 (乳・幼児編) (同文書院)			
評価方法	清野 60 点、鈴木 20 点、高橋 20 点 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	<p>【清野】楽しく体づくりをしていきましょう。</p> <p>【鈴木】講義と演習を組み合わせる授業を展開します。動きやすい服装で出席してください。3 回目の授業では製作を行いますので、ハサミ、セロハンテープ、クレヨン等を持参してください。詳細については初回の授業時にお伝えします。</p> <p>【高橋】動きやすい服装で参加してください。</p>			

基礎分野	科 目	コミュニケーション論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	单元名		時期	1 年次 前期
担当講師	安田 いつ美 大学講師			
授業目標	日常何気なく使っている「言葉」について認識を深める。「話す力」「聞く力」を体系的に理解することで、社会生活で役立つ「会話力」「伝える力」を身に付ける。好感が持てる話し方、相手に伝わる話し方を習得し、自己表現としての「話す力」を高める。			
回	内 容			方法
1	オリエンテーション 苦手意識を克服するために必要なこと コミュニケーションの基礎 印象・表情・目線			講義 グループワーク
2	話し方の基礎① 正確に伝える			グループワーク
3	話し方の基礎② 話しをまとめるコツ SDS法・PREP法			講義 グループワーク
4	話し方の基礎③ 人を惹きつける話し方 興味を持ってもらうために心掛けること			グループワーク 発表
5	会話① 「話す力」を高める 会話を続けるコツ・好感の持てる会話			講義 グループワーク
6	会話② 「聞く力」を高める ポジティブリスニング			講義 グループワーク
7	会話③ 「伝える力」を高める 心に響く伝え方			全体討議
7.5	まとめ コミュニケーション力が人間関係を豊かにする（45 分）			全体討議
テキスト	必要に応じてプリントを配布			
参考文献 参考書等	日本語会話表現法とプレゼンテーション（学文社） プレゼンテーション概論（樹村房） 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）			
評価方法	授業内の課題・発表 40 点、筆記試験 60 点 計 100 点で総合的に評価			
履修上の アドバイス	人と話しをすること、人前で話すことをテーマにした授業です。 グループワークや実践的な演習で、苦手意識のある人でも負担なく取り組めるように展開します。楽しむ気持ちで参加してください。			

基礎分野	科 目	プレゼンテーション論	単位数 時間	1 単位 15 時間
単元名			時期	1 年次 前期
担当講師 (時間)	木谷 徳智 大学准教授 (7 時間) 安田 いつ美 大学講師 (8 時間)			
授業目標	相手の立場にたった論理の組み立て方法を身に付け、筋のとあったプレゼンテーションを目指します。また、ICT を活用したプレゼン技法を身に付けます。			
回	内 容		方法	講師
0.5	オリエンテーション（授業の進め方など） 良いプレゼントは何か (45 分)		講義	木谷
1.5	効果的内組み立て方		講義・演習	木谷
2.5	プレゼンテーションの技法①スライド構成とレイアウト		演習	木谷
3.5	プレゼンテーションの技法②根拠となるデータ活用		演習	木谷
1	プレゼン実技①出題とプレゼン準備		演習	安田
2	プレゼン実技②		演習	安田
3	プレゼン実技③		演習	安田
4	プレゼン実技④		演習・講義	安田
テキスト	テキストは使用しない（毎回資料を配布する）			
参考文献 参考資料	特になし			
評価方法	実技試験（プレゼンテーション資料 50 点/発表 50 点） 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	テーマに沿ったプレゼンデータ作成と実践を行います。 プレゼン実践は、数名のチーム構成を想定しています。			

基礎分野	科 目	プロジェクト学習	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師 実務経験	大戸 和子 看護師 専任教員 31 年、総合病院(脳神経外科、整形外科、救急外来など)11 年			
授業目標	日常生活の中での問題や課題を見つけ、解決に向けて計画的に取り組みゴールを目指す。 ①問題・課題の発見 ②なぜ問題・課題があるのか、どうすれば解決するのか効果的な方法を考える ③実際に解決策を実施してみる ④実施した解決策は適切であったか、改善点はあるのか検証する ⑤問題解決にあたっては、期限を設定し逆算して行動スケジュールを立てる ⑥個人及びグループで問題解決活動を行い、実践的なスキルを習得する ⑦ICT を活用、効果的な発表のスキルを学ぶ			
回	内 容			方法
1	プロジェクト学習の意義 情報リサーチ(問題を絞り込むために情報を集める)			講義 GW
2	情報リサーチ(問題を絞り込むために情報を集める)			講義 GW
3	課題分析 グループ討議 (ロジックツリーを作ってみる 先行事例の研究)			講義 GW
4	課題を見出す 解決策・企画			講義 GW
5	提案・実行			講義 GW
6	実行・評価・修正 凝縮ポートフォリオ作成			講義 GW
7	まとめ・表現 ネットワークを活用し発表する			発表
7.5	まとめ・表現 ネットワーク活用し発表する(45 分)			発表
テキスト	講師資料			
参考文献 参考書等	情報活用型プロジェクト学習 稲垣忠 プロジェクト学習の始め方 常磐拓司			
評価方法	実践での取り組み レポート 成果発表 (100 点満点で評価)			
履修上の アドバイス	問題解決するために、情報を獲得し、分析・判断して状況に即して、具体的に「こうしたらよい」という考えを頑張って生み出しゴールを目指しましょう			

専門基礎分野	科 目	解剖生理学 I	単位数 時間	2 単位 60 時間
	单元名		時期	1 年次 前期
担当講師	神 百代 看護師 総合病院等 13 年、その他看護教育 25 年			
授業目標	看護に必要な人体の構造と機能を理解する			
回	内 容			方法
1	解剖生理学概論、水の性質			講義
2	生命の定義			講義
3	体液			講義
4	血液			講義
5	骨の生理学的役割			講義
6	骨組織、骨細胞、骨の連結			講義
7	骨格-頭部・体幹			講義
8	骨格-胸郭			講義
9	骨格-四肢			講義
10	筋肉総論、骨格筋細胞、骨格筋組織			講義
11	全身の筋Ⅰ、頭・頸部・体幹			講義
12	全身の筋Ⅱ、四肢			講義
13	循環と呼吸総論			講義
14	心筋細胞と心筋組織、心臓の位置			講義
15	左室圧・容量曲線、前負荷、後負荷、心電図			講義
16	血管の種類と構造			講義
17	全身の動脈			講義
18	全身の静脈			講義
19	呼吸器の構造			講義
20	呼吸の生理学			講義
21	消化器系概論			講義
22	咀嚼、嚥下、初期消化			講義
23	胃、小腸、大腸、排泄			講義
24	肝臓、肝機能			講義
25	腎臓の位置と構造			講義
26	糸球体機能			講義
27	腎機能			講義
28	排尿			講義
29	神経細胞 神経組織			講義
30	解剖見学実習			講義・実習
テキスト	系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等				
評価方法	筆記試験（中間試験 100 点、本試験 100 点の平均 100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	高校までに履修した物理学および化学の知識を確実なものとして講義に臨むこと。			

専門基礎分野	科 目	解剖生理学Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	1 年次 前期・後期
担当講師	神 百代 看護師 総合病院等 13 年、その他看護教育 25 年			
授業目標	看護に必要な、人体の構造と機能を理解する			
回	内 容			方法
1	中枢神経系（大脳半球）			講義
2	神経伝導路、末梢神経系			講義
3	脳神経、脊髄神経			講義
4	恒常性、自律神経系			講義
5	内分泌系～視床下部-下垂体-副腎			講義
6	感覚			講義
7	視覚、聴・平衡感覚			講義
8	生殖概論			講義
9	男性生殖器			講義
10	女性生殖器、卵巣、卵管			講義
11	子宮、膣 乳腺			講義
12	胎盤、胎児循環			講義
13	発生学の基礎（1）			講義
14	発生学の基礎（2）			講義
15	解剖見学実習			講義・実習
テキスト	系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等				
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	高校までに履修した物理学および化学の知識を確実なものとして講義に臨むこと			

専門基礎分野	科 目	生化学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	1 年次 前期
担当講師	関亦 正幸 大学准教授（機能生物化学）・医学博士			
授業目標	生体を構成する分子・物質の構造と機能を理解する 生体内の物質代謝・エネルギー代謝を理解する 生体物質および細胞小器官の構造と働きから、人の生理と疾患の病理を理解する			
回	内 容			方法
1	イントロダクション、生体の成り立ち			講義
2	生体の構成分子、細胞の構成			講義
3	タンパク質とは、アミノ酸の種類と性質			講義
4	アミノ酸の結合、イオン化、タンパク質の高次構造と変性			講義
5	酵素とは、酵素の特徴、酵素反応速度論			講義
6	血清、酵素の臨床応用、アイソザイム			講義
7	糖とは、糖の種類、糖の消化、糖代謝			講義
8	解糖系、クエン酸回路、糖尿病			講義
9	脂質とは、脂肪酸、中性脂肪、コレステロール			講義
10	脂肪酸代謝、コレステロールの合成、リポタンパク質、高脂血症			講義
11	アミノ酸の代謝、アミン、尿素回路、アミノ酸先天代謝異常			講義
12	核酸、遺伝のしくみ、遺伝子異常			講義
13	ホルモン、内分泌疾患			講義
14	ビタミン、ビタミン欠乏症			講義
15	体液、血液、尿、恒常性の維持			講義
テキスト	わかりやすい生化学-疾病と代謝・栄養の理解のために（ヌーヴェルヒロカワ）			
参考文献 参考書等	系統看護学講座 生化学（医学書院）※eテキスト 看護学生のための自己学習 2 生化学・栄養学 3 版（金芳堂）			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	授業中の疑問点はその場で解決する。 授業内容はメモし、頻出する用語・物質名および化学構造式などは手書きして覚える。 「整理ノート」を利用して要点をまとめ、「確認問題」を繰り返し解く。			

専門基礎分野	科 目	微生物学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	1 年次 前期
担当講師	宮崎 希 大学助教（微生物学）・医学博士			
授業目標	病原微生物（ウイルス、細菌、真菌、原虫）の性状・特徴とそれらが引き起こす種々の感染症に関する基本的な知識を学習する			
回	内 容			方法
1	微生物学総論			講義
2	感染と感染症			講義
3	滅菌と消毒（1）			講義
4	滅菌と消毒（2）、球菌と感染症			講義
5	総論小テスト、桿菌と感染症（1）			講義
6	桿菌と感染症（2）			講義
7	その他の細菌と感染症			講義
8	DNA ウイルスと感染症			講義
9	細菌と感染症小テスト、RNA ウイルスと感染症（1）			講義
10	RNA ウイルスと感染症（2）			講義
11	逆転写酵素をもつウイルスと感染症			講義
12	真菌と原虫感染症			講義
13	ウイルスと感染症小テスト			講義
14	まとめ（免疫）（感染症）			講義
15	微生物学実習			講義
テキスト	系統看護学講座 微生物学（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習復習をして学びを深めてください。			

専門基礎分野	科 目	病気とからだ I	単位数 時間	1 単位 15 時間
	单元名	病理学総論	時期	1 年次 前期・後期
担当講師	神 百代 看護師 総合病院等 13 年、その他看護教育 25 年			
授業目標	看護に必要な疾病を理解するうえで必要な、病理学的な知識を学ぶ			
回	内 容			方法
1	病理学とはどのような学問か			講義
2	病因論、病態論（退行性変化）			講義
3	進行性変化			講義
4	循環障害			講義
5	代謝障害			講義
6	炎症			講義
7	腫瘍			講義
7.5	奇形（45 分）			講義
テキスト	系統看護学講座 病理学（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等				
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	解剖生理学の知識を十分に持ったうえで講義に臨むこと			

専門基礎分野	科 目	病気とからだⅡ		単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	呼吸器系			循環器系	
時期/時間	1 年次前期/15 時間			1 年次前期・後期/15 時間	
担当講師 実務経験	佐藤 俊 医師 総合病院(呼吸器科)等 18 年 診療所(呼吸器内科)6 年			猪狩 次雄 医師・大学特任教授 総合病院(外科)等 49 年	
授業目標	呼吸器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ			循環器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ	
回	内 容	方法	内 容	方法	
1	呼吸器の構造と機能	講義	循環器の構造と機能	講義	
2	症状とその病態生理	講義	症状とその病態生理	講義	
3	検査と治療・処置①(検査)	講義	症状とその病態生理	講義	
4	検査と治療・処置②(治療・処置)	講義	検査と治療	講義	
5	疾患の理解①(感染症疾患)	講義	検査と治療	講義	
6	疾患の理解②(気道系疾患)	講義	疾患の理解 (虚血性心疾患・心不全)	講義	
7	疾患の理解③ (間接性肺疾患・肺腫瘍)	講義	疾患の理解 (血圧異常・不整脈・弁膜症)	講義	
7.5	疾患の理解④ (睡眠時無呼吸症候群 他)(45 分)	講義	疾患の理解 (先天性心疾患・動脈・静脈リンパ°) (45 分)	講義	
テキスト	系統看護学講座 呼吸器 (医学書院) ※eテキスト 系統看護学講座 循環器 (医学書院) ※eテキスト				
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術 (南江堂)				
評価方法	筆記試験 (呼吸器 50 点、循環器 50 点の合計 100 点満点で評価)				
履修上の アドバイス	【呼吸器系】 テキストを読んで予習・復習をする。 【循環器系】 テキストを読んで予習・復習をする。 循環器の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。				

専門基礎分野	科 目	病気とからだⅢ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	单元名	消化器系	時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	茂木 積雄 医師 総合病院(消化器科・内科)等 33 年			
授業目標	消化器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する 上での基礎的知識を学ぶ			
回	内 容			方法
1	消化器の構造と機能①			講義
2	消化器の構造と機能②			講義
3	症状とその病態生理			講義
4	診察と診断の流れ、検査（Ⅰ）血液検査他			講義
5	検査（Ⅱ）内視鏡検査他、治療			講義
6	疾患の理解（Ⅰ）食道・胃・大腸の疾患			講義
7	疾患の理解（Ⅱ）食道・胃・大腸の疾患			講義
7.5	疾患の理解（Ⅲ）肝臓・膵臓の疾患			講義
テキスト	系統看護学講座 消化器（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）			
評価方法	筆記試験（100 点満点）			
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 消化器の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。			

専門基礎分野	科 目	病気とからだⅣ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	運動器系	時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	菊池 一郎 医師 総合病院(整形外科)等 44 年			
授業目標	運動器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する 上での基礎的知識を学ぶ			
回	内 容			方法
1	運動器の構造と機能			講義
2	症状とその病態生理			講義
3	判断・検査と治療・処置			講義
4	疾患の理解（骨折）			講義
5	疾患の理解（脱臼、捻挫、打撲、神経の損傷、筋・腱・靱帯の損傷）			講義
6	疾患の理解（先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患、骨腫瘍および軟部腫瘍）			講義
7	疾患の理解（代謝性疾患、筋および腱の疾患、神経の疾患）			講義
7.5	疾患の理解、まとめ（45 分）			講義
テキスト	系統看護学講座 運動器（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）			
評価方法	筆記試験（100 点満点）			
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 運動器の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。			

専門基礎分野	科 目	病気とからだⅤ	単位数 時間	1 単位 15 時間
単元名	脳神経系		時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験 (時間)	市川 優寛 医師 総合病院(脳神経外科学講座)等 25 年 (9 時間) 中村 耕一郎 医師 総合病院(神経内科)等 24 年 (6 時間)			
授業目標	脳神経の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ			
回	内 容			方法 講師
1	神経症状①			講義 市川
2	神経症状②			講義 市川
3	神経検査			講義 市川
4	脳疾患①			講義 市川
4. 5	脳疾患② (45 分)			講義 市川
1	神経疾患各論 (脊髄、末梢神経、筋疾患)			講義 中村
2	神経疾患各論 (筋疾患、脱髄疾患、神経変性疾患)			講義 中村
3	神経疾患各論 (てんかん、認知症、中枢神経感染症)			講義 中村
テキスト	系統看護学講座 脳・神経(医学書院)※eテキスト			
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術(南江堂)			
評価方法	筆記試験 (市川 60 点、中村 40 点 合計 100 点満点で評価する)			
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 脳神経の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。			

専門基礎分野	科 目	病気とからだⅥ				単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	血液・造血器系		内分泌・代謝系		アレルギー・膠原病系		
時期/時間	2 年次前期/10 時間		2 年次前期/14 時間		2 年次前期/6 時間		
担当講師 実務経験	木村 秀夫 医師 総合病院(血液内科)等 50 年		茂木 積雄 医師 総合病院(内科・消化器科)等 33 年		小林 浩子 医師 総合病院(内科アレルギー科)等 29 年		
講義目標	血液・造血器機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ		内分泌・代謝機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ		生体防御希望が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ		
回	内 容	方法	内 容	方法	内 容	方法	
1	血球の産生 正常値増多と減少症	講義	総論 1(内分泌器官の構造と機能)	講義	アレルギー、アレルギー応、アレルギー疾患	講義	
2	輸血と副作用 貧血症 多血症	講義	総論 2(内分泌を形成する 11 のホルモン系、代謝の概要と機能)	講義	膠原病、自己免疫	講義	
3	白血病の急性期～慢性 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫	講義	検査、代謝疾患の検査 他	講義	膠原病各論	講義	
4	造血幹細胞輸注 移植 スライド供覧 血液像、骨髄像	講義	疾患の理解(内分泌疾患 ①視床下部・下垂体系/甲状腺疾患)	講義			
5	血小板減少症 出血性疾患 DIC エイズ	講義	疾患の理解(内分泌疾患 ②甲状腺・副甲状腺・副腎疾患 他)	講義			
6			疾患の理解(代謝疾患① 糖尿病)	講義			
7			疾患の理解(代謝疾患② 脂質異常症・メタボリック症候群・痛風・感染症)	講義			
テキスト	系統看護学講座 血液・造血器 (医学書院) ※eテキスト 系統看護学講座 内分泌・代謝 (医学書院) ※eテキスト 系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) ※eテキスト						
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術(南江堂)						
評価方法	筆記試験 (血液・造血器系 30 点・内分泌・代謝系 50 点・アレルギー・膠原病 20 点の合計 100 点満点で評価する)						
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 「血液・造血器」「内分泌・代謝」「アレルギー・膠原病」の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。						

専門基礎分野	科 目	病気とからだⅦ				単位数 時間	1 単位 30 時間	
単元名	腎・泌尿器		皮 膚		女性生殖器			
講義目標	腎・泌尿器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ		皮膚の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ		性・生殖器機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ			
時期/時間	2 年次前期/15 時間		2 年次前期・後期/5 時間		2 年次前期/10 時間			
担当講師 実務経験	熊谷 研 医師 総合病院(泌尿器科)等 15 年 診療所(腎泌尿器)10 年		松村 奈津子 医師 総合病院(皮膚科)等 10 年 診療所(皮膚科)2 年		矢澤 美穂子 医師 総合病院(産婦人科)等 7 年 診療所(産婦人科)30 年 野口 まゆみ 医師 総合病院(婦人科)等 13 年 診療所(婦人科)30 年			
回	内 容	方法	内 容	方法	内 容	方法	講師	
1	構造と機能	講義	皮膚の構造と働き 発疹 検査	講義	女性生殖器解剖 性周期	講義	矢澤	
2	症状とその病態生理	講義	湿疹 皮膚炎群 蕁麻疹 物理化学的外傷	講義	性分化、妊娠 月経周期	講義	矢澤	
3	検査	講義	皮膚腫瘍 感染症 色素異常症	講義	外陰・子宮の疾患	講義	野口	
4	治療、処置	講義			子宮、卵巣 乳腺疾患	講義	野口	
5	尿路腫瘍、結石、腫瘍	講義			月経異常、性感染症	講義	野口	
6	腎障害①、先天異常 性機能障害 生殖器疾患	講義						
7	腎障害②	講義						
7.5	まとめ	講義						
テキスト	系統看護学講座 腎・泌尿器（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 皮膚（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 女性生殖器（医学書院）※eテキスト							
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術(南江堂)							
評価方法	筆記試験（腎・泌尿器 40 点・皮膚 20 点・女性生殖器(矢澤)20 点・女性生殖器(野口)20 点の合計 100 点満点で評価）							
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 「腎・泌尿器」「皮膚」「性・生殖器」の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。							

専門基礎分野	科 目	病気とからだⅧ				単位数 時間	1 単位 15 時間
单元名	歯		眼		耳鼻咽喉		
時期/時間	2 年次前期 5 時間		2 年次前期 5 時間		2 年次前期 5 時間		
担当講師 実務経験	松本 朝徳 歯科医師 総合病院(歯科)1 年、 診療所(歯科)8 年		竹田 洋介 医師 総合病院(眼科)13 年、 診療所(眼科)29 年		鈴木 知子 医師 総合病院(耳鼻科)等 40 年		
授業目標	歯科の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ		眼の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ		耳鼻咽喉の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ		
回	内 容	方法	内 容	方法	内 容	方法	
1	歯の構造と機能 歯および歯肉組織	講義	眼球解剖、疾患について	講義	耳鼻咽喉解剖疾患について（耳）	講義	
2	症状とその病態生理 検査と治療・処置	講義	前眼部・後眼部疾患について	講義	疾患について（鼻・口腔・咽喉頭・気管支炎）	講義	
2.5	疾患の理解 患者の看護 口腔ケア	講義	緑内障・白内障について	講義	検査・治療	講義	
テキスト	系統看護学講座 歯・口腔（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 眼（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 耳鼻咽喉（医学書院）※eテキスト						
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）						
評価方法	筆記試験（歯 30 点、眼 30 点、耳鼻咽喉 40 点 合計 100 点満点で評価）						
履修上の アドバイス	【歯】テキストを読んで予習・復習をする。 【眼】テキストを読んで予習・復習をする。眼の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。 【耳鼻咽喉】テキストを読んで予習・復習をする。耳鼻咽喉の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。						

専門基礎分野	科 目	治療論 I		単位数 時間	1 単位 30 時間	
単元名	栄養と生活			リハビリテーション		
時期/時間	1 年次前期・後期/15 時間			1 年次前期・後期/15 時間		
担当講師 実務経験	岡部 朋子 管理栄養士 総合病院(栄養課)等 11 年			佐藤 飛鳥 理学療法士 病院(リハビリテーション課)20 年		
授業目標	栄養素の消化・旧称・代謝および生理作用、ライフステージ別の適切な栄養管理、病態の理解と栄養状態の的確な評価に基づく栄養管理について学ぶ。また日本人の栄養状態は生活環境やライフスタイルの変遷によって新たな問題が生じている現状を理解する。			障害への適応と社会復帰への看護に必要なリハビリテーション看護の習得		
回	内 容		方法	内 容		方法
1	1. 健康と栄養 2. 日常生活と栄養		講義	1. リハビリテーション概論 ・リハビリテーションの定義と制度 ・リハビリテーションの対象と制度 ・疾病・障害・生活機能の分類 ・リハビリテーションの種類 ・リハビリテーションの専門職 ・チームアプローチ		講義
2	3. 食物と栄養		講義	2. リハビリテーション看護概論 ・リハビリテーション看護の定義と専門化 ・リハビリテーション看護の対象 ・リハビリテーション看護の方法		講義
3	4. ライフステージと健康教育		講義			
4	5-1. 臨床栄養（病院食の概要、呼吸器、脳、経系、消化器系疾患、肝臓病）		講義	3. 各疾患のリハビリテーション看護 3-1 運動器系、3-2 中枢神経系 3-3 呼吸・循環器系、3-4 感覚器系 ・各疾患のリハビリテーション ・各疾患のリハビリテーション看護の方法		講義
5	5-2. 臨床栄養（循環器系疾患、糖尿病、腎臓病）		講義			
6	調理実習		実習			
6.5	5-3. 栄養補給法、チーム医療(45分)		講義	4. 活動・休息援助技術 ・基本的活動の援助		講義
7.5	5-4. 臨床栄養まとめ、危機管理		講義			
テキスト	系統看護学講座 栄養食事療法（医学書院）※eテキスト 新食品成分表 系統看護学講座 リハビリテーション看護（医学書院）※eテキスト					
参考文献 参考書等	適宜資料の配布					
評価方法	筆記試験（栄養と生活 50 点、リハビリテーション 50 点 合計 100 点満点で評価）					
履修上の アドバイス	【栄養と生活】自身の食生活を振り返り栄養バランスを考えた食に対して興味関心を深める。 【リハビリテーション】授業補助項目 1. アンケート記載 授業後にわからなかったことや難しかったことをアンケートで把握し、次回の授業で復習として解説する。 2. 国家試験過去問演習 その都度の授業内容(リハビリテーション看護)に関連した国家試験の過去問を自己研鑽用に配布する。					

専門基礎分野	科 目	治療論Ⅱ		単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	放射線治療		薬 理		
時期/時間	2 年次前期/6 時間		2 年次前期・後期/24 時間		
担当講師 実務経験	星野 俊明 医師 総合病院(放射線科)21 年 病院(内科)24 年		山口 聡 薬学博士・薬剤師 病院(薬剤科)・薬局など 12 年		
授業目標	放射線の特徴と治療の基礎知識 を理解する。		①薬物療法における看護師の役割について理解 する。 ②生体に対する薬物の作用機序、薬物動態など を理解する。 ③代表的な薬物について、種類や特徴を理解 する。中でもハイリスク薬については、取り 扱い方法を含めて深く理解する。		
回	内 容	方法	内 容	方法	
1	放射線治療の医療への 応用、癌と放射線治療	講義	薬物における病気の治療/薬理学とは何か/ 看護業務に必要な薬の知識	講義	
2	放射線治療と看護 放射線診断と看護	講義	薬力学/薬物動態学・薬物相互作用/薬効の個人 差/薬物使用の有益性と危険性・薬と法律	講義	
3	放射線診断と看護 核医学と看護	講義	感染症治療に関する基礎事項/抗菌薬 抗真 菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 感染症の 治療における問題点	講義	
4			がん治療に関する基礎事項/抗がん薬各論/ 分子標的薬	講義	
5			免疫系の基礎知識/免疫抑制薬/免疫増強薬・ 予防接種薬	講義	
6			抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬/炎症と抗 炎症薬/関節リウマチ治療薬 痛風・高尿酸 血症治療薬	講義	
7			神経系による情報伝達/自律神経系作用薬/ 交感神経作用薬/副交感神経作用薬/筋弛緩 薬・局所麻酔薬	講義	
8			中枢神経系のはたらきと薬物/全身麻酔薬/ 催眠薬・抗不安薬/抗精神病薬 抗うつ薬・ 気分安定薬/パーキンソン症候群治療薬/抗 てんかん薬/麻薬性鎮痛薬/片頭痛治療薬	講義	
9			降圧薬/狭心症治療薬/心不全治療薬 抗不 整脈薬/利尿薬/脂質異常症治療薬 血液凝 固系・線溶系に作用する薬物 血液に作用す る薬物	講義	
10			呼吸器系に作用する薬物/消化器系に作用す る薬物/生殖器・泌尿器系に作用する薬物	講義	
11			ホルモンとホルモン拮抗薬/治療としてののび タミン/皮膚に使用する薬物 眼科用薬/救 急に用いられる薬物/急性中毒に用いられる 薬物	講義	
12			漢方医学の基礎知識/漢方薬各論/消毒薬/輸 液製剤/輸血製剤	講義	
テキスト	新体系看護学 別巻 放射線診療と看護（メヂカルフレンド社）※meebook 系統看護学講座 薬理学（医学書院）※eテキスト				
参考文献 参考書等	今日の治療薬（南江堂）				
評価方法	筆記試験（放射線治療 30 点、薬理 70 点 合計 100 点満点で評価）				
履修上の アドバイス	【放射線治療】テキストを読んで予習・復習をする。 【薬理】薬物は医療の多くの場面に関わっています。そのため、薬物に関する知識を身 につけることは看護業務を行う上で必要不可欠です。この講義を通じて、薬物に関する 基礎的知識を習得しましょう。 【定期試験に向けて】講義後、十分に復習をして下さい。				

専門基礎分野	科 目	治療と看護	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	1 年次 後期
担当講師	佐藤 知子 看護師 専任教員 25 年 病院(消化器外科、内科、小児科など)9 年 渡邊 留美 保健師・看護師 専任教員 3 年 病院(特殊疾患病棟・急性期病棟)17 年			
授業目標	①看護者から見る「からだ」をイメージできる ②病んだ時の「からだ」の変化と、それに伴う日常生活行動の変化を理解する ③生活行動の変化に対応できる知識と看護援助方法を理解する ④日常生活行動が生命維持やその人らしさに関わっていることを理解する ⑤解剖生理学の知識と疾病、看護をつなげて考えることができる			
回	内 容			方法
1	①日常生活行動と遂行するためのからだの機能―事例 1 機能障害			講義
2	・機能低下が及ぼす影響を考える			講義
3	・看護問題の根拠を考える			講義・GW
4	・看護援助とその根拠			講義・GW
5	②日常生活行動と遂行するためのからだの機能―事例 2 機能障害			講義
6	・日常生活における活動レベルの変化を捉える			講義
7	・活動レベルの変化から必要な援助を考える			講義・GW
8	・看護援助に必要な情報と根拠			講義・GW
9	・看護計画とその根拠・発表			講義・GW
10	③日常生活行動と遂行するためのからだの機能―事例 3 機能障害			講義
11	・機能障害における自覚症状・検査値・生活歴・対象の発言から病態と結びつける			講義
12	・病態とアセスメントの視点のつながり			講義
13	・病態と機能低下をつなげ、日常生活への影響を考える			講義・GW
14	・セルフケアの援助			講義・GW
15	・アセスメント・看護援助 発表会 講義のまとめ			講義・GW
テキスト	・各回のテーマに沿ったテキストを使用する ・担当教員からの配布資料			
参考文献	日常生活行動からみるヘルスアセスメント 大久保暢子編（日本看護協会出版会） 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子著（日本看護協会出版会） 看護のための疾病論 ナースが視る病気 薄井坦子（講談社） ナースが視る人体 薄井坦子（講談社新版） 病気の地図帳 監修山口和克（講談社）			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	看護学の視点（日常生活行動からみるからだ）から、体（解剖生理学）、病気（病気とからだ）、治療を捉えて、看護援助の根拠を考えアセスメントに活用できる知識を習得しましょう。			

専門基礎分野	科 目	総合医療論		単位数 時間	2 単位 30 時間
授業目標	医療や看護の原点・現代医療の実像・医療現場で問われている課題を理解し、新時代に求められる看護師像を描き自立した専門職としての役割を学ぶことができる				
時期/時間	1 年次前期・後期/15 時間		1 年次前期・後期/15 時間		
担当講師 実務経験	井上 仁 医師 総合病院(外科)等 50 年		嶋原りつ子 看護師 専任教員 19 年 総合病院(内科・外科・小児科など)22 年		
回	内 容	方法	内 容	方法	
1	科学技術の進歩と現代医療(癌・移植・人工臓器・再生医療・画像診断)	講義	医療コミュニケーションの原点 ①援助と共感 ②専門職としての看護師	講義	
2	現代医療の課題 ①薬の副作用・手術発症、倫理上のジレンマ、生命倫理、臨床倫理	講義	医療と看護の原点 1 生命について	講義	
3	現代医療の課題 ②環境問題、医療供給体制、医療情報の開示、インフォームド Consent	講義	医療と看護の原点 2 ①健康について ②病と癒し、医療看護マネジメント	講義	
4	医療における合理的判断、患者の安全、管理と評価、	講義	医療の歴史	講義	
5	最先端医療と情報化社会	講義	生活と医療・健康 1 医療施設の区分・病診連携と地域医療構想・薬と安全	講義	
6	医療変革と保健・医療の担い手 総合医療の期待	講義	生活と医療・健康 2 地域保健・福祉行政、一次予防と健康増進・生活習慣病	講義	
7	保健・医療・介護・福祉の近未来像	講義	生活と医療・健康 3 少子高齢社会、地域包括ケアシステム・ノーマライゼーション、インクルージョン	講義	
7.5	保健・医療・介護・福祉の近未来像 (45 分)	講義	生活と医療・健康 4 心の健康と精神医療	講義	
テキスト	系統看護学講座 総合医療論 (医学書院) ※eテキスト				
参考文献 参考書等	国民衛生の動向				
評価方法	筆記試験 (各講師 50 点 合計 100 点満点で評価)				
履修上の アドバイス	医療・看護の動向を踏まえ、社会から求められる看護師像についてじっくり考える機会にしてほしい				

専門基礎分野	科 目	地域保健論	単位数 時間	2 単位 30 時間
	单元名		時期	1 年次 後期
担当講師	小谷 尚克 医師 総合病院、県保健福祉事務所など 30 年 増石 有佑 大学助教・薬剤師 大学 14 年 北村 慶 看護師・特定認定看護師 総合病院 16 年 渡邊 一代 大学准教授・助産師 大学 26 年、総合病院(産婦人科など) 21 年 小室 恵美子 看護師・保健師 市役所など 37 年 渡辺 由佳 看護師・保健師 総合病院 23 年			
授業目標	健康の考え方、疾病予防や健康増進のための保健予防活動について理解する。 また環境保健の意義と実際を理解する。			
回	内 容		方法	講師
1	公衆衛生とは 世界と日本の歴史 公衆衛生の活動と対象		講義	小谷
2	公衆衛生のしくみ：法律と政策・事業の位置づけ 疫学と保健統計		講義	小谷
3	環境と健康 ・地球規模の環境と健康		講義	増石
4	予防と健康増進について		講義	増石
5	環境と健康 ・身のまわりの環境と健康		講義	北村
6	感染症とその予防対策 ・感染症とその予防の基礎知識 ・わが国の感染症予防対策		講義	北村
7	国際保健		講義	渡邊
8	地域における公衆衛生の実践 ・公衆衛生看護とは ・成人保健 ・精神保健 ・障害者保健		講義	小室
9				
10				
11				
12				
13	学校と健康		講義	小室
14	職場と健康		講義	渡辺
15	健康危機管理と災害保健		講義	増石
テキスト	系統看護学講座 公衆衛生学（医学書院）※e テキスト			
参考文献 参考書等	国民衛生の動向			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	住民の健康づくりを支援する公衆衛生活動の基礎を他の関連する科目と並行して学びを深めてください			

専門基礎分野	科 目	地域を支える仕組み	単位数 時間	1 単位 30 時間
	单元名		時期	2 年次 前期
担当講師	横山 英史 大学・短大・専門学校等 非常勤講師			
授業目標	社会保障・社会福祉の制度や政策、実施体系等について幅広く理解する。 また、社会福祉の実践と医療・看護との連携の実際について理解する。			
回	内 容			方法
1	社会保障制度の概要			講義
2	現代社会の変化（人口の変化、地域社会の変化）			講義
3	医療保障			講義
4	医療保障			講義
5	介護保障			講義
6	介護保障			講義
7	高齢者虐待、児童虐待、障がい者虐待			講義
8	所得保障、公的年金制度			講義
9	所得保障、社会手当			講義
10	公的扶助、生活保護			講義
11	児童家庭福祉			講義
12	障がい者福祉			講義
13	高齢者福祉			講義
14	医療看護と福祉の連携			講義
15	まとめ			講義
テキスト	系統看護学講座 社会保障・社会福祉（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	国民の福祉と介護の動向（厚生労働省統計協会編）			
評価方法	筆記試験 80 点・平常点 20 点（レポート、講義への参加態度） 合計 100 点満点			
履修上の アドバイス	教科書を中心に授業を進めます。 必要に応じて補足資料や要点をまとめた資料を配布するので、必ず復習してください。			

専門基礎分野	科 目	法と看護	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	3 年次 前期
担当講師	山崎 暁彦 大学准教授			
授業目標	看護師に関わる法知識を学修する			
回	内 容			方法
1	法とは何か ― 法の機能			講義
2	医の倫理 ― 患者の権利			講義
3	看護行為 ― 保健師助産師看護師法、チーム医療			講義
4	医療水準論			講義
5	看護過誤（1）― 療養上の世話に関わる事例の紹介			講義
6	看護過誤（2）― 診療上の補助に関わる事例の紹介			講義
7	人の生と死 ― 母体保護法、尊厳死、安楽死			講義
7.5	看護師の労働環境（45 分）			講義
テキスト	レジュメ・資料を配布します			
参考文献 参考書等	なし			
評価方法	筆記試験の結果、および学習意欲等を総合評価します（100 点満点）			
履修上の アドバイス	法律の一般的な知識のみならず、就職後、巻き込まれるおそれのあるトラブル、すなわち加害者側として関わるもの、被害者として関わるものを総合的に検討していきます。			

専門分野	科 目	基礎看護学概論 I	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師 実務経験	大戸 和子 看護師 専任教員 30 年・総合病院(脳神経外科、整形外科、救急外来など)11 年			
授業目標	看護の基本となる概念を体系的に理解し、保健・医療・福祉の広い視野で看護の機能、役割を理解する。また、人間理解を基盤とし、専門職業人としての倫理的態度を習得する。			
回	内 容			方法
1	基礎看護学の位置づけ 看護学概論を学ぶ意義 看護に対する思いを語る 看護の歴史的変遷			講義・GW DVD
2	看護とは ヴァージニア・ヘンダーソンを知る 入学前課題「看護の基本となるもの」を参考に語る			講義・GW
3	看護とは フローレンスナイチンゲールを知る「看護覚え書き」を参考に語る			講義・GW
4	看護の役割と機能			講義・GW
5	看護の対象である人間理解(人間とは・人間のこころとからだの理解)			講義・GW
6	看護の対象である人間理解(人間と健康・環境との関係)			講義・GW
7	看護の対象である人間理解(暮らしの理解 生活者としての個人・家族・地域)			講義・GW
8	看護の対象である人間理解(健康状態と生活)			講義
9	看護理論(看護の実践を支える看護の考え方)			講義・GW
10	看護理論(看護の実践を支える看護の考え方)			講義・GW
11	看護活動の専門性(職業としての看護・資格)			講義
12	看護の提供の場			講義
13	看護における倫理(職業倫理 患者の権利 倫理問題)			講義・GW
14	看護における倫理(職業倫理 患者の権利 倫理問題)			講義・GW
15	目指す看護師像を明確に語ることができる			講義・GW
テキスト	系統看護学講座 看護学概論 (医学書院) ※eテキスト			
参考文献 参考書等	・フローレンス・ナイチンゲール看護覚え書き(日本看護協会出版)小玉香津子訳※isho.jp ・看護の基本となるものヴァージニア・ヘンダーソン(日本看護協会出版)湯楨ます訳※isho.jp ・実践に生かす看護理論 19 第 2 版(サイオ出版)城ヶ端初子※isho.jp ・現代看護の探求者たち 増補第 2 版(日本看護協会出版)小林富美栄			
評価方法	課題への取り組みと課題提出 (20%)、筆記試験 (80%) グループワーク参加状況から総合的に評価する 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	授業を通して看護への関心を高め各領域の看護に繋げ深めるきっかけとしてほしい。また自身の考えを自分の言葉で表現し、人の話を聞く態度を身につけてほしい。			

専門分野	科 目	基礎看護学概論Ⅱ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	研 究Ⅰ	時期	2 年次 前期
担当講師 実務経験	太田 操 看護師・助産師 総合病院等 7 年、大学等 40 年			
授業目標	看護研究の基礎を学び、科学的思考や研究態度を養い、看護の実践を探究する能力を身につける			
回	内 容			方法
1	看護研究の目的と意義			講義
2	研究デザインと研究のプロセス			講義・演習
3	文献検索の意義と方法			講義・演習
4	文献検索と文献カードの作成			講義・演習
5	実験・調査研究 データ収集の方法、調査研究の文献を読みクリティーク			講義・演習
6	質的研究 データ収集の方法、質的研究の文献を読みクリティーク			講義・演習
7	看護研究における倫理的配慮			講義・演習
7.5	まとめ（45 分）			講義
テキスト	系統的看護学講座 看護研究（医学書院）※eテキスト			
参考文献	ひとりで学べる看護研究（照林社） 黒田裕子の看護研究 Step by Step（医学書院）			
評価方法	授業への取り組み度（課題の提出）50 点 講義内レポート（クリティーク）50 点 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	看護研究は臨床の場でも取り組まれています。看護研究の基本的な知識、看護の実践をもとに論理的、科学的に考える力を身につけましょう。			

専門分野	科 目	基礎看護学概論Ⅲ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	研究Ⅱ	時期	3 年次 後期
担当講師 実務経験	氏家 芳枝 看護師 専任教員 11 年 病院(消化器内科・外科、呼吸器内科、在宅診療など) 15 年			
授業目標	実習の体験からケーススタディの過程を経験し、多角的視点から看護を追求する能力を養う			
回	内 容			方法
1	オリエンテーション～内容とまとめ方 研究計画書の作成			講義 演習
2	ケーススタディのまとめ（原稿作成）			講義・演習
3	ケーススタディのまとめ（原稿作成）			演習
4	ケーススタディのまとめ（原稿作成）			演習
5	ケーススタディ発表準備（発表原稿作成）			演習
6	ケーススタディ発表			発表
7				（口演）
7.5	発表内容の評価（クリティーク、自己評価）（45 分）			講義・GW
テキスト	系統的看護学講座 看護研究（医学書院）※eテキスト 系統的看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	はじめての看護研究 ひとりで学べる看護研究（照林社） 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）			
評価方法	発表・レポート 1 ケーススタディをまとめるにあたっての態度、取り組み状況（評価表：教員評価） 2 ケーススタディのまとめかた、発表時の態度（評価表に沿って） 自己評価表と照らし 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	ケーススタディは自身の行った看護を確認し、発展させていく取り組みです。 担当教員と一緒にその一歩を踏み出しましょう。			

専門分野	科 目	生活を支える技術 I	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	ヘルスアセスメント	時期	1 年次 前期
担当講師 実務経験	嶋原 りつ子 看護師 専任教員 19 年・総合病院(内科・外科・小児科・産婦人科・眼科)22 年			
授業目標	対象の全体像を把握するための情報収集の基礎を理解する。 対象者の身体的な情報について五感を駆使して収集する方法を学ぶ。 身体各部の形態や身体機能を正しく計測し、評価する方法を学ぶ。			
回	内 容			方法
1	ヘルスアセスメントとは・問診（面接）の技術			講義
2	セルフケア能力のアセスメント			講義
3	問診の技術			演習
4	フィジカルアセスメントに必要な技術 視診・触診・聴診・打診の技術			講義・演習
5	全身の概観の把握・身体計測			講義
6	心理的・社会的側面のアセスメント・事例をもとに考える			講義・GW
7	身体計測の実際			演習
7.5	まとめ（45 分）			講義
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 I（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等				
評価方法	筆記試験・レポート課題 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	テキストを読み、予習して講義に臨む。提出課題は評価対象となる。			

専門分野	科 目	生活を支える技術Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名	フィジカルアセスメント	時期	1 年次 前期・後期
担当講師 実務経験	高城 久充子 看護師 専任教員 8 年・総合病院(乳腺・消化器外科、手術室)6 年			
授業目標	フィジカルアセスメントやバイタルサインの基礎的な知識を理解することができる。 対象の身体状態をフィジカルイグザミネーション技術を用いてアセスメントすることができる。			
回	内 容			方法
1	フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション バイタルサインとは			講義
2	体温維持に関する基礎知識・体温測定の実際・意識の観察の実際			講義
3	脈拍に関する基礎知識・脈拍測定の方法			講義
4	呼吸に関する基礎知識・呼吸の観察方法			講義
5	血圧に関する基礎知識・血圧測定の方法			講義
6	バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・SpO ₂ ・血圧）			GW
7				演習
8				
9	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント（心音・肺音聴取・末梢循環）			講義・演習
10				
11	消化器系のフィジカルアセスメント（腸蠕動音聴取・腹部の触診）			講義・演習
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（歩行状態・筋力測定）			講義・演習
13	神経系のフィジカルアセスメント（意識状態・運動機能・感覚機能）			講義・演習
14	感覚器のフィジカルアセスメント（眼位・視力・視野・聴力）			講義・演習
15	まとめ			講義・演習
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）			
評価方法	筆記試験・レポート課題 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	テキストを読み、予習して講義に臨んでください。レポートも評価対象となります。			

専門分野	科 目	生活を支える技術Ⅲ				単位数 時間	1 単位 30 時間
授業目標	人間にとっての環境調整・食事・排泄が、生命・QOL の維持につながることを理解することができる。また対象の基本的欲求とそれに伴う身体メカニズムを理解し、援助に必要な専門的知識・技術・態度を習得する。						
単元名	生活環境		食べる		排 泄		
時期/時間	1 年次前期/10 時間		1 年次前期・後期/10 時間		1 年次後期/10 時間		
担当講師 実務経験	佐藤 知子 看護師 専任教員 25 年 病院(消化器外科、内科、 小児科など)9 年		佐藤 春奈 看護師 教員 2 年 総合病院(乳腺外科、消化器 科、整形外科など)19 年		佐藤 春奈 看護師 教員 2 年 総合病院(乳腺外科、消化 器科、整形外科など)19 年		
回	内 容	方法	内 容	方法	内 容	方法	
1	環境の援助に必要な基礎知識 ・快適な病床環境の条件 ・病室環境のアセスメントと調整の必要性	講義	食事を摂ることの意義、メカニズム	講義 GW	排泄の基礎知識 ・排泄とは何か(生きるために不可欠な排泄) ・トイレに行きたくないのはなぜ?	講義 GW	
2	病床の整備 ・ベッドの構造と種類 ・ベッドメイキングに必要なリネン類の取り扱い ・ベッド周囲の環境	講義 演習	食事援助の基礎知識 ・栄養状態の把握 ・摂食能力のアセスメント	講義 GW	様々な排泄方法 ・排泄行動のプロセス ・尿器・便器、ポータブルトイレの使用方法	講義 演習	
3	ベッドメイキングの実際 ・クローズドベッド、オープンベッドのつくり方 ・リネンのたたみ方	演習	食事援助の実際 ・対象に合わせた食事援助を考える	講義 GW	排泄援助の実際 ・対象の状態に応じた援助を考える(その人の排泄を援助する) ・自然に排泄ができないときはどうするか	講義 GW	
4	臥床患者のリネン交換と療養生活環境の調整の実際	演習	食事介助と口腔ケアの実際	演習	実際にベッド上排泄(おむつ交換・陰部洗浄)の援助をする	演習	
5	生活環境調整における看護師の役割を考える	講義 GW	経管栄養法の実際(経鼻経管栄養チューブの挿入)	講義 演習	・排泄障害への援助(目的、方法、留意点や根拠)	講義 演習	
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)※eテキスト						
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)						
評価方法	筆記試験(生活環境 40 点・食べる 30 点・排泄 30 点の合計 100 点満点で評価)						
履修上の アドバイス	【生活環境】療養環境は患者の闘病意欲や回復過程、QOL(生活の質)に大きく影響している。物理的環境と人的環境条件を理解し、患者個々の健康回復の段階に応じて調整していく視点が持てるように学習する。 【食べる】対象にとっての食事の意義を理解し、援助の必要性を考え観察の視点をもてるように学習する 【排泄】生命維持に不可欠な排泄の意義やメカニズムを解剖生理学と連動して理解し、看護援助に必要な排泄のアセスメント方法を学ぶ。						

専門分野	科 目	生活を支える技術Ⅳ	単位数 時間	1 単位 30 時間
授業目標	人間にとって安寧な生活を送るために必要とされる清潔保持、活動と休息のバランスを保つための援助について、必要性和援助の実際を学習し技術と態度を習得する。			
単元名	清 潔		活 動	
時期/時間	1 年次前期/15 時間		1 年次前期・後期/15 時間	
担当講師 実務経験	氏家 芳枝 看護師 専任教員 11 年 病院(消化器内科・外科、呼吸器内科、 在宅診療など)15 年		後藤 香織 助産師 専任教員 8 年 病院(産婦人科)5 年、診療所(婦人科)1 年	
回	内 容	方法	内 容	方法
1	清潔援助の基礎知識	講義 GW	身体を動かすことの意義	講義 演習
2	清潔援助とアセスメント	講義 GW	廃用症候群、体位変換について	講義 演習
3	清潔に関する援助の実際 (足浴と爪切り)	演習	ボディメカニクスについて 体位変換技術の実際	講義 演習
4	清潔に関する援助の実際 (洗髪と整容)	演習	睡眠・休息の基礎知識	講義
5	清潔に関する援助の実際 (洗髪と整容)	演習	車椅子・ストレッチャーへの 移乗・移送	講義
6	清潔に関する援助の実際 (全身清拭と寝衣交換)	演習	車椅子・ストレッチャーへの 移乗・移送	演習
7	清潔・衣生活に関する援助の実際 (全身清拭と寝衣交換)	演習	車椅子・ストレッチャーへの 移乗・移送	演習
7.5	単元のまとめ(45 分)	講義	まとめ(45 分)	講義
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)※eテキスト			
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)			
評価方法	筆記試験(各単元 50 点の合計 100 点で評価)			
履修上の アドバイス	<p>【身体の清潔を保つ】疾病・障害など何らかの理由により、普段通りの清潔・衣生活の維持が困難になった場合、患者に与える影響(生理学的な面・精神的な面)を考える。清潔保持の意味を踏まえた上で清潔援助の効果を理解し、患者個々に適した援助方法があること、またその具体的な実施方法について留意点を含めて学習する。</p> <p>【姿勢を保つ・活動を整える】全ての看護技術の実践においてボディメカニクスの知識・技術は必要となる。対象・看護者の両者にとって負担のない援助の実践につながるよう習得してほしい技術である。</p>			

専門分野	科 目	生活を支える技術Ⅴ				単位数 時間	1 単位 30 時間
授業目標	診療を受ける対象に安全、安楽な技術を提供するために必要な基本的知識・技術を習得する。 対象と看護者の安全を守るための、感染防止の基礎的知識・技術を習得する。						
単元名	検査・穿刺・治療		罨法・包帯		感 染		
時期/時間	1 年次後期/18 時間		1 年次後期/6 時間		1 年次前期/6 時間		
担当講師 実務経験	氏家 芳枝 看護師 専任教員 11 年 病院(消化器内科・外科、呼吸器内科、在宅診療など)15 年		嶋原 りつ子 看護師 専任教員 19 年 総合病院(内科・外科・小児科・産婦人科・眼科)22 年		佐藤 知子 看護師 専任教員 25 年 病院(消化器外科、内科、小児科など)9 年		
回	内 容	方法	内 容	方法	内 容	方法	
1	臨床検査の意義と種類/臨床検査時の看護師の役割	講義	罨法の基礎知識と援助法/リラクゼーション法	講義 演習	感染防止の基礎知識と標準予防策(演習：手指衛生・個人防護用具)	講義 演習	
2	画像診断における看護師の役割(放射線検査、MRI、核医学検査)	講義	創傷管理の基礎知識と創洗浄/基本的な包帯法	講義 演習	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識と無菌操作の基本、感染経路別の予防策の基本的知識	講義	
3	生体検査の種類・目的・方法と介助(超音波、内視鏡検、心電図、呼吸機能検査、穿刺)	講義 演習	罨法の実際 創洗浄の実際 包帯法の実際	演習	滅菌物の取り扱いと無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い	演習	
4	・放射線防護の3原則 ・各検査時の看護	演習					
5	酸素吸入療法の目的と方法	講義 演習					
6	排痰ケアの基礎知識と援助方法(吸入・吸引の方法)	講義 演習					
7	モデル人形や身体を使って、実際の援助を実践する	演習					
8							
9							
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)※eテキスト						
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院) 成人看護学 成人看護技術 (南江堂)						
評価方法	筆記試験(検査・穿刺・治療 60 点 罨法・包帯 20 点 感染 20 点 合計 100 点満点で評価)						
履修上の アドバイス	【検査・治療】ここで学んだ知識を活用しながら、臨地実習の実際の援助場面で見学や体験することができるようにしましょう。 【罨法・包帯・穿刺】今回の学習を臨地実習での実際の援助場面で知識を活用しながら見学や体験することができるようにしましょう。 【感染】安全安楽な援助を行う上では、清潔不潔の区別をしっかりと理解し感染防止に努める必要がある。						

専門分野	科 目	生活を支える技術Ⅵ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	与 薬	時期	2 年次 前期
担当講師 実務経験	氏家 芳枝 看護師 専任教員 11 年 病院（消化器内科・外科、呼吸器内科、在宅診療など）15 年			
授業目標	対象に薬剤を投与する「与薬」は、医師の指示に基づいて行われる診療補助技術であることを理解し、科学的根拠に基づき対象へ安全で効果的な与薬を実施するために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。			
回	内 容			方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与薬の基礎的知識（目的・種類・方法） ・ 薬物療法における多職種との役割と連携、与薬における看護師の役割 ・ 安全な与薬を行うための 6R、ダブルチェック 			講義・GW
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経口薬の投与 ・ 経皮・外用薬の投与 ・ 坐薬の投与 ・ 麻薬・劇薬・毒薬の管理 			講義・GW
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各薬剤投与の実際（経皮・外用薬、坐薬） ・ 麻薬の投与と残薬の処理 			講義・演習
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注射の目的・種類と方法 （皮下注射・皮内注射・筋肉内注射・静脈内注射・点滴静脈注射・輸液ポンプ・中心静脈カテーテル） ・ 注射器具の使用方法・針刺し事故防止の対策 			講義・演習
5	注射演習①（注射の準備と皮下注射・筋肉内注射の実施）			演習
6	注射演習②（静脈内注射の実施）			演習
7	注射演習③（点滴静脈内注射・輸液ポンプの取り扱い）			演習
7.5	与薬における看護師の役割（45 分）			講義・GW
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）			
評価方法	筆記試験 80 点 ＋ 演習時の提出物 20 点 ／ 100 点			
履修上の アドバイス	これまで学習した知識を活用し、安全な与薬を行うためにはどうすればいいのか、看護師に求められる役割は何かを考えながら正確な与薬技術を習得しましょう。			

基礎分野	科 目	臨床判断する力 I	単位数 時間	1 単位 45 時間
	単元名		時期	1 年次 後期
担当講師	佐藤 香 看護師 専任教員 6 年 総合病院 (NCU、外科・ICU、消化器科など) 22 年 渡邊 留美 保健師・看護師 専任教員 3 年 病院 (特殊疾患病棟・急性期病棟) 17 年 佐藤 春奈 看護師 教員 2 年 総合病院 (乳腺外科、消化器科、整形外科など) 19 年			
授業目標	①日常生活援助場面を、ヘンダーソンの基本的欲求 (14 項目) から統合して捉える ②捉えたことから判断し、看護援助を実践する ③実践した場面からリフレクションし次の課題を見つける ④課題をメンバーと共有し省察する			
回	内 容			方法
1 ～ 19	看護に求められる臨床判断能力とは何かを実技を通して考える 日常生活の援助場面、食べる・排泄・活動と環境の 3 事例を基に場面で必要とされる看護援助を実践する ①事例提供と気づきの共有 ②事例のアセスメント：観察・援助の視点を考える ③シミュレーション（援助の実践発表） リフレクション：個人→他者との対話→集団での振り返り ・背景に気付く ・解釈する ・反応を捉える ④省察・まとめ ※1 事例を 6 回×3 事例展開			演習 実技
20 ～ 22.5	実践評価（実技試験） 提示された事例から、状況を判断する能力を評価する			実技試験
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 I（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 基礎看護技術 II（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 臨床看護総論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	事例内容によりその都度指示			
評価方法	課題・学びのレポート 70 点、実践評価 30 点 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	臨床判断は看護するうえで大切な能力となります。その基礎を身に付けられるように、グループのメンバーと協力して学んでいきましょう。			

基礎分野	科 目	臨床判断する力Ⅱ	単位数 時間	1 単位 45 時間
	単元名		時期	2 年次 後期
担当講師	佐藤 香 看護師 専任教員 6 年 総合病院(NCU、外科・ICU、消化器科など) 22 年 渡邊 留美 保健師・看護師 専任教員 3 年 病院(特殊疾患病棟・急性期病棟) 17 年 佐藤 春奈 看護師 教員 2 年 総合病院(乳腺外科、消化器科、整形外科など) 19 年			
授業目標	①患者から得られる情報を関連させ、その背景や原因を考えられる ②患者に及ぼしている影響を気づくことができる ③科学的思考の視点から援助を計画できる ④患者の安全・安楽を踏まえ看護援助を実践できる			
回	内 容			方法
1 5 20	事例を提示し、看護実践と臨床判断能力の関係性を、実技を通して考える （循環、呼吸、栄養に関する診療の補助業務を経験し、 対象の観察と異常の早期発見のための技術について学ぶ） 実習で出会う対象の中から事例を使い①～⑤を実践する ①事例の提示と気づきの共有 ②対象の症状や観察した情報から考える ・対象から出ているサインを読み取る ・正常・異常 体の中で何が起きているのかを考える ③必要な観察・援助を考える ④シミュレーション（援助の実践発表） リフレクション 個人→他者との対話→集団で振り返る ・背景に気付く ・解釈する ・反応を捉える ⑤省察・まとめ			演習 実技
21 5 22.5	実践・評価 5 時間 提示された事例から状況判断し、観察・援助する能力を評価する			実技 試験
テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	事例内容によりその都度指示			
評価方法	課題・学びのレポート 70 点、実践評価 30 点 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	臨地実習での経験を振り返りながら、看護に必要とされる臨床判断能力を養います。 グループメンバーと協力し、学びを共有しながら学習していきましょう。			

専門分野	科 目	地域とくらし	単位数 時間	2 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師	日下部 ひとみ 看護師 専任教員 13 年・総合病院(内科・性差医療センター等)9 年、保健指導相談員 8 年			
授業目標	自分が生活している地域の特性を理解する 地域で暮す人の生活の実際を知る			
回	内 容			方法
1	生活環境と暮らし 自分の住んでいる地域を理解する			講義
2	人々の暮らしを理解する			講義
3	地域の理解と地域包括ケアシステム			講義
4	学校のある地域を理解する			演習
5	(車いす体験・視覚障害への手引き体験)			
6	福島市の地域の特性と課題を調べる			演習
7	地域資源マップ作製①			演習・GW
8	地域資源マップ作製②			演習・GW
9	地域資源マッププレゼンテーション準備			演習・GW
10	発表			演習
11	暮らしが人々の生活に与える影響、健康が暮らしに与える影響			講義
12	地域・在宅看護が提供される場			講義
13	地域でその人らしく生活するための社会資源			講義・演習
14	地域で暮らす人々への看護の役割			講義
15	まとめ			講義
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院			
参考文献 参考書等	地域の広報誌など			
評価方法	課題レポート 10 点 筆記試験 90 点 合計 100 点			
履修上の アドバイス	生活の基盤となる地域を理解し、自分が地域で生活する一員であることを自覚して下さい			

専門分野	科 目	地域コミュニティ論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	1 年次 後期
担当講師	森 明人 大学 准教授			
授業目標	地域コミュニティの機能と構造を理解する。 身近な市町村・自治体の圏域の考え方と社会資源の配置について理解する。			
回	内 容			方法
1	地域コミュニティとは何か 現在の日本社会とコミュニティについて概観し、コミュニティ理解の3つの視点について学びます。その上で、人口減少や少子高齢化、単身化社会の諸相について理解します。			講義
2	支え合うコミュニティ 社会的孤立・ひきこもり等が社会的共通課題になる中で、小中学校区・町内会を基盤とする地域福祉活動等の社会資源をめぐる現状と課題について学びます。			講義
3	ケアとコミュニティ ケアリングコミュニティについて、ケアの当事者性、地域自立生活支援、参加・協働、地域共生社会の制度・政策、地域経営について学びます。			講義
4	市町村と地域自治について 地方自治の基本的な仕組みを概観しながら、多様な地域課題に対応する市町村行政組織と地域自治組織の連携について学びます。			講義
5	介護保険制度と地域包括ケアシステム 市町村の地域包括支援センターを中心とする地域包括ケアシステムの構築と展開における地域コミュニティの役割について学びます。			講義
6	地域共生社会の実現と地域づくりの展望 地域共生社会と全世代・全対象型の地域包括支援体制の構築に向けた政策の動向と地方自治体の事例について学びます。			講義
7	コミュニティプロファイリングについて 福島市社協の地域福祉活動計画の内容をベースに、地域のニーズと社会資源を包括的に記述する方法について学びます。			講義
7.5	これまでの講義を総括し、ディスカッション形式で進めます。(45 分)			講義
テキスト	適宜資料を配布します。			
参考文献 参考資料等	適宜資料を配布します。			
評価方法	ミニテスト 40%、受講態度 60%を総合的に評価します。 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	保健・医療・介護・福祉などを始めとする人々の社会生活を支えるの基本的な社会資源を身近な市町村をもとに学習します。			

専門分野	科 目	地域・在宅看護論概論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	概 論	時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	畠山 とも子 看護師 総合病院（腎臓内科など）26 年、大学 20 年			
授業目標	保健・医療・福祉ケアシステムの中での在宅看護の位置づけを理解し、在宅における看護職の役割を学ぶ			
回	内 容			方法
1	在宅看護の目的と特徴			講義
2	在宅看護の対象者（1）			講義
3	在宅看護の対象者（2）			講義
4	在宅療養の支援			講義
5	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用（1）			講義
6	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用（2）			講義
7	在宅看護の展開（1）			講義
7.5	在宅看護の展開（2）（45 分）			講義
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考資料等	家族看護を基礎とした在宅看護論Ⅰ 実践編（日本看護協会出版会）			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	テキストを中心に予習・復習して講義に臨んでください。			

専門基礎分野	科 目	地域・在宅での生活を支える看護Ⅰ	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期
担当講師 実務経験	北村 理恵 看護師 総合病院(脳神経外科など)等 11 年			
授業目標	療養者の日常生活から必要とされる看護支援を見極めるための動作分析と在宅で求められる医療技術と看護を学ぶ			
回	内 容			方法
1	在宅で看護を展開するにあたって			講義
2	呼吸器に関する在宅看護技術			講義
3	食生活・嚥下に関する在宅看護技術			講義
4	排泄に関する在宅看護技術			講義
5	移動・移乗に関する在宅看護技術			講義
6				
7	清潔に関する在宅看護技術			講義
8	認知機能のアセスメント法と援助技術 コミュニケーションの支援			講義
9	在宅におけるエンドオブライフケア			講義・GW
10	褥瘡の予防とケア			講義
11	尿道留置カテーテル ストーマ（人口肛門・人口膀胱）			講義
12	経管栄養法 在宅中心静脈栄養法（HPN）			講義
13	非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） 在宅酸素療法（HOT） 人口呼吸療法（HMV）と排痰法			講義
14	外来がん治療の支援 疼痛緩和			講義
15				
テキスト	系統看護講座 地域・在宅看護の実践（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考資料	写真でわかる訪問看護アドバンス（インターメディカ） 在宅看護技術ガイド（学研）			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	在宅看護論など統合分野で学習した知識と日常生活援助技術を復習し、講義に臨んでください。			

専門基礎分野	科 目	地域・在宅での生活を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間	
	单元名		時期	3 年次 前期	
担当講師 実務経験 (時間)	渡部 典美 保健師 診療所・訪問看護ステーション・介護支援事業所等 35 年（16 時間） 飯田 佳奈子 看護師 総合病院等 13 年・訪問看護ステーション 10 年（14 時間）				
授業目標	在宅看護活動の実践例から多様な対象への看護を理解する				
回	内 容			方法	講師
1	在宅看護介入時期別の特徴			講義	渡部
2				GW	
3	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開			講義	飯田
4	パーキンソン病の療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	渡部
5	認知症療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	飯田
6	小児の療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	飯田
7	ALS で人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開			講義	渡部
8	COPD の療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	渡部
9	独居の療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	飯田
10	終末期の療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	飯田
11	統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	渡部
12	シュミレーション学習 2 回～11 回の具体的事例の看護展開を行う 技術を伴う演習を行う			講義 GW	飯田
13					渡部
14					
15					
テキスト	系統看護講座 地域・在宅看護の実践（医学書院）※eテキスト				
参考文献 参考資料	家族看護を基礎とした在宅看護論Ⅱ 実践編（日本看護協会出版会）				
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）				
履修上の アドバイス	テキストの予習をお願いします。 事例がある場合はイメージできるようにしておいてください。				

専門分野	科 目	成人看護学概論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	概 論	時期	1 年次 前期
担当講師 実務経験	佐藤 知子 看護師 専任教員 25 年 病院（消化器外科、内科、小児科など）9 年			
授業目標	成人期の特徴を理解し、成人期における健康問題を解決するために必要となる対象のセルフケア能力を活かし、対象が自己の健康を管理できるように支援できる看護師の役割を学ぶ			
回	内 容			方法
1	成人の生活状況の特徴と健康問題			講義
2	ライフスタイルと疾病のつながり			講義・GW
3	成人への看護アプローチの基本			講義
4	地域社会や職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護			講義
5	成人の健康レベルに対応した看護（急性期）			講義
6	成人の健康レベルに対応した看護（回復期）			講義・GW
7	成人の健康レベルに対応した看護（慢性期）			演習・GW
7.5	成人の健康行動を考える＝自分の生活を見てみよう（45 分）			発表
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	国民衛生の動向			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	国民衛生の動向を参考に社会の状況と大人の生活環境がどのように影響しあっているか考え、健康教育の実践につながるヘルスプロモーションを促進する看護を学びましょう			

専門分野	科 目	成人の生活を支える看護Ⅰ				単位数 時間	1 単位 30 時間		
单元名	危機的状況にある人の看護 呼 吸		危機的状況にある人の看護 循 環		危機的状況にある人の看護 栄 養				
時期/時間	1 年次後期/10 時間		1 年次後期/10 時間		1 年次後期/10 時間				
担当講師 実務経験	今野 暁子 呼吸器疾患看護認定看護師 総合病院 (内科・呼吸器外来など)29 年		鈴木 安英 クリティカルケア認定看護師 総合病院 (救急・脳神経外科など)18 年		佐藤 知子 看護師 専任教員 25 年 病院(消化器外科、内科、 小児科など)9 年				
授業目標	・呼吸器疾患看護について具 体的な経験や事例と結び付け 患者をイメージできるように なる。 ・呼吸器疾患看護の基礎知識 を習得し、看護実践・患者指導 に活用することができる。		循環機能障害をもつ対象の 問題を統計的にとらえ、危 機状況にある対象への看 護の方法を理解する。		①消化器に疾患を持つ患者の 特徴を理解する ②消化器疾患患者に必要な看 護援助を学ぶ ③消化器看護における看護師 の役割を理解する				
回	内 容		方法	内 容		方法	内 容		方法
1	フィジカルアセスメント		講義	循環器の基礎症状、 心不全の看護		講義	人間にとっての食べるこ との意味 疾患による生命・生活へ の影響		講義
2	検査を受ける患者の看護		講義	循環器治療における看護		講義	検査を受ける患者の看護		講義
3	呼吸器疾患をもつ対象の アセスメントと看護		講義	補助循環、心電図不整脈		講義	胃がん患者の看護 1)術前・術後の看護 急性期における身体 状況の変化と心理的变化 2)回復期の看護日常生活 の再調整		講義
4	呼吸器疾患治療における 看護 (吸入療法・酸素療法)		講義	循環器特融の薬剤と看護		講義	肝硬変のある人への看護 1)未発症にある人への 支援(代償期) 2)症状を呈している人 への支援(非代償期) 3)病状の変化に伴う心 理的支援		講義
5	呼吸器疾患治療における 看護 (胸腔ドレナージ・ 人口呼吸器)		講義	循環器症例のアセスメン ト		講義	人工肛門を造設する人へ のセルフケア再獲得 1)人工肛門とは 2)日常生活および職業 生活に向けた人工肛門の セルフケアの確立		講義
テキスト	系統看護学講座 呼吸器 (医学書院) ※eテキスト 系統看護学講座 循環器 (医学書院) ※eテキスト 系統看護学講座 消化器 (医学書院) ※eテキスト								
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術 (南江堂)								
評価方法	筆記試験 (呼吸 30 点、循環 30 点、栄養 40 点 合計 100 点満点で評価)								
履修上の アドバイス	【呼吸】講義では具体例を入れて経験や事例を結び付け、意味づけと理解を深める。 学習の目的を明確に伝え、目的を自覚し学習に取り組めるようにする。 自己効力がたかまるよう、講義では言語的賞賛によってポジティブフィードバックして学習で得た 知識を尊重する。 【循環】主に講義で進めますが、症例等をふまえ、実際に考えてもらうようにしたいと思い ます。また、講義資料はパワーポイントで作成し、配布資料にも工夫をしたいと思います。 【栄養】“食べる”ことの重要性を理解し、事例から患者さんは疾患により日常生活にどの ような影響を受けることになるのか、また講義全体から消化器看護の特徴と看護師の役割を 学びましょう。								

専門分野	科 目	成人の生活を支える看護Ⅱ		単位数 時間	1 単位 30 時間	
单元名	障害受容期にある人の看護 感覚		障害受容期にある人の看護 脳神経		障害受容期にある人の看護 運動	
時期/時間	2 年次前期・後期/10 時間		2 年次前期・後期/10 時間		2 年次前期・後期/10 時間	
担当講師 実務経験	佐々木 駿輔 看護師 総合病院 5 年		大内 由里子 脳卒中リハビリテーション認定看護師 病院(脳神経外科)17 年 訪問看護ステーション 6 年		五十嵐 奈美子 看護師 総合病院(整形外科)等 29 年	
授業目標	感覚機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる		健康状態に急激な変化を受け回復的な段階にある成人の特徴を理解し、障害受容期にある人の健康問題を統合的に捉え、障害受容と障害の改善と克服への看護の展開を学ぶ		運動機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、障害受容期にある対象への看護の方法を学ぶ	
回	内 容	方法	内 容	方法	内 容	方法
1	眼科看護 (眼圧検査、治療、IOL、網膜剥離、緑内障、外来診察・点眼法の看護)	講義	1 脳神経障害症状のアセスメントと看護の視点 1) 意識障害、高次機能障害 2) 運動(麻痺・失調)・感覚の異常、失語、けいれん 3) 嚥下障害、呼吸障害、排泄障害、バイタルサインの変化	講義	運動機能障害をもつ対象の特徴と看護の役割	講義
2	皮膚科 (アトピー、熱傷、症状と対象看護)	講義	2 脳神経機能検査時における看護 1) 髄液検査 2) 脳波 3) 脳血管造影 3 脳神経治療における看護(開頭術・穿頭術・血管バイパス術)	講義	運動機能障害に伴って生じる主要症状に対する看護	講義
3	皮膚科 (帯状疱疹、疥癬、スキンケア、褥瘡、泡洗浄)	講義	3 脳神経治療における看護(血管内治療・脳室ドレナージ術・脳室-腹腔シャント術) 4 脳神経障害をもつ対象のアセスメントと看護(脳血管障害)	講義	運動機能障害を持つ対象の検査・治療に対する看護	講義
4	口(抜歯、がん看護) 鼻(出血、副鼻腔炎)	講義	4 脳神経障害をもつ対象のアセスメントと看護(脳腫瘍・脳梗塞・小脳疾患)	演習	運動機能障害を持つ対象のアセスメントと看護	講義
5	耳鼻科(メニエール、突発性難聴などの検査、オーディオメーター、咽頭・咽喉がん患者の看護)	講義	4 脳神経障害をもつ対象のアセスメントと看護(頭部外傷・脊髄損傷・脳死状態)	講義	運動機能障害をもつ対象のアセスメントと看護	講義
テキスト	系統看護学講座 皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯・口腔(医学書院)、系統看護学講座 脳・神経(医学書院)、系統看護学講座 運動器(医学書院) ※eテキスト					
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術(南江堂)					
評価方法	筆記試験(感覚 30 点、脳神経 40 点、運動 30 点 合計 100 点満点で評価)					
履修上の アドバイス	【感覚】パワーポイントと教科書を使用します。教科書を持参してください。 【脳神経】解剖生理・病態生理など専門基礎分野で学習した知識と日常生活援助技術を復習し講義に臨んでください。 【運動】解剖生理、専門基礎分野で学んだ各機能障害について復習しておいてください。それぞれの機能障害をもつ患者の特徴と機能障害が生活に与える影響を考え、看護の役割に結び付けてください。					

専門分野	科 目	成人の生活を支える看護Ⅲ				単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	セルフケア期にある人の看護 内部環境調節		セルフケア期にある人の看護 代 謝		セルフケア期にある人の看護 生体防御		
時期/時間	2 年次前期・後期/10 時間		2 年次前期・後期/10 時間		2 年次前期・後期/10 時間		
担当講師 実務経験	茂木 光代 看護師・大学非常勤講師 総合病院等 9 年 訪問看護ステーション 1 年		幕田 香 皮膚排泄ケア認定看護師 総合病院 (循環器科・脳神経外科など)22 年		日下部 ひとみ 看護師 専任教員 13 年 総合病院(内科など)9 年 保健指導相談員 8 年		
授業目標	内部環境調節機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、慢性期にある対象への看護の方法を理解する		成人期にある対象の特性をふまえ、栄養代謝・内分泌環境・栄養代謝機能に健康障害を持つ対象への看護について学び、看護実践につながる事ができる		1. 生体防御機能障害が生活に与える影響を理解することが出来る 2. 生体防御機能障害に行われる、検査・治療時の看護を理解することができる 3. 生体防御機能障害の経過に応じた看護を理解することができる 4. 生体防御機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる		
回	内 容	方法	内 容	方法	内 容	方法	
1	内分泌機能障害症状の7セメントと看護の視点	講義	代謝機能障害症状のアセスメントと看護	講義	生体防御機能とその障害（アレルギー反応）	講義	
2	内分泌機能検査時の看護(ホルモン負荷試験・ホルモン濃度測定) 内分泌疾患の治療における看護(ホルモン・手術療法)	講義	代謝機能障害時の治療における看護	講義	生体防御機能障害の症状と看護（貧血）	講義	
3	内分泌機能障害をもつ対象のアセスメントと看護（パセドウ病）	講義	高尿酸血症、高脂血症、肥満における看護	講義	造血器腫瘍患者の看護	講義	
4	腎機能障害症状のアセスメントと看護の視点 腎機能検査時の看護（静脈性尿路造影、腎機能検査、腎生検）	講義	インスリン自己注、S N B G、フットケア演習	演習	生体防御機能障害患者の検査・治療	講義	
5	腎機能治療における看護（食事・運動療法・透析・腎移植） 慢性腎不全・ネフローゼ症候群をもつ対象のアセスメントと看護	講義	糖尿病患者の看護過程の展開 小テスト	講義	自己免疫疾患（膠原病・HIV）	講義	
テキスト	系統看護学講座 血液・造血器、系統看護学講座 内分泌・代謝、 系統看護学講座 腎・泌尿器、系統看護学講座アレルギー- 膠原病 感染症(医学書院)※eテキスト						
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）						
評価方法	筆記試験（内部環境調節 30 点、代謝 30 点、生体防御 40 点 合計 100 点満点で評価）						
履修上の アドバイス	【内部環境調節】テキストを中心に自学自習に励むこと。 【代謝】事前にテキスト等で予習しておくこと。 【生体防御】解剖生理、専門基礎分野で学んだ各機能障害について復習しておいてください。それぞれの機能障害をもつ患者さんの特徴と機能障害が生活に与える影響を考え、看護の役割にについて考えてもらうとともに、患者さんの苦痛を理解し、実際にどのように患者さんに関わっていくかについても考えてもらいたいです。						

専門分野	科 目	老年看護学概論	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名	概 論	時期	1 年次 前期・後期
担当講師 実務経験	日下部 ひとみ 看護師 専任教員 13 年・総合病院(内科・性差医療センター等)9 年、保健指導相談員 8 年			
授業目標	老年期の特徴や生活を理解し、高齢者の健康と生活を支える看護を理解する。 また、高齢者に関連する保健・医療・福祉制度や倫理的な問題と課題について習得する。			
回	内 容			方法
1	老年看護学概論の概要・高齢者のイメージ			講義・GW
2	ライフサイクルからみた老年期（高齢者の生活史）			講義
3	加齢に伴う身体機能の変化と特徴			講義
4	①高齢者に関心をもつ（DVD 学習）			講義・GW
5	②加齢に伴う心身機能の変化と特徴			
6	高齢者をとりまく社会を理解する①（高齢社会の統計的輪郭）			講義
7	高齢者をとりまく社会を理解する②（地域包括ケアシステム）			講義
8	高齢社会における保健医療福祉の動向			講義
9	老年看護の特徴と役割			講義
10	認知症理解する（DVD 学習）			講義・GW
11				
12	高齢社会における権利擁護			講義
13	①高齢者疑似体験			演習
14	②高齢者体験レポート			
15	超高齢社会における老年看護			講義
テキスト	系統看護学講座 老年看護学（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	日常生活でも高齢者の様子を観察したり、身近な高齢者とコミュニケーションをとるなど高齢者に興味や関心をもって下さい。 高齢者に対するイメージを具体的に持ち、発見や共感を得て欲しいと思います。 知識を得るだけでなく、老年看護を実践する人として、高齢者の権利擁護のための判断力や行動力も身につけて下さい。			

専門分野	科 目	老年の生活を支える看護 I	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名	健康障害、医療福祉	時期	2 年次 前期・後期
担当講師 実務経験	茂木 光代 看護師・大学准教授 総合病院等 9 年、訪問看護ステーション 1 年実務経験有			
授業目標	1. ヘルスアセスメントの基本を理解する 2. 加齢と健康障害がもたらす生活への影響を理解し、より健康的に生きていくための支援方法を理解する 3. 老年期に特有な症候、疾患と看護について理解する 4. 終末期における看護および家族への援助を理解する			
回	内 容			方法
1	ヘルスアセスメントの基本			講義
2	身体の加齢的变化：皮膚（老人性皮膚掻痒症）、視覚障害（白内障、他） 聴覚障害（難聴）、循環器系（心不全）、呼吸器系（COPD）			講義
3	身体の加齢的变化：消化器系、泌尿器系、運動系（サルコペニア、ロコモティブシンドローム）			講義
4	高齢者の生活機能を整える看護：転倒（骨折、骨粗鬆症）廃用症候群			講義
5	高齢者の生活機能を整える看護：食事（誤嚥性肺炎）排泄（失禁）			講義
6	高齢者の生活機能を整える看護：清潔（褥瘡）、睡眠障害			講義
7	高齢者の生活機能を整える看護：コミュニケーション障害、社会参加			講義
8	高齢者に起きやすい症候と看護（発熱、疼痛、脱水）			講義
9	高齢者に起きやすい症候と看護（浮腫、嘔吐、倦怠感）			講義
10	老年期に特徴的な疾患と看護（脳卒中、糖尿病、がん）			講義
11	老年期に特徴的な疾患と看護（パーキンソン病、インフルエンザ）			講義
12	老年期に特徴的な疾患と看護（高齢者のうつ、せん妄）			講義
13	老年期に特徴的な疾患と看護（認知症）			講義
14	治療を必要とする高齢者の看護（検査、薬物療法、手術）			講義
15	エンドオブライフケア（意思決定の支援、家族支援）			講義
テキスト	系統看護学講座 老年看護学（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 老年看護学 病態・疾患論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	テキストを中心に自学自習に励むこと。			

専門分野	科 目	老年の生活を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	健康・医療・福祉制度の理解		時期	2 年次 前期
担当講師 実務経験 (時間)	森 美樹 松本 美幸 八巻 桂子	社会福祉士 看護師 看護師	包括支援センター等 29 年 (8 時間) 総合病院 23 年 (12 時間) 総合病院 21 年 (10 時間)	
授業目標	・住民が歳を重ねても自分らしく暮らし続けるために必要な仕組みや制度を知る。 またその運用のために医療・介護の専門職が果たすべき役割について知ることができる ・高齢者が地域で生活するために健康・医療・福祉の制度を、事例を通して理解する。			
回	内 容			方法 講師
1	地域包括ケアシステムの構築と推進について			講義 森
2	認知症施策と介護保険利用の流れ			講義 森
3	介護予防と社会資源			講義 森
4	権利擁護とそのための諸制度			講義 森
1	高齢者の在宅生活を支える看護サービスについて理解する 高齢者のヘルスプロモーションについて			講義 松本
2	在宅高齢者の看護について（訪問看護）			講義 松本
3	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護について 多職種連携実践による活動について			講義 松本
4	治療を必要とする高齢者の看護について リハビリテーションを受ける高齢者の看護について KYT について			講義 松本
5	入院治療を受ける高齢者の看護について			講義 松本
6	対象の生活環境のアセスメント調整について まとめ			講義 松本
1	介護保険法の復習			講義 八巻
2	介護保険法を考慮した事例（グループワーク）			講義 GW 八巻
3	介護保険施設			講義 八巻
4	介護保険施設における看護、グループホーム			講義 八巻
5	介護小規模多機能型居宅介護、地域密着型、サービス付き高齢者向け住宅			講義 八巻
テキスト	系統看護学講座 老年看護学（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（森 30 点、松本 40 点、八巻 30 点 合計 100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	【森】“自分らしく暮らすことへの支援”をキーワードとして学習を進めてください。 【松本・八巻】学びを通して改めて高齢者が地域生活することの大切さを学んでください。			

専門分野	科 目	小児看護学概論	単位数 時間	1 単位 30 時間
单元名	概 論			
授業目標	小児看護の変遷を学び小児看護の現状と今後の課題を理解する。 小児看護の対象である子どもの健康の保持・増進、健康の回復を促すためには、子どもと家族がおかれている社会環境についても様々な側面から学びを深めることができる。			
時期/時間	1 年次後期/10 時間		1 年次後期/20 時間	
担当講師 実務経験	茂木 光代 看護師・大学非常勤講師 総合病院等 9 年、訪問看護ステーション 1 年		山下 敦子 保健師・大学講師 保健センター 4 年、地域包括など 9 年	
回	内 容			方法 講師
1	小児看護の特徴と理念 小児看護の目ざすところ (1)小児看護の対象 (2)小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計 (1)わが国の人口構造 (2)小児の死亡 (3)出生と家族			講義 茂木
2	小児看護の変遷 小児看護における倫理			講義 茂木
3	小児看護の課題 (1)疾病構造の変化と小児看護 (2)社会の変化と小児看護 (3)小児看護の専門分化			講義 茂木
4	小児と家族を取り巻く社会 (1)子どもにとっての家族とは (2)現代家族の特徴 (3)児童福祉			講義 茂木
5	小児と家族を取り巻く社会 (1)母子保健 (2)医療費の支援 (3)予防接種 (4)学校保健安全 (5)特別支援教育 (6)臓器移植法			講義 茂木
6	ガイドンス、赤ちゃんの発達について			講義 山下
7	成長、発達について			講義 山下
8	成長、発達について 発達検査等について			講義 山下
9	新生児について（呼吸・循環・ビリルビン代謝 他）			講義 山下
10	新生児について（成熟度・消化器・神経系・生活（看護））			講義 山下
11	乳児・幼児期（生理的機能・運動器の発達・言語機能の発達）			講義 山下
12	乳児・幼児期（授乳・離乳食等）			講義 山下
13	幼児期・学童期			講義 山下
14	学童期・思春期			講義 山下
15	思春期・青年期			講義 山下
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（茂木 40 点、山下 60 点 合計 100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	【茂木】テキストを中心に自学自習に励むこと。 【山下】教科書を熟読し、予習・復習に努め、理解を深めてください。			

専門分野	科 目	小児の生活を支える看護 I	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	健康障害			
授業目標	健康障害のある小児の疾患・治療の特徴を理解し、看護に必要な知識を学ぶ			
時期/時間	2 年次前期/30 時間			
担当講師 実務経験	鈴木 順造 医師 総合病院(小児科)等 52 年 弓削田 英知 医師 総合病院(小児科)等 44 年 氏家 二郎 医師 総合病院(小児科)等 44 年			
回	内 容			方法 講師
1	代謝異常 糖代謝異常			講義 鈴木
2	内分泌			講義 鈴木
3	アレルギー 膠原病 免疫不全			講義 鈴木
4	呼吸器疾患			講義 鈴木
5	循環器疾患			講義 鈴木
6	血液疾患			講義 鈴木
7	悪性腫瘍疾患			講義 鈴木
8	ウイルス感染症			講義 弓削田
9	細菌・その他感染症			講義 弓削田
10	腎・尿路疾患 (1)			講義 弓削田
11	腎・尿路疾患 (2)			講義 弓削田
12	先天異常と看護			講義 氏家
13	新生児の看護			講義 氏家
14	先天性代謝異常 内分泌疾患			講義 氏家
15	小児神経疾患			講義 氏家
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) ※e テキスト 系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院) ※e テキスト			
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験 (鈴木 40 点、弓削田 30 点、氏家 30 点 合計 100 点満点で評価)			
履修上の アドバイス	解剖生理、専門基礎分野で学んだ各機能障害について復習しておいてください。 それぞれの機能障害をもつ患児の特徴と機能障害が生活に与える影響を考え、看護の役割に結び付けてください			

専門分野	科 目	小児の生活を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	小児看護技術		時期	2 年次 前期・後期
担当講師 実務経験 (時間)	高城 久充子 看護師 専任教員 8 年 総合病院(乳腺・消化器外科、手術室)6 年 (20 時間) 高橋 真弓 看護師 総合病院(小児科など)17 年 (10 時間)			
授業目標	・健康障害と共に生きる子どもとその家族への支援について学び、事例展開ができるようになる。また、小児看護に必要な基本的な看護技術も身につける。 障がいのある子どもと家族の特徴や看護について理解する。 ・健康障害をもつ子どもとその家族に対して紙上で看護過程を展開し、看護を行う時の考え方・手順を理解する。			
回	内 容			方法 講師
1	検査・処置を受ける子どもの看護①			講義 高城
2	検査・処置を受ける子どもの看護②			講義 高城
3	障がいのある子どもと家族の看護			講義 高城
4	子どもの虐待と看護/事故・外傷と看護			講義 高城
5	子どものアセスメント 事例展開① 急性胃腸炎・脱水			講義 高城
6	子どものアセスメント 事例展開② 発表			講義 高城
7	小児看護技術① 演習 身体計測、バイタルサイン測定、抑制、与薬、吸入、吸引、 点滴の固定法・観察、応急処置			演習 高城
8				演習 高城
9				演習 高城
10	小児看護技術・まとめ			講義 高城
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護			講義 高橋
2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 入院中・外来・在宅療養・災害時の子どもと家族の看護			講義 高橋
3	子どもにおける疾病の経過と看護 慢性期・急性期・周手術期・終末期			講義 高橋
4	症状を示す子どもの看護			講義 高橋
5	小児看護における看護過程の展開：紙上事例を通して （気管支喘息、肺炎、ネフローゼ、白血病など）			講義 演習 高橋
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス 国民衛生の動向 適宜関係図書紹介			
評価方法	高城 60 点 試験・レポートで評価する。 高橋 40 点 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	テキストを読み、予習をして講義に臨んでください。病児とその家族への基本項目と課題について共に考えていきたいと思います。			

専門分野	科 目	母性看護学概論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	概 論	時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	後藤 香織 助産師 専任教員 8 年、病院(産婦人科)5 年、診療所(婦人科)1 年			
授業目標	1. 母性看護の基盤となる概念を理解する 2. 母性看護の対象とその対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する 3. 女性のライフステージに伴う健康問題と看護の必要性を理解する			
回	内 容			方法
1	母性とは 親になること			講義
2	セクシュアリティ リプロダクティブヘルス/ライツ			講義
3	母性看護の歴史的変遷 母性看護に関する法律と制度			講義 GW
4	母子保健に関する統計			講義 GW
5	リプロダクティブヘルスケア 女性のライフステージ各期の健康問題と看護（思春期・成人期）			講義
6	リプロダクティブヘルスケア 女性のライフステージ各期の健康問題と看護（成人期）			講義
7	リプロダクティブヘルスケア 女性のライフステージ各期の健康問題と看護（更年期・老年期）			講義
7.5	生命倫理 母性看護とは（45 分）			講義 GW
テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	国民衛生の動向			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	ワークシートを使用するので重要事項を記入する。 教科書で調べた場所は、マーカーや付箋を活用する。 グループワークでは、活発に意見交換をする。			

専門分野	科 目	母性の生活を支える看護Ⅰ			単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	妊娠期					
授業目標	妊娠の成立など生殖に関する健康問題を理解する 妊娠期の正常な経過を理解する 妊娠週数に応じた母体と胎児の変化を理解する 妊娠期に必要な看護を理解し、看護実践能力を養う 妊娠期の異常と必要な看護を理解する					
時期/時間	2 年次前期/10 時間			2 年次前期/20 時間		
担当講師 実務経験	呉竹 昭治 医師 総合病院(産婦人科)8 年、診療所(産婦人科)29 年 大和田 真人 医師 総合病院(産婦人科)19 年、病院(産婦人科)15 年			後藤 香織 助産師 専任教員 8 年 病院(産婦人科)5 年、診療所(婦人科)1 年		
回	内 容	方法	講師	内 容	方法	
1	不妊治療と排卵 妊娠のしくみ	講義	呉竹	妊娠期とは	講義	
2	不妊治療	講義	呉竹	妊娠初期の妊婦健診と保健指導	講義	
3	正常な妊娠経過	講義	大和田	妊娠中期の妊婦健診と保健指導	講義	
4	妊娠の異常①	講義	大和田	妊娠後期の妊婦健診と保健指導	講義	
5	妊娠の異常②	講義	大和田	妊娠期に行う検査とその目的	講義	
6				胎児の健康状態の診断	講義	
7				妊娠期の日常生活①	講義・GW	
8				妊娠期の日常生活②	講義・GW	
9				親になるための準備教育	講義・GW	
10				妊娠期の看護とは	講義	
テキスト	系統看護学講座 母性臨床看護学各論（医学書院）※eテキスト					
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 配布資料					
評価方法	筆記試験（呉竹 20 点、大和田 20 点、後藤 60 点 合計 100 点満点で評価）					
履修上の アドバイス	講義はワークシートを配布します。講義内で述べる内容を記入すること。					

専門分野	科 目	母性の生活を支える看護Ⅱ		単位数 時間	1 単位 15 時間	
単元名	分娩期					
授業目標	分娩の正常な経過を理解する 分娩の経過に伴う母体と胎児の変化を理解する 分娩経過に伴う母子とその家族への看護を理解し、看護実践能力を養う 分娩期の異常と必要な看護を理解する					
時期/時間	2 年次前期・後期/6 時間		2 年次前期・後期/9 時間			
担当講師 実務経験	大和田 真人 医師 総合病院(産婦人科)19 年 病院(産婦人科)15 年		中村 留美 助産師 総合病院(産婦人科)等 30 年(5 時間) 赤井 みゆき 助産師 総合病院(産婦人科)24 年(4 時間)			
回	内 容	方法	内 容		方法	講師
1	分娩の生理(1)	講義	分娩期とは		講義	中村
2	分娩の生理(2)	講義	分娩第1期の看護		講義	中村
3	分娩の異常	講義	分娩第2期の看護		講義	赤井
4			分娩第3・4期の看護		講義	赤井
異常のある産婦の看護(45分)			講義	中村		
4.5						
テキスト	系統看護学講座 母性臨床看護学各論(医学書院)※eテキスト					
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 配布資料					
評価方法	筆記試験(大和田 30 点、中村・赤井 70 点 合計 100 点満点で評価)					
履修上の アドバイス	【大和田・中村・赤井】 講義をよく聞き、重要事項を記録すること。配布資料をみて復習をすること。					

専門分野	科 目	母性の生活を支える看護Ⅲ		単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	産褥期・新生児期				
授業目標	産褥期の正常な経過を理解する 新生児の生理的変化や特徴を理解する 産褥期・新生児期に必要な援助を理解する 産褥期・新生児期の異常と必要な援助を理解する 愛着形成の確立、親役割の獲得を促す看護を理解する				
時期/時間	2 年次後期/6 時間		2 年次後期/24 時間		
担当講師 実務経験	大和田 真人 医師 総合病院(産婦人科)19 年、病院(産婦人科)15 年		後藤 香織 助産師 専任教員 8 年 病院(産婦人科)5 年、診療所(婦人科)1 年		
回	内 容	方法	内 容	方法	
1	新生児の生理	講義	新生児の生理的変化と看護 (1)	講義	
2	正常な産褥経過	講義	新生児の生理的変化と看護 (2)	講義	
3	新生児の特徴と生理的変化・異常	講義	新生児の生理的変化と看護 (3)	演習	
4			新生児の異常と看護	講義	
5			産褥期の経日的変化と看護 (1)	講義	
6			産褥期の経日的変化と看護 (2)	講義	
7			産褥期の経日的変化と看護 (3)	演習	
8			産褥期の異常と看護	講義	
9			母性看護の実践	講義	
10			母性看護の実践	演習	
11			保健指導	GW	
12			保健指導	GW	
テキスト	系統看護学講座 母性臨床看護学各論 (医学書院) ※eテキスト				
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 配布資料				
評価方法	筆記試験 (大和田 20 点、後藤 80 点 合計 100 点満点で評価)				
履修上の アドバイス	【大和田】 配布資料を中心に進めますので、重要事項をしっかりと記録してください。 【後藤】 講義は配布するワークシートを中心に進めますので、講義内で述べる内容をしっかりと記入してください。				

専門分野	科 目	精神看護学概論	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名	概 論	時期	1 年次 前期・後期
担当講師 実務経験	齋藤 有美 看護師 総合病院 8 年、病院(精神科) 12 年			
授業目標	看護における精神看護の意義・目的・対象・役割機能を理解し、精神の危機的状況や精神を障がいされた個人と、その家族への援助を考えるのに必要な基礎的知識を学ぶ。			
回	内 容			方法
1	精神概論とは 自己紹介			講義
2	精神看護の目的と意義 「心のケア」と現代社会			講義
3	人間関係と心のはたらき グループワーク			講義
4	人間関係と心のはたらき 精神看護の対策と理解			講義
5	人間関係と集団について 統合失調症と気分障害			講義
6	人間関係について グループワーク			講義
7	人間の心のはたらき（意識・認知・感情）			講義
8	人間の心のはたらき（感情・学習と行動・知能）			講義
9	ストレスと心の危機			講義
10	さまざまな精神症状と特徴			講義
11	精神看護の歴史			講義
12	精神保健と法制度			講義
13	精神障害と治療の歴史			講義
14	ケアの前提と原則と方法			講義
15	授業のまとめと振り返り			講義
テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	テキストを中心に自己学習をして臨んでください。			

専門分野	科 目	精神に障がいのある人の生活を支える看護Ⅰ	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	精神障害			
時期/時間	2 年次前期/15 時間		2 年次前期/15 時間	
担当講師 実務経験	星野 仁彦 医師 大学教授 総合病院(精神科)・病院(精神科)51 年		八巻 高教 看護師 病院(精神科)等 14 年	
授業目標	精神科的疾患とその治療について理解を深め、精神に障がいのある人に対し、寄り添う看護ができる素地を養う		精神に障がいのある対象とその家族について理解を深める。 治療的対人関係構築のための基本的技術が理解できる。 精神科治療と看護の役割が説明できる。	
回	内 容	方法	内 容	方法
1	精神医学の総論 専門用語について	講義	ケアの人間関係（自分を知り、相手を知る。ケアの原則方法	講義
2			アセスメント、感情体験、関わり困難な事例、チームダイナミックス	講義
3	統合失調症・気分障害 その他の不安障害について	講義	入院治療の意味 精神科を受診する	講義
4	認知症・その他の器質性精神障害について	講義	入院を含む治療の原則 入院形態、法、自己決定権	講義
5	精神科における治療・患者医師関係と看護 薬物治療の基本、神経終末の構造	講義	精神科病棟の特徴	講義
6	精神科における治療 抗精神病薬・抗うつ薬	講義	入院中の観察とアセスメント 事例	講義
7	その他の薬物治療 ECT・TMS 精神療法（認知・行動療法・家族療法・SST）（45 分）	講義	退院に向けての支援 多職種連携	講義
7.5		講義	まとめ（45 分）	講義
テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 精神看護の展開（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（各講師 50 点 合計 100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	<p>【星野】</p> <p>1) 特殊な専門用語を理解し、それをもとに記述される精神疾患を学びましょう。</p> <p>2) 内容が多いですが、一つひとつ各日におさえていくようにしましょう。</p> <p>【八巻】</p> <p>予習復習をしっかりとください。</p>			

専門分野	科 目	精神に障がいのある人を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名	精神看護	時期	2 年次 前期・後期
担当講師 実務経験	高橋 尚平 看護師 病院(外科・消化器科・精神科)15 年			
授業目標	精神に障がいのある対象の回復過程におけるリハビリテーションの現状と、ノーマライゼーションの理念に沿って社会復帰や自立にむけた援助を理解する。			
回	内 容			方法
1	回復（リカバリー）を支援する 治療と回復 リハビリテーションからリカバリーへ			講義
2	治療の場におけるリカバリー 事例を通して			講義
3	リカバリーを促す環境			講義
4	リカバリーを促す方法			講義
5	リカバリーのプロセス			講義
6	地域におけるケアと支援方法			講義
7	地域生活を支える システムと社会資源			講義
8	地域におけるケアの方法と実際 アウトリーチと多職種連携			講義
9	学校におけるメンタルヘルス 職場におけるメンタルヘルス			講義
10	地域における看護ケアの実際			講義
11	治療に伴う身体のケア			講義
12	精神科における人権と治療のバランスの上に立つ安全について			講義
13	緊急事態に対処する			講義
14	医療現場におけるメンタルヘルスと看護			講義
15	リエゾンナースの援助の実際			講義
テキスト	系統看護学講座 精神看護の展開（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	テキストを中心に自己学習して臨んでください。			

専門分野	科 目	健康回復支援論	時間	2 単位 45 時間
	単元名		時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	高城 久充子 看護師 専任教員 8 年・総合病院(乳腺・消化器外科、手術室など)6 年			
授業目標	あらゆる健康レベルにある対象の身体的・心理的・社会的側面を捉え、対象に現れている症状や病態を理解する 事例を通して対象に必要な看護援助を考え、根拠を元実践する知識や技術を学ぶ			
回	内 容			方法
1	ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ			講義
2	健康状態と看護 慢性期の看護 成人期（生活習慣病）			講義
3	健康状態と看護 急性期の看護① 成人期（急性心筋梗塞）			講義
4	健康状態と看護 急性期の看護② 成人期（急性心筋梗塞）			講義
5	健康状態と看護 回復期の看護① 成人期（心臓リハビリテーション）			講義
6	健康状態と看護 回復期の看護② 成人期（退院指導）			講義
7	演習準備 オリエンテーション・成人期 事例の検討			講義
8	演習計画 グループワーク			演習・GW
9	看護実践に向けた演習 1-① （慢性心不全、ベッドサイドでの観察）			演習
10	看護実践に向けた演習 1-② （慢性心不全、ベッドサイドでの観察）			演習
11	看護実践に向けた演習 2-① （慢性心不全、移乗・移送の援助）			演習
12	看護実践に向けた演習 2-② （慢性心不全、移乗・移送の援助）			演習
13	老年期・小児期の対象への看護実践（発熱・脱水）			講義
14	老年期・小児期の対象への看護実践（肺炎）			講義
15	老年期の対象への看護実践（体位ドレナージ）			演習
16	地域・在宅の対象への看護実践（Ⅱ型糖尿病）			講義
17	地域・在宅の対象への看護実践（自己血糖測定）			演習
18	地域・在宅の対象への看護実践（暮らしにおける排泄とその援助）			講義
19	地域・在宅の対象への看護実践（摘便）			演習
20	母性の対象への看護実践 事例（乳がん、化学療法）			講義・GW
21	母性の対象への看護実践 グループワーク発表			講義・GW
22	精神の対象への看護実践 事例（統合失調症、薬物療法）			講義・GW
22.5	健康回復支援論 まとめ（45 分）			講義
テキスト	系統看護学講座 臨床看護学総論（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）eテキスト 系統看護学講座 老年看護学（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 小児看護学概論 小児看護学総論（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 母性看護学概論（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 母性看護学各論（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 成人看護学 循環器（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 精神看護の基礎（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 精神看護の展開（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝（医学書院）eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜資料を配布			
評価方法	筆記試験・レポート課題（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	テキストを読み、予習をして講義に臨んでください。レポート課題も評価対象となります。グループワークには積極的に参加し意見交換をしましょう。			

専門分野	科 目	看護展開	時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期・後期
担当講師 実務経験	佐藤 香 看護師 専任教員 6 年 総合病院 (NCU、外科・ICU、消化器科など) 22 年			
授業目標	対象に看護を提供するために健康問題を系統的に解決する方法を学ぶ。 事例を通して看護過程を展開することで対象に対する興味関心を深め、個別性のある看護の必要性を確認する。			
回	内 容			方法
1	看護過程の意義と目的 看護過程の構成要素			講義
2	看護過程に必要な能力 問題解決過程、看護理論との関連			講義・G.W
3	情報収集とアセスメント① 情報収集の方法とアセスメントの種類			講義・演習
4	情報収集とアセスメント② 情報の整理と分類（アセスメントの枠組み）			講義・事例演習
5	情報収集とアセスメント③ 欲求の充足、未充足の判断			講義・事例演習
6	情報収集とアセスメント④ 関連図の作成（全体像の把握）			講義・事例演習
7	問題の明確化① ～関連図の作成から			講義・事例演習
8	問題の明確化② 看護診断、問題リストの作成（問題の記述方法と優先順位）			講義・事例演習
9	問題の明確化③ 成果・指標の設定			講義・事例演習
10	看護計画の立案① 標準看護計画、初期計画			講義・事例演習
11	看護計画の立案② 個別性のある計画へ			講義・事例演習
12	実施の流れと経過記録			講義・事例演習
13	評価の方法と計画の追加・修正			講義・事例演習
14	看護要約の記入			講義・事例演習
15	看護記録の記載と管理 リフレクション・まとめ			講義・G.W
テキスト	系統的看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	・緊急度・重症度からみた 症状別看護過程＋病態関連図（医学書院） ・看護が見える Vol.4 看護過程の展開（メディックメディア） ・ヘンダーソン・ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント（ヌーヴェルヒロカワ）			
評価方法	筆記試験 80 点 事例演習の記録・レポート 20 点（100 点満点）			
履修上の アドバイス	看護過程の展開は実習、臨床での看護に直結するものです。対象によりよい看護を提供できるようにその基礎となる部分を事例を通して学んでいきましょう。			

専門分野	科 目	健康支援論	時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期
担当講師 実務経験	渡邊 留美 保健師・看護師 専任教員 3 年・病院(特殊疾患病棟・急性期病棟)17 年			
授業目標	①人間一人ひとりの「生活」を理解することを土台に、「社会的な健康」と科学的に捉えた「健康行動」について理解する。 ②人が人々と暮らす「家族」や「集団」、「組織」について社会科学的な観点から学び、さらに「地域社会」や「グローバルな社会」とは何かの基本を理解する。 ③地域で生活する人が自ら健康行動を実践できるための支援を考える。 ④病気や障害を持ちながら生活する人を支援するための基礎的知識を習得する。			
回	内 容			方法
1	生活・社会と看護の関わり、健康とは何か			講義
2	個人の生活の理解、予防活動の必要性			講義・GW
3	地域社会とグローバリゼーション			講義・GW
4	科学からとらえた健康行動と保健行動モデル			講義・GW
5	健康の維持・増進を目指すための看護			講義・GW
6	ライフスタイル、ライフサイクルに応じた健康支援			講義・演習
7	成人期における健康問題の把握と支援① 自ら行動変容するための支援			講義・演習
8	成人期における健康問題の把握と支援② 生活習慣を見直すための指導案作成			講義・演習
9	成人期における健康問題の把握と支援③ 事例を基にした指導案作成			講義・演習
10	成人期における健康問題の把握と支援④ 事例を基にした指導案作成			講義・演習
11	指導案の発表			講義・演習
12	老年期における健康維持のための支援① フレイル・サルコペニアの予防			講義・演習
13	老年期における健康維持のための支援② 事例を基にした指導案作成			講義・演習
14	老年期における健康維持のための支援③ 事例を基にした指導案作成			講義・演習
15	指導案の発表、まとめ			講義・演習
テキスト	医学書院 e-テキスト各種			
参考文献 参考書等	適宜資料を配布			
評価方法	提出課題、演習成果物、終講試験の総合評価			
履修上の アドバイス	地域で生活する人を理解し、人々が健康の保持・増進、健康への関心を高め実際に自ら健康行動を実践するための支援、病気や障害を抱えながら生活する人を支援するための基礎的知識を学びましょう。			

専門分野	科 目	薬物療法と看護	時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期
担当講師 実務経験	佐藤 知子 看護師 専任教員 25 年 病院(消化器外科、内科、小児科など)9 年			
授業目標	専門基礎分野の治療論Ⅱで薬剤の種類と作用機序を学び、病気とからだで症状や疾患に用いられる一般的な薬物療法を学ぶ。 それらの知識を基に取り扱う薬剤の主な効果や副作用とその徴候を理解しておくことで、副作用の早期発見、早期対応の援助につなげる。本科目では、これらの知識を統合し、治療に用いられる主な薬剤の効果・作用を把握し、薬物療法を受ける対象の薬剤効果に対する反応を観察し、アセスメントできる基本的知識を身につける。			
回	内 容			方法
1	薬物治療の実際			講義・GW
2	薬物治療の評価			講義
3	医薬品の使用及び管理について安全な取り扱いの方法			講義
4	生体反応が強いリスクのある薬剤や自己管理が中心となる医薬品の使用及び管理について安全な取り扱いの方法			講義・演習
5	臨時抗菌薬投与時の基礎的知識			講義
6	抗がん薬投与時の基礎的知識			講義
7	水分管理に必要な輸液の基礎知識			講義
8	栄養管理に必要な輸液の基礎知識			講義
9				
10	病態や状態に応じた薬物投与の調整に必要な基礎的知識 ・ 事例をもちいて薬剤の目的や身体への影響を調べる ・ 薬剤の身体への影響を考える ・ 薬剤が及ぼす身体への影響をふまえた観察の視点			講義・GW
11				
12				
13	病態や状態に応じた服薬指導方法 ・ 服薬指導に必要な対象の情報を考える ・ 服薬指導の対象を考え対象に応じた服薬指導の方法を考える			講義・GW
14				
15				
テキスト	系統看護学講座 臨床薬理学（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜資料を配布			
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	医師による薬剤投与の指示を受け、薬名・分量・用法を確実に確認し、対象の服薬状況を把握し、安全管理を実践しながら正確な服薬を投与する基礎的知識を身につける。それに留まらず、さらなる臨床での実践に向け、薬物療法における対象の状態を判断し、対象が適切に薬物管理を行なえるよう支援するためのスキル向上に努め、薬剤量の調節や、対象が服薬可能な剤形の変更を提案できる能力を身につける。			

専門分野	科 目	周手術期と看護	時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期・後期
担当講師 実務経験	佐藤 香 看護師 専任教員 6 年 総合病院 (NCU、外科・ICU、消化器科など) 22 年 佐藤 春奈 看護師 教員 2 年 総合病院 (乳腺外科、消化器科、整形外科など) 19 年			
授業目標	1) 周手術期における、患者の身体的変化や心理的変化、社会的変化を理解できる 2) 手術による身体への侵襲と、それに対する生体反応について理解する 3) 周手術期において根拠に基づいた看護実践を理解し学ぶ 4) 医療ニーズの変化や一人ひとりの健康認識の変化に応じるために、退院支援部門との連携の重要性を理解できる			
回	内 容			方法
1	周手術期看護の概要と看護師の役割：周手術期看護とは 周手術期医療における倫理 チーム医療 周術期の安全管理			講義
2	周手術期にある患者と家族の特徴：周術期の身体的・心理的・社会的特徴 周術期の家族の心理状態の変化と家族の役割			講義
3	手術侵襲と生体反応：麻酔による影響、侵襲の種類、 生体反応と回復過程 (ムーアの分類)、術後合併症			講義
4	麻酔の種類と術前・中・後の管理、合併症			講義
5	手術前の患者の看護① 外来～入院まで：外来看護の重要性、意思決定支援、患者指導、他部門との連携 入院～手術当日：手術前日・当日の患者準備、手術室との連携			講義
6	手術前の患者の看護②手術や麻酔に伴うリスクアセスメント (術中・術後どのような問題が生じるのか術中・術後合併症が 起こる可能性、合併症を起こさないための術前の看護)			講義
7	手術中の患者の看護：手術中の看護の要点、看護師の役割 (入室前～入室時～麻酔導入時、手術終了時)			講義
8	手術後の患者の看護①：術後の経過 (身体的・心理・社会的変化) と アセスメントの視点、輸液・ドレーン管理、術後疼痛管理			講義
9	手術後の患者の看護②：時間経過別の看護援助			講義
10	重症集中治療を受ける患者の看護			講義
11	事例：術直後の患者の全体像＝全身状態の観察 アセスメント (情報の統合：病態の関連と看護問題の抽出)、援助を考える			演習 GW
12	事例：術後 1～2 日目の患者の看護＝全身状態の観察 アセスメント (情報の統合：病態の関連と看護問題の抽出)、援助を考える			演習 GW
13	高齢者と手術			講義
14	小児とその家族と手術			講義
15	帝王切開を受ける産婦の看護			講義
テキスト	系統看護学講座 臨床外科看護総論、臨床看護総論、成人看護学総論、老年看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論、母性看護学各論、(医学書院) ※e テキスト			
参考文献 参考書等	系統看護学講座 臨床外科看護各論 (医学書院) ※e テキスト 急性期看護 I 概論・周手術期看護 南江堂			
評価方法	筆記試験 90 点、演習課題 10 点 100 点満点で評価)			
履修上の アドバイス	患者は麻酔と手術を受けることにストレスを感じ、不安や恐怖を抱くことが推測されます。このような患者は心身共に支えられ、元の生活に戻ることができるような援助を必要としています。疾病論・成人の生活を支える看護等で学んだことを想起しながら授業・演習に臨み実習につなげましょう。			

専門分野	科 目	終末期と看護	時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期・後期
担当講師 実務経験	嶋原 りつ子 看護師 専任教員 19 年・総合病院(内科・外科・小児科・産婦人科・眼科)22 年			
授業目標	死を迎える対象と家族の特徴を理解し、人生最期の時をその人らしく過ごすことができるための看護師の役割と援助を学ぶ			
回	内 容			方法
1	緩和ケアの理念および日本の現状と展望			講義
2	緩和ケアにおけるチームアプローチ			講義
3	緩和ケアにおけるコミュニケーションと患者・家族を理解するための視点			講義
4	緩和ケアにおける倫理的課題（ACP・鎮静）			講義
5	人生の最終段階におけるケア・もしバナゲーム			講義・演習
6	全人的ケア：身体的ケア 1（がん疼痛）			講義
7	全人的ケア：身体的ケア 1（薬物療法）GW の準備			講義・演習
8	全人的ケア：身体的ケア 2・精神的ケア（グループ発表）			演習
9	全人的ケア：社会的ケアと家族へのケア			講義
10	全人的ケア：スピリチュアルケア			講義
11	成人期における緩和ケアと緩和ケアの広がり（非がん性疾患患者のケア） 老年期における緩和ケア			講義
12	終末期にある子どもと家族のケア			講義
13	地域・在宅における緩和ケア			講義
14	臨死期のケア（エンゼルケア）とグリーフケア			講義
15	緩和ケアにおける教育と看護師の役割：がん専門看護師の活動から考える			講義
テキスト	系統看護学講座 緩和ケア（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	系統看護学講座 臨床看護総論、系統看護学講座 老年看護学 系統看護学講座 成人看護学総論、系統看護学講座 地域・在宅の基盤、 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）※eテキスト			
評価方法	筆記試験（90 点）+GW（10 点） 合計 100 点満点で評価する			
履修上の アドバイス	多様な背景にある死を迎える対象とその家族に対し、「全人的ケア」についての理解を多面的に深めてほしい。同時に自身の死生観を深める機会となるよう知識を深めてほしい。			

専門分野	科 目	看護管理	単位数 時間	1 単位 30 時間
单元名			時期	3 年次 前期
担当講師 実務経験 (時間)	大戸 和子 看護師 専任教員 31 年、総合病院(脳神経外科、整形外科、救急外来など)11 年 (12 時間) 車田 真美 看護師 総合病院 34 年 (18 時間)			
授業目標	看護を「しくみ」として理解し、それがどのようなになっているのか、問題は何か、 どのように改善策はあるか、どのようにすればより良い看護が提供できるかチーム 医療及び多職種との協働の中で組織の一員としての管理方法と、施設内や地域におけ る看護のマネジメントの方法と必要性がわかる			
回	内 容		方法	講師
1	看護管理学とは ・ 看護管理の定義、概念構成、基本的要素 ・ 看護とマネジメント 場と考え方		講義・GW	大戸
2	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 ・ 患者の権利の尊重 ・ 安全管理と医療事故対策		GW・講義	大戸
3	・ 院内感染対策 ・ 災害の予防と対応			
4	チーム医療 多職種連携 地域の職種との連携		GW・講義	大戸
5	看護業務の実践 看護基準 看護手順 クリティカルパス		GW・講義	大戸
6	情報の活用 業務マネジメント		GW・発表	大戸
1	看護職としてのセルフマネージメント ・ 看護職のキャリア形成・専門職としての成長 ・ ストレスマネージメント		講義	車田
2	看護サービスのマネジメント、組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供の仕組みづくり		講義	車田
3	看護サービスのマネジメント、組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供の仕組みづくり		講義	車田
4	人材マネジメント		講義	車田
5	人材マネジメント、労働環境		講義	車田
6	施設・設備環境マネジメント、物品のマネジメント 情報のマネジメント、リスクマネジメント		講義	車田
7	マネジメントとは、組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント、組織の調整		講義	車田
8	看護を取り巻く諸制度 (看護職)		講義	車田
9	医療制度(医療法・医療保険・介護保険) 看護政策と制度		講義	車田
テキスト	系統看護学講座 看護管理 (医学書院) ※e テキスト			
参考文献	看護管理学改訂第2版 自立し協働する専門職の看護マネジメントスキル(南江堂) 看護学基礎テキスト全4巻(日本看護協会出版)			
評価方法	筆記試験 大戸 40 点 車田 60 点 合計 100 点満点で評価する			
履修上の アドバイス	看護管理は、広くマネジメントとしてとらえ看護管理者だけでなく、看護実践者必要 な知識と技術である。組織の一員として、活動する際に必要になるので視野を拡大し 知識を深めてほしい。			

専門分野	科 目	国際看護	単位数 時間	1 単位 15 時間	
	単元名		時期	2 年次 後期	
担当講師 実務経験	①渡邊 一代 大学准教授・助産師 大学 26 年、総合病院(産婦人科など)21 年 ②国際協力機構（JICA）二本松青年海外協力隊訓練所 講師				
授業目標	国際看護および国際保健に関わる国際機関の役割と機能、社会的・経済的な諸問題に焦点をあて、その多様性を学ぶ。グローバルな環境課題や問題が及ぼす人々の健康への影響と国際看護の役割と支援方法を学ぶ。グループワークにより実際の健康問題や環境問題等について学ぶ。 ① 国際的視点から捉えた健康課題と国際機関の役割と機能について説明できる ② 世界の各地域における看護の在り様や実践、及び具体的な国際保健や看護の取り組みと課題について説明できる ③ 国際社会が共同して取り組む国際保健医療協力の仕組みについて説明できる ④ 国際保健医療看護の実践に必要な情報収方法を説明できる				
回	内 容			方法	講師
1	授業オリエンテーション 国際看護学に関連する基礎知識 国際看護学の定義、国際協力・国際保健とは、開発と国際救援のあり方			講義	渡邊
2	世界の健康問題の現状 世界の健康・保健問題へのアプローチ グループ毎に関心あるテーマを決め自分たちが看護職としての関与を考える			講義 GW	渡邊
3	世界の健康・保健問題へのアプローチ グループ毎に関心あるテーマについて情報収集し、プレゼンテーション準備をする			講義 GW	渡邊
4	世界の健康・保健問題へのアプローチ			講義 GW	渡邊
5	グループ毎にプレゼンテーション 本授業の学びと今後の課題を振り返る				
6	国際協力機構（JICA）二本松青年海外協力隊訓練所見学視察			見学	渡邊 JICA
7				実習	
7.5				GW	
テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学（医学書院）※eテキスト				
参考文献 参考書等	授業内で適宜、資料を配布				
評価方法	【渡邊】課題レポート 50% 課題プレゼンテーション 30% 授業への参加態度 10% 90 点 【JICA】10 点 合計 100 点満点で評価				
履修上の アドバイス					

専門分野	科 目	医療安全	単位数 時間	1 単位 30 時間
单元名			時期	3 年次 前期
担当講師 実務経験 (時間)	大戸 和子 看護師 専任教員 31 年、総合病院(脳神経外科、整形外科、救急外来など)11 年 (5 時間) 佐藤 香 看護師 専任教員 6 年、総合病院(NCU、外科・ICU、消化器科など)22 年 (10 時間) 奈良輪 弘美 看護師・日本 DMAT 隊員赤十字救急法救急員 総合病院(循環器・内科科、救急など)29 年 (15 時間)			
授業目標	1. 患者に存在する危険を認識する能力をもつ重要性を理解し、「してはならないこと」と「すべきこと」、またその根拠・理由も含めて医療安全の観点を学ぶ 2. 看護事故の構造分類から事故防止の考え方、事故の発生要因とその防止について学ぶ			
回	内 容		方法	講師
1	医療安全を学ぶことの意義及び安全努力の責務 事故防止の考え方(1)		講義 GW	大戸
2	事故防止の考え方(2)		講義	大戸
2.5	医療安全とコミュニケーション (45 分)		講義	大戸
1	診療の補助の事故防止 (現場を踏まえて)		講義	奈良輪
2	診療の補助の事故防止(現場を踏まえて)		講義	奈良輪
3	診療の補助の事故防止(現場を踏まえて)		講義	奈良輪
4	療養上の世話の事故防止(現場を踏まえて)		講義	奈良輪
5	療養上の世話の事故防止(現場を踏まえて)		講義	奈良輪
6	療養上の世話の事故防止(現場を踏まえて)		講義	奈良輪
7	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因		講義	奈良輪
7.5	地域における在宅療養者の安全 (45 分)		講義	奈良輪
1	看護師の労働安全衛生上の事故防止(1)		講義	佐藤
2	看護師の労働安全衛生上の事故防止(2)		講義	佐藤
3	組織的安全管理体制(1)		講義	佐藤
4	組織的安全管理体制(2)		講義	佐藤
5	国内外の医療安全対策の潮流と連携		講義	佐藤
テキスト	系統看護学講座 医療安全 (医学書院) ※e テキスト			
参考文献	医療安全ワークブック(医学書院)川村治子 医療安全に生かす K Y T (メヂカルフレンド社) 浜藤好美			
評価方法	筆記試験 大戸 10 点・佐藤 40 点、奈良輪 50 点 合計 100 点満点で評価する			
履修上の アドバイス	看護の実践において常に危険が伴うことを認識し、安全意識の向上と事故防止の視点を意識して学びこれからの臨床場面に繋げてほしい。			

専門分野	科 目	災害看護	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	3 年次 後期
担当講師 実務経験 (時間)	國分 花子 看護師 総合病院(〇〇など)26 年 (8 時間) 武田 里美 看護師 総合病院(呼吸器外科・外科・心臓血管外科・循環器科など)27 年 (7 時間)			
授業目標	①災害の基礎的知識・技術・態度を習得する ②救護活動を理解する ③こころのケアについて理解する ④災害時における看護師の役割を理解する			
回	内 容		方法	講師
1	災害の定義 災害救護活動		講義	國分
2	災害の種類 CSCATTT		講義	國分
3	災害サイクル		講義	國分
4	災害時の医療支援 3T		講義	國分
5	災害時 心のケア (1)		講義	武田
6	災害時 心のケア (2)		講義	武田
7	応急処置・搬送法 (1)		講義・演習	武田
7.5	応急処置・搬送法 (2) (45 分)		講義・演習	武田
テキスト	系統看護講座 災害看護学・国際看護学 (医学書院) ※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜資料を配布			
評価方法	筆記試験 (100 点満点で評価)			
履修上の アドバイス	自分たちの身近におきている災害、日本のみならず世界中で起きている災害、紛争、事故などに関する出来事に目を向けて自己の役割を理解してほしい。			

専門分野	科 目	リフレクション	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	3 年次 後期
担当講師	日下部 ひとみ 看護師 専任教員 13 年・総合病院(内科・性差医療センター等)9 年、保健指導相談員 8 年			
授業目標	3 年間の実習を振り返り、実習グループのメンバーや教員とのディスカッションを通して課題や成果を確認する。 臨床の場で求められる看護実践を安全で確実に提供できるよう、事例を通して知識・技術を習得する。			
回	内 容			方法
1	領域実習の振り返り（グループの課題を明確にする）			講義・GW
2	事例提示 評価方法・演習方法の説明			講義
3	演習 事例①看護計画立案			演習・GW
4	演習 実施			演習
5	演習 事例②看護計画立案			演習・GW
6	演習 実施			演習
7	演習 事例③			演習
7.5	まとめ 振り返りと自己課題の明確化（45 分）			講義
テキスト	適宜資料を配布			
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） 看護学テキスト 成人看護技術 （南江堂） これまで使用したテキスト・リフレクションシートを振り返りとして使用する			
評価方法	技術試験 70% 技術振り返り 30% 合計 100 点満点で評価			
履修上の アドバイス	生活を支える技術Ⅰ～Ⅵ 臨床判断する力Ⅰ・Ⅱを振り返って下さい。 講義・演習・実習を振り返り、身に着けた知識と技術を臨床で活かして下さい。			

【 基礎看護学実習Ⅰ 】 1 単位 45 時間 1 年次

1. 実習の目的

対象を取り巻く環境を知り、地域医療を支える病院の機能と看護師の役割を理解する

2. 実習目標

- 1) 施設内の見学を通して、病院で働く医療専門職の存在を知り、多職種の関わりで医療が提供されていることがわかる
- 2) 入院中の対象の環境をとらえ、環境調整の必要性とその大切さを理解する
- 3) 対象に関心を寄せ、コミュニケーションをとることができる
- 4) 日常生活の援助、対象との関わりから看護の役割を考えることができる
- 5) 看護専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

	内 容	
病院 見学	1 日目	①病院の概要を受ける ②病院内の見学と多職種の説明
	2 日目	①病棟のオリエンテーション ②病棟の看護師、先輩についてコミュニケーションの見学 ③学生カンファレンス
病院 実習	初日	①病棟のオリエンテーション ②患者紹介を受け、対象に自己紹介する ③対象の療養環境を観察する ④看護師と共に行動し、話し方・接し方を見学する ⑤学生カンファレンス（療養環境について）
	2 日目	①対象とのコミュニケーションと療養環境の観察 ②対象の療養環境に合わせた環境整備を実施する ③病棟の一日の流れに沿って、看護師と共に日常生活の援助を見学する ④学生カンファレンス（コミュニケーションの実際について）
	3 日目 (最終日)	①対象の療養環境にあわせて、環境整備を計画し実施する ②実習の評価（学生、指導者、教員の3者評価） ③反省会（実習を通しての学びを共有）

4. 記録の記入、提出について

- 1) 記録類は学生氏名を明記し、クリアファイルに入れるなど管理に責任をもつ
- 2) 実習課題は担当教員の添削を受け、実習初日に持参する
- 3) 必要な記録用紙を各自持参し、なるべく実習時間内に記入する
- 4) 実習終了後は、指定された実習記録一式をまとめ、クリアファイルに入れて提出する

5. 実習中の注意事項

- 1) 体調管理をしっかりして実習に臨む
- 2) 聴く態度・言葉遣いなど相手を尊重した態度をとる
- 3) わからないことはそのままにせず調べたり・質問したりする
- 4) 実習グループとして協力する（5分前行動、実習場への行き帰りの挨拶）
- 5) 対象のプライバシーを保持する
- 6) 援助の見学・実施の際にはスタンダードプリコーションを常に意識し、必要に応じて手袋、マスク、エプロンの着用をする

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 基礎看護学実習Ⅱ 】 2 単位 90 時間 2 年次

1. 実習の目的

看護過程を用いて、対象の全体像を捉えてそれぞれの対象にあった日常生活援助を実践する。また、医療チームの一員であることを自覚する。

2. 実習目標

- 1) 1 人の対象を統合的に捉え、看護上の問題を明確にできる
- 2) 受け持ち対象に応じた日常生活の援助考え、看護計画を立案ことができる
- 3) 安全・安楽に留意した援助方法を考え看護師と共に実践する
- 4) 自身の行った看護援助を振り返り、個別性にあつた援助を考える
- 5) 医療チームの一員としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

日 程		内 容
事前学習		実習の課題を明確にして臨む 行動計画表(初日の計画)作成・週間計画を立てる 事前学習 : ペーパーペイシエントでの看護展開、技術の練習・強化
実習前半 (中間評価 まで)	初日	①病棟のオリエンテーションを受ける ②受け持ち患者の紹介を受け、情報収集を開始する
	2 日目 以降	①対象とのコミュニケーション、看護師と共に援助をしながら情報を収集する ②得られた情報から援助の必要性を見出す(日々の計画の根拠) ③対象の情報やアセスメントをその都度追加し、全体像を捉える ④日常生活の援助を看護師とともに経験し、事前学習と比較して振り返る ⑤対象・家族、同室の患者とコミュニケーションを図り、自分の言動の振り返りを行う(プロセスレコード) ※ 実習 5 日をめどに中間評価を受ける
	登校日	中間評価でのアドバイスを基に記録を整理し、看護問題の抽出と計画の立案につなげる
実習後半 (中間評価 以降)	実習日	①助言を受けながら、問題点に応じた援助を日々の目標・計画に反映する ②立案した介入計画をもとに看護師と共に援助を実践し、援助の前・中・後の観察をする ③観察したことを経過記録として記入し、評価と計画の追加・修正に活かす ④対象・家族、同室の患者とコミュニケーションを図り、自分の言動の傾向と改善点を見出す(プロセスレコード) ⑤実習の経過をまとめ、実習の振り返りを行う(カンファレンス・反省会) ※ 最終評価

4. 実習中の注意事項

- 1) 対象のプライバシーを保護する
- 2) 自己の健康管理には十分留意すること
- 3) 実習グループとして協力すること

5. 記録物の提出について

- 1) 記録類は学生氏名を明記し、クリアファイルに入れるなど管理に責任をもつ
- 2) 登校日には実習担当教員へ提出し、随時添削・指導をもらう
- 3) 実習終了後は、指定された実習記録一式を揃え、クリアファイルに入れて提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅰ 】 1 単位 45 時間 2 年次

1. 実習の目的

社会生活を送りながら治療を継続する現状を理解し、地域社会での療養と日常生活を安心して営むことができるように、個性を尊重した生活支援を学ぶ。また、それぞれの発達段階やライフスタイルに合わせた援助や家族支援を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 長期にわたる治療が日常生活に及ぼす影響を理解する
- 2) 治療に伴う患者の安全性・安楽性を守る看護援助を学ぶ
- 3) 患者のセルフマネジメント支援にむけた援助の必要性を理解する
- 4) 地域包括ケアシステムの視点から退院支援、退院調整における看護師の役割を理解する
- 5) 患者の療養と生活、家族を支えるチーム医療や多職種連携、協働を理解する
- 6) 在宅療養者とその家族を生活者として理解できる
- 7) 障がい児を取り巻く環境や個別性を理解し、児の日常生活を理解する

3. 実習方法

日 程	内 容
事前Ⅰ	学内:①事前課題 ②実習目標の見直し ③講義資料の確認
1～3 日目	病院実習 外来化学療法室、透析室、放射線治療室、外来診療室(看護外来含む)、地域連携・退院支援センターのいずれかをローテーション実習する ・外来看護実践を見学する ・継続した健康管理を必要とする人々が日常生活や社会生活をどのように調整しているかを理解する(可能ならば、コミュニケーションを図り社会的背景や家庭生活の様子を聞いてみる) ・看護師がどのように患者と関わりを持っているのか、継続看護の視点を学ぶ ・患者に関わる他職種は何かを調べる ・多職種カンファレンスや退院支援カンファレンスなどは見学させてもらう ・地域連携・退院支援の役割を捉える
4 日目	地域包括支援センター実習 概要説明・相談業務・地域健康推進事業
5 日目	大笹生支援学校実習 オリエンテーション 各教室実習(発達段階や障がいに応じた支援方法を捉える)

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知れたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 提出物は、指定された日時を厳守し担当教員まで提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 地域・在宅の生活を支える看護実習Ⅱ 】 2 単位 90 時間 3 年次

1. 実習の目的

地域で生活している人々の健康の保持・増進のための活動や、地域で療養している人々とその家族の特徴を理解し、住み慣れた地域で生活を送るための支援方法を学ぶ。また在宅療養を支える社会資源や多職種の役割と連携が理解できる

2. 実習目標

- 1) 地域における健康の保持増進・疾病の予防に対する様々な活動に参加し、看護師および多職種の役割を理解する
- 2) 地域で療養するために必要な社会資源の活用と関係機関との連携を理解する
- 3) 地域暮らし人々を生活者として捉え、生活の中での支援の実際を理解する
- 4) 在宅療養における看護の役割と援助の方法を理解する
- 5) 地域で生活している対象の価値観や生活背景を尊重した看護を考える

3. 実習方法

日 程	内 容
事前学習	学内:①実習の目的・目標・方法を十分理解したうえで実習に臨む ②在宅看護方法論の学習内容を復習する
1 日	1. 県北保健福祉事務所・県精神保健福祉センター ①概要・役割について講義、施設内見学、GW ②実習での学びをレポート作成する
1 日	2. 保健センター ◎福島市保健福祉センター(福島保健所)/伊達市保原保健センター ①概要・役割説明について講義、施設内見学、健康推進事業について GW ②実習での学びをレポート作成する
1 日	3. 居宅介護支事業所 ①概要・役割説明、相談業務(要介護者)、社会資源の実際について GW ②実習での学びをレポート作成する
7 日	4. 訪問看護ステーション ①訪問看護師とともに同行訪問し生活の場での療養に必要な援助を学ぶ ②1事例受け持ち、療養上の問題を考える ③在宅調整会議などがあれば参加する ④訪問対象についての意見交換(カンファレンス) ⑤受け持ち事例の展開やその他の訪問から、在宅看護の理解を深める ⑥反省会で、学生間の学びを共有する(最終評価)

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 実習終了時に日々の行動計画の助言をうける
- 3) 実習スケジュールが異なるため、必ず事前に確認する
- 4) 訪問者であることを意識して行動する

5. 記録提出について

- 1) 1～3の実習終了後、指定された記録用紙を期日までに提出する
- 2) 4の実習終了後、指定された記録用紙をファイルに入れてグループごとに提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 成人の生活を支える看護実習Ⅰ 】 2 単位 90 時間 3 年次

1. 実習の目的

成人期の特性を踏まえ、急性期・周手術期にある対象を理解し個別性に応じた看護の実際を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成人期の発達段階や急性期・周手術期の特性をふまえ、対象の状態に応じた看護の必要性和健康問題を明確にして実践につながる知識・技術を身に付ける
- 2) 対象に起こる健康状態の急激な変化に伴う身体的反応を理解する
- 3) 健康状態の急激な変化を受けた対象とその家族の精神的・社会的側面を捉え、看護師としての態度を身に付ける

3. 実習方法

日程	内 容
前日	事前学習 実習目標・実習初日の行動計画の立案
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟のオリエンテーションを受ける ・受け持ち対象の紹介、情報収集開始⇒対象の全体像を把握するために情報収集する ・現在に至る経過を治療内容と合わせて把握する ※クリティカルパス使用の対象の場合は、対象に行われる看護の必要性をその都度理解しながら進めていく
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をもとにアセスメントし対象の全体像をNo.1、2 に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせて優先順位を決定する ※クリティカルパス使用の場合はそれを参考にしてよい。ただし援助の根拠等を理解した上で援助につなげていく ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助か確認する ・対象に指導・教育的援助を行なう場合は、事前に実習指導者・教員に相談し計画に沿って実施する ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、必要時計画の修正を行う *受け持ち変更時は新たにこの行程を踏む
5 日目	中間評価
6 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・立案した計画を日々実施・評価していきながら、より対象の個別性に応じた援助の実施、問題解決へと進めていく
最終日	最終評価

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) グループメンバー間で協力しながら実習に臨む

5. 記録物について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに綴じ、管理に責任をもつ

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 成人の生活を支える看護実習Ⅱ 】 2 単位 90 時間 3 年次

1. 実習の目的

成人期の特性を踏まえ、慢性期・回復期・終末期にある対象を理解し個別性に応じた看護の実践を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成人期の発達段階や慢性期・回復期の特性をふまえ、疾病に伴う対象の生活への影響を捉え、対象の健康問題を総合的に捉える
- 2) 対象のセルフケア能力とサポート状況を把握し、対象に必要とされる援助を実施できる
- 3) 疾病の回復とともに現れる対象とその家族の不安を捉え、他職種を含めた継続的支援の必要性と看護の実践について理解する
- 4) 終末期にある対象の個別性を尊重し、全人的な関わりを学び、家族への援助ができる

3. 実習方法

日程	内 容
前日	事前学習 実習目標・実習初日の行動計画の立案
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟のオリエンテーションを受ける ・受け持ち対象の紹介、情報収集開始 ⇒対象の全体像を把握するために情報収集する <ul style="list-style-type: none"> ・現在に至る経過を治療内容と合わせて把握する ※クリティカルパス使用の対象の場合は、対象に行われる看護の必要性をその都度理解しながら進めていく
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をもとにアセスメントし対象の全体像を記録用紙No.1、2に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせて優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助か確認する ・対象に指導・教育的援助を行なう場合は、事前に実習指導者・教員に相談し計画に沿って実施する ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、必要時計画の修正を行う ※受け持ち変更時は新たにこの行程を踏む ※他職種カンファレンス等がある場合は、積極的に参加する
5 日目	中間評価
6 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・立案した計画を日々実施・評価していきながら、より対象の個別性に応じた援助の実施、問題解決へと進めていく
最終日	最終評価

3. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨み、時間を見て行動する
- 5) グループメンバー間で協力しながら実習に臨む

4. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

5. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 老年の生活を支える看護実習 】 2 単位 90 時間 3 年次

1. 実習目的

高齢者の加齢に伴う変化と疾病・障害について理解し、「人生の最終段階」をその人らしく過ごせるよう、高齢者を支える家族も含めた看護を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 老年期の加齢及び健康問題の特徴を、身体的・精神的・社会的側面から理解する
- 2) 生活機能障害が対象及び家族の生活に及ぼす影響を理解する
- 3) 対象の健康問題から看護計画を立案し、対象の持てる力を活かした看護援助の方法を理解する
- 4) 医療施設における高齢者とその家族を支える多職種の役割と、チームにおける看護師の役割を理解する
- 5) 高齢者や家族の意思や願いを尊重し、家族支援を含めた看護を理解することができる

3. 実習内容

日 程	内 容
事前 学習	老年の生活を支える看護実習の目的・目標を把握して実習に臨む 老年の生活を支える看護Ⅰ・Ⅱの学習内容を復習して実習に臨む 提示された事前学習の内容をまとめる
1 日目 ～ 3 日目	1 病棟オリエンテーション 2 受け持ち対象紹介、情報収集 3 情報整理と分類 4 対象の情報をアセスメントし、全体像を捉える
4 日目 ～ 6 日目	1 全体像の修正 問題点の抽出 2 看護計画の立案 3 看護計画に基づいた日常生活の援助を行う 4 実践した援助を評価し、看護計画の修正を行う 5 ケースカンファレンス(看護計画の内容をテーマとする) * 中間評価
7 日目 ～	1 修正した看護計画に基づき看護援助を実施する 2 対象の反応を捉えながら、看護計画を実施・評価する * 最終評価

4. 実習方法

- 1) 1 名の高齢者を受け持つ
- 2) 毎日、行動計画を指導者に報告し確認(助言)を得てから援助を実施する
- 3) 学生カンファレンスを行い、学生間での問題解決や看護過程の共有化をすることで実習グループとしての学びを深める
- 4) 実習病棟、対象から学ぶことのできる看護技術に対して積極的に取り組む

5. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、出席状況の評価する
また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない
- 2) 成績評価の基準
評価はルーブリック評価とする
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 母性の生活を支える看護実習 】 2 単位 90 時間 3 年次

1. 実習の目的

周産期における看護の実践活動を通し、妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族に必要な援助の臨床判断能力を習得する。また、女性のライフステージにおける健康問題について、生殖および性の視点から対象を捉え、セルフケアが維持増進できる支援について学ぶ

2. 実習目標

- 1) 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の特徴を捉え、正常な経過を理解することができる
- 2) 妊産褥婦の経日的変化を捉え、個々に必要な保健指導を考えることができる
- 3) 新生児の生理的变化を理解し、子宮外生活への適応に必要な援助ができる
- 4) 母子およびその家族が新しい役割に適応するための援助を考える
- 5) 母子とその家族に対する継続看護の必要性が理解できる
- 6) ウェルネスの視点で対象を捉え、セルフケア能力を高める援助が理解できる
- 7) 自己の母性観・父性観を深めることができる

3. 実習方法

	内 容	記録
褥室 新生児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初日にオリエンテーションを受ける ・ 産褥 0 日目以降の褥婦に関わる ・ 生後 0 日目以降の新生児も共に関わる ・ 褥婦の日々の観察は指導者と共に実施する ・ 新生児の日々の観察は沐浴時に実施する ・ 褥婦の各種保健指導を見学する ①授乳指導 ②沐浴指導 ③退院指導 ・ 新生児の検査を見学する 	母性記録 No. 5 母性記録 No. 6 母性記録 No. 7 母性記録 No. 8
分娩室 LDR	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初日にオリエンテーションを受ける ・ 承諾をいただいた産婦さんの分娩期に入る ・ 指導者と共に必要な援助を実施する ・ 褥室へ帰室するまでの一連を見学実習する 	母性記録 No. 4 母性記録 No. 8
外来	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊婦健診 ・ 内診室の看護 ・ 2 週間健診 ・ 1 ヶ月健診 ・ 産褥外来 ・ 母乳外来 	母性記録 No. 3 母性記録 No. 7
指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両親教室 ・ 各サークル 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終評価のみを実施 	ループリック評価

4. 提出について

- 1) 日々の提出記録は上記のとおりとする
- 2) それぞれのセクション別(担当の指導者あて)に教員に提出する
- 3) 事前学習、事後学習などのレポートは随時教員に提出する
- 4) 評価日当日の朝、実習記録一式をNo.順に綴じファイルに入れ担当教員に提出する
- 5) 最終提出は教員とし、本実習が終了した次週の登校日を〆切とする

5. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 小児の生活を支える看護実習Ⅰ 】 1 単位 45 時間 2 年次

1. 実習の目的

健康な子どもの成長・発達と生活環境を理解し、個別性に応じた日常生活行動を理解する。

2. 実習目標

- 1) 健康な子どもの成長・発達の特徴を理解する
- 2) 成長発達段階における個別性に応じた日常生活行動を理解する
- 3) 日常生活における子どもの生活環境を理解する。
- 4) 子どもの権利を意識し、子どもの人権を尊重した態度で関わる

3. 実習場所 小学校・保育施設

4. 実習方法

実習場所	日	内 容	記録用紙
校 内		学内オリエンテーション 事前学習:記録No.4 子どもの発達段階によっておこる事故について 小学校記録No.2 小学校の概要・特徴 保育施設記録No.2 保育施設の概要・特徴	事前学習 No.4
保育施設 (4 日間)	1	保育施設オリエンテーション 各教室で過ごす子どもの基本的日常生活に関わる。 活動やあそびを通して子どもとコミュニケーションをとる。	保育施設 記録No.1、 No.2、 No.3(1 日 1 枚)
	2～3	各教室で過ごす子どもの基本的日常生活に関わる。 活動やあそびを通して子どもとコミュニケーションをとる。	
	4	各教室で過ごす子どもの基本的日常生活に関わる。 活動やあそびを通してコミュニケーションをとる。カンファレンス	
小学校 (1 日間)	1	小学校オリエンテーション 各学年の教室で過ごす子どもの基本的日常生活に関わる。 活動やあそびを通して子どもとコミュニケーションをとる。	小学校 記録No.1、 No.2、 No.3
校 内		リフレクション	

4. 実習中の注意事項

- 1) 守秘義務を守る。個人情報保護に対しての誓約書を記入する
- 2) 子どもに不安を与えない。子どもの安全・安楽に十分配慮する。
- 3) 自己の判断で行動しない。小学校・保育施設の指導者・教員へ報告・連絡・相談をする。
- 4) 健康管理に十分留意する。

5. 記録物について

- 1) 事前学習は指定期日に領域担当教員へ提出する。
- 2) 実習終了後、記録用紙・評価表(自己評価したもの)をファイルに入れ指定期日に領域担当教員へ提出する。

7. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。

- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 小児の生活を支える看護実習Ⅱ 】 1 単位 45 時間 3 年次

1. 実習の目的

子どもの成長・発達段階及び健康問題について理解し、子どもとその家族への看護の方法について学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成長発達段階及び健康問題に応じた看護を理解する
- 2) 健康問題が子どもとその家族に及ぼす影響を理解する
- 3) 子どもの成長発達段階に応じた安全・安楽な看護援助の方法を理解する
- 4) 子どもを取り巻く環境、及び保健・医療・福祉の動向について理解する
- 5) 子どもの権利の尊重について理解する

3. 実習方法

週	日	内 容	記録用紙
学内		学内オリエンテーション 事前学習(ワークブック)	共通用紙No.1 実習目標 小児記録用紙No.2 (1 日 1 枚) 小児記録用紙No.3 小児記録用紙No.4-① No.4-② 小児記録用紙No.5 小児記録用紙No.6 共通用紙No.9 リフレクションシート ルーブリック評価表
病棟	1	オリエンテーション 病棟実習	
	2	病棟実習	
	3	病棟実習 カンファレンス	
	4	病棟実習	
	5	病棟実習 最終評価・カンファレンス	

病棟実習中に、
小児科外来実習を
経験する。

4. 記録用紙

- 1) 指定された用紙を使用する

5. 実習中の注意事項

- 1) 小児と家族のプライバシーを保持すること
個人情報保護に対する個人の誓約書を記入する
- 2) 自己の感染症対策、健康管理を万全にすること
- 3) 事故防止に心がけること
所在を明らかにして行動する
報告・連絡・相談をすること
- 4) 実習にふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いをする
- 5) 実習グループとして協力すること

6. 提出について

- 1) 事前学習記録は 2 週間前までに担当教員に提出
実習課題用紙 実習計画用紙(初日のみの計画)は 1 週間前までに担当教員に提出
- 2) 指定された実習記録一式は、実習終了後1週間以内に担当教員へ提出

7. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 精神に障がいのある人の生活を支える看護実習 】 2 単位 90 時間 3 年次

1. 実習の目的

(人間のこころの健康増進と疾病予防への援助活動を理解し、)精神に障がいのある対象の理解と自立に向けたセルフケア向上への援助および地域で生活するための社会復帰に向けた看護の実践に必要な能力を習得する

2. 実習目標

- 1) 精神に障がいのある対象の言動の意味を考える
- 2) 精神に障がいのある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する
- 3) 精神に障がいのある対象のセルフケア維持と向上の為に必要な日常生活の援助を考え実施できる
- 4) 精神科病棟における治療的環境を理解し、対象の安全と自己の安全に配慮した行動ができる
- 5) 看護場面における自己の感情やその変化に気づき、自己洞察できる
- 6) 治療チームの一員として協力し、社会復帰に向けた必要な援助を考える

3. 実習方法

日 程	内 容
登校日	学内オリエンテーション 事前学習、実習の課題提出
初日 2日目 3日目 4日目 5日目	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟のオリエンテーションを受ける ・精神科病棟に入院中の対象との関わりを持つ(指導者の指示に従い、複数の対象と関わる) ※関わった対象で気になる場面があった際、指導者に確認し、カルテや看護記録あるいは対象との関わりから必要な情報を収集することでその意味を考える ・精神に障がいのある対象に対して、関わりを通して日常生活における必要な援助を行う。さらに関わった援助に対して振り返りを行い、次に活かす ・音楽談笑などのレクリエーションを計画し実施する ・精神に障がいのある対象との関わりで気になった場面をプロセスレコードにまとめ振り返る。 ・作業所での実習を通して、社会復帰に必要な社会資源やサポート体制について考える ※5日目頃に中間評価・中間カンファレンス
登校日	実習記録指導
6日目 7日目 8日目 9日目 最終日 (10日目)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師と共に援助を行い実施したことを振り返り、次の計画にむけ必要時修正する ・デイケアや訪問看護の見学を通して、精神に障がいのある対象に必要な社会資源やサポート体制について考える ・精神に障がいのある対象との関わりで気になった場面(上手く関われなかったことだけでなく、良い関わりができていたところも含め)をプロセスレコードにまとめ振り返る ・反省会(実習目標の達成度、精神に障がいのある対象との関わりを通しての学び、精神に障がいのある患者への看護についての気づき、自己目標の達成度) ・最終評価・最終カンファレンス

4. 実習中の注意事項

- 1) 対象のプライバシーを保持すること
- 2) 自己の個人衛生と精神保健に留意すること
- 3) 実習グループとして協力すること

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当教員へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 看護の統合と実践実習Ⅰ 】 1 単位 45 時間 1 年次

1. 実習目的 地域で療養・生活している対象を理解する

2. 実習目標

- 1) 地域で療養・生活している対象の身体的・心理的・社会的特徴を把握し、対象にあったコミュニケーションをとる
- 2) 対象の発達段階を理解し、加齢による機能低下や障害を持ちつつ自立を目指す対象の理解を深める
- 3) 施設における対象の安全に配慮された生活環境を理解する
- 4) 対象とその家族をとりまく保健・福祉・医療機関を知り、施設における多職種間の連携の重要性を理解する
- 5) 対象の尊厳及び権利を尊重した態度を身につける

3. 実習場所 介護老人保健施設・介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

4. 実習方法

	内 容	
高齢者スポーツ大会 1 日	補助員として大会に参加し、尊敬の気持ちを忘れないで対象とコミュニケーションをとる	
施設実習	1 日目	オリエンテーション(施設の概要)、施設見学 職員とともに日常生活援助見学・実施 利用者と積極的にコミュニケーションをとる (カンファレンス)
	2 日目 3 日目	行動目標を明確にして、実習に臨む 職員とともに日常生活援助見学・実施 利用者と積極的にコミュニケーションをとる (カンファレンス)
	4 日目	行動目標を明確にして、実習に臨む 職員とともに日常生活援助見学・実施 利用者と積極的にコミュニケーションをとる (カンファレンス) 4 日間実習の学びの会

5. 実習中の注意事項

- 1) 実習中知り得たすべての情報について口外しない(守秘義務)
- 2) 生活援助は、必ず職員とともに見学・実施する
- 3) 自己判断で行動することなく、指導者・教員への報告・連絡・相談を怠らない
- 4) 自身の心身の健康管理に十分配慮する

6. 記録物について

- 1) 事前学習は指定期日に領域担当教員へ提出する
- 2) 実習最終日、記録用紙・評価表(自己評価したもの)をファイルに入れ、実習指導者へ提出する

7. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 看護の統合と実践 実習Ⅱ 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

病棟管理や看護専門職としての役割を理解し、チーム医療における一員として医療・保健・福祉との連携を踏まえて、チーム医療に参加し、メンバーシップ及びリーダーシップとしての役割や多職種との連携・協働を学び、援助の優先順位を考え安全に看護を実践できる

2. 実習目標

- 1) 病棟管理の実際や他部門調整等の見学を通して看護管理の実際を学ぶ
- 2) 組織として安全で質の高い看護がどのように提供されているかを理解する
- 3) 対象に潜む医療事故の危険因子を総合的にアセスメントし、援助の優先度を考えながら状況に応じた看護実践ができる
- 4) チーム医療における他職種との協働の中で看護師の役割を理解する
- 5) 専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

日程	内 容
事前	事前学習提出 実習目標記入 初日の行動計画記入
0.5 日間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院管理や病棟管理、看護部と他部門との調整方法についてオリエンテーションを受け看護管理の役割を学ぶ ・ 院内での医療事故予防の組織的取り組み、医療安全対策指針、ヒヤリハットの内容や報告手段や、医療安全委員会の活動内容についてオリエンテーションを受ける
8・5 日間 (夜間 2 日間含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとりで複数の対象（2 名）を受け持ち、看護援助を実践する ・ 受け持ち対象の紹介、情報収集開始 ・ 複数対象の看護問題を抽出し、それぞれの対象の看護問題の優先順位を決定する ・ 複数対象のそれぞれの問題解決のための援助を計画し、複数対象の援助をして実施し、評価・修正して次の計画へいかす ・ 複数対象それぞれの退院調整や継続看護に必要な援助をふまえて看護要約を作成する <p>* 援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、事前に情報を得ながら状況に応じた援助を計画し実施する</p>
1 日間	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダー看護師と共に行動し見学・体験実習をする <p>チームメンバーへの連絡、メンバーの看護援助の進行状況の把握と調整の場面、チーム内での状況にあわせた協力要請と協力の場面を見学する</p>
夜間実習 2 日間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習前に、夜間体制や業務内容のオリエンテーションを受ける <p>夜間実習時間 16:00～翌日 9:00（仮眠含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師間の勤務交替時の申し送りを見学する ・ 夜間の対象の状態を把握する。（受け持ち優先） ・ 夜間を通して業務内容の実施や、複数対象の看護援助を実践する ・ 複数受け持ちの対象の情報を勤務交代時に学生間やチームで共有する
中間	中間評価 自己評価発表し目標到達状況について確認
最終日	最終評価 自己評価発表し目標到達状況について確認

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出

【 健康状態別看護実習 】 2 単位 90 時間 2 年次

1. 実習の目的：対象に応じた看護の実践を学び、看護援助の根拠から援助の必要性を理解する

2. 実習目標

- 1) 対象が受けている看護援助を見学または看護師と共に実施し、必要性を考えることができる
- 2) 対象が受けている看護援助と、対象の発達段階、基本的欲求と照らし合わせることができる
- 3) 対象との関わりや情報、看護援助から対象の健康障害及び治療を踏まえて科学的根拠を考えることができる
- 4) 看護専門職として、ふさわしい態度・言葉使いを身につける

3. 実習方法

日程	内 容
前日	事前学習 実習の目標と初日の行動計画を立てる
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける (病棟の機能、行われている看護援助、1 日のスケジュール病棟内配置 など)
2 日目以降	・看護師の援助のスケジュールに合わせ見学をする(または、看護師と共に実施) ・行った援助について、対象の反応や看護師の助言から、実施した援助の振り返りを行う ・改善や修正を行い次の援助に向け準備する ・見学や実施した援助の対象者の情報を収集する (入院時データベース、現在の行われている治療や病状の観察、看護援助)
5 日目 学内	・得た情報を基に実践・見学した援助を整理する(行った看護援助から、なぜその援助が必要だったのかを病態や、対象の健康状態を調べ結びつけて考える) ・行った看護援助技術を振り返り、改善点を確認する 中間評価(評価表に準じて評価を行う)
6 日目 以降	・学生 2 名で 1 名の患者を 4 日間担当する ・6 日目は指導者または担当看護師の観察や援助の見学をする ・7～9 日は、環境整備やバイタルサイン測定、他の看護援助は、指導者・担当看護師または教員と実施する ・受け持ち対象へ自己紹介をする ・看護師と共に受け持ち対象の援助に参加する ・見学や実施した援助の対象者の情報を収集する (入院時データベース、現在の行われている治療や病状の観察、看護援助) ・情報の整理や実施した援助の振り返りから、必要な援助の根拠を明確にする ・病棟の援助計画を参考にして、対象に必要な援助を考え行動計画に取り入れる ・実施した援助を振り返り、次回の援助に活かすことができるように記録を整理する ・行った看護援助の根拠を捉え記録する
最終日 (10 日目) 学内	最終評価(評価表に準じて評価を行う) ・助言を基に記録等を修正する 情報共有会 ・グループごとに、実習全体を振り返る ・テーマに沿って振り返りをまとめる

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間を厳守する
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 担当教員から指示された記録物をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。